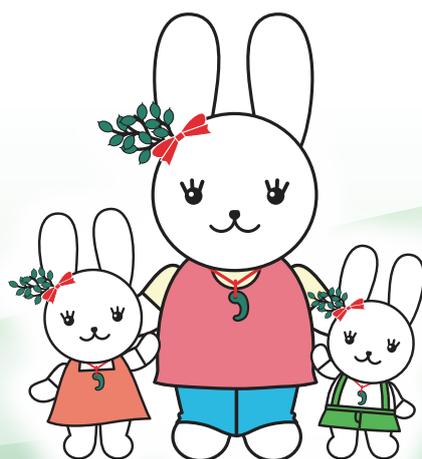


令和6年度文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・
発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

人と人とのつながりを大切にした 多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト

研究成果報告書

令和7年2月



國學院大學

人間開発学部 子ども支援学科

令和6年度文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・
発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

人と人とのつながりを大切にした
多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト

研究成果報告書

令和7年2月

國學院大學

人間開発学部 子ども支援学科

はしがき

本報告書は、令和6年度文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」において、國學院大學が委託を受け実施した「人と人とのつながりを大切にしたい多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト」の成果をまとめたものです。

令和5年度の保育職の有効求人倍率は、全職種1.19と比較し幼稚園教諭で2.49、保育士で2.47と高止まりの状況が続き、人材の需要は高いにもかかわらず保育者の供給が追いついていない状況が続いています（文部科学省，2024）。こうした背景には、保育者養成課程に入学を希望する高校生が減っていること、また、養成課程に入学しても他業種へ就職する学生が増えていること、就職しても勤続年数が短く、結婚や出産などで一度離職した者の再就職が少ないといったことが指摘されています。一方で、幼児期と幼小接続期の教育の質の向上が世界各国で求められる中、日本においても専門性の高い保育者の育成が喫緊の課題となっています。保育職の抜本的な人材不足の解消と共に高い専門性をもつ保育者を育成していくという二律背反的ともいえる両課題の解決に同時並行して取り組むため、本学では文部科学省の委託を受け、令和5年度に「養成校を核とした幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発」をテーマに、保育職の魅力を広く社会に伝える取組、保育者養成課程の教育の充実を図る取組、また保育者として継続的に働き続けられる資質能力の向上を図る研修等を実施してきました。

令和6年度はその成果と課題を生かし、「人と人とのつながりを大切にしたい多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト」を立ち上げ、人間開発学部子ども支援学科の教員全員が参画し、高校生から養成校生、保育者に至るまで、人と人とのつながりを大切にしたい対面での支援を重視し、切れ目のない、質の高い保育者のキャリア形成を支援する多層型のプロジェクトに取り組みました。2年に渡る子ども支援学科の取り組みの蓄積が反映された本報告書が、質の高い幼児教育を担う保育者の養成とキャリア形成、そして幼児教育の質向上に資することを願って止みません。

本プロジェクトの全事業にご協力を下さった関係各位に対し、深く御礼申し上げます。

令和7年2月

研究代表 國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授 吉永 安里

目 次

はしがき

第1章 研究概要（事業全体概要）	1
I. 課題背景目的	1
II. 本事業の目的	3
第2章 研究報告	5
I. テーマ①小中高生を対象とした職の魅力発信	5
1. 取組 A 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演（高校への出前授業） 概要、実施報告	5
アンケート結果	34
2. 取組 B オープンキャンパスを活用した模擬授業や個別相談	45
3. 取組 C 養成校生によるキャンパスツアー（多層型交流の機会の設定）	49
4. 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（二次分析）	51
II. テーマ②養成校生を対象としたキャリア形成支援	60
1. 取組 D OBOG などとの交流会	60
2. 取組 I 養成校生が自ら幼児教育の「職」の魅力を考え、発信する取組	64
III. テーマ③ 現職のOBOGを対象としたキャリア形成支援	68
1. 取組 J 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施や幼児教育の専門的知見に 基づく相談の対応（茶話会） 取組 K 体系的な現職研修の機会の確保	68
2. 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（二次分析）	76
第3章 事業全体のまとめ	87
I. スケジュール	87
II. 事業の成果	90
III. 事業の課題と今後の展開	91
資料	94

第1章 事業全体概要

I. 本事業に取り組むにあたっての課題背景

近年、保育者養成課程を有する学部・学科への志願数は減少の一途をたどり、大都市圏、地方に関わらず全国の保育者養成課程を有する大学・短大が募集停止、学部・学科改組、募集定員の削減を余儀なくされている。入学定員を維持していても、志願者全入に近づいている養成課程も多く、学生の質の低下、ひいては保育者の質の低下が懸念される状況にある。

本学國學院大學人間開発学部子ども支援学科の一般選抜試験においても、2019年には650人いた志願者は2023年まで年々減ってきており、他養成校と同様の問題を抱えている。そこで2022年度より、本学進学に関心の高い高校生を対象にオープンキャンパスの内容を充実させたり、より広い高校生対象に幼児教育・保育職の魅力を知らせるため、学科独自のYoutubeチャンネル「子ども支援10min.」（國學院大學人間開発学部子ども支援学科channel：<https://www.youtube.com/@kokugakuin-kodomoshien>）を立ち上げたりし、大学や学科の入試に関するPRだけでなく、学科教員が各自の専門領域や児童文化財である絵本の魅力について広く社会に伝える取り組みを行ってきた。更に2023年度には、文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」の委託を受け、より広く多様な層へ保育職の魅力や意義を発信するプロジェクトを行った。高校への出前授業で養成校の教員が保育職の魅力や意義を高校生や高校の進路指導担当者に伝えたり、オープンキャンパスで養成校教員と養成校生が高校生に養成校や保育職の魅力や意義を伝えたり、OBOGの現職保育者から養成校生へ保育職の魅力や意義を伝えたり、OBOGの現職保育者を対象に養成校教員が保育研修や茶話会を行い保育職の意義について改めて考える機会を設けたりといった多層型の取り組みである。こうした高校生、養成校生、現職保育者、進路指導担当者といった人と人が関わり合う多様な層への働きかけが功を奏し、2024年度入試においては46名志願者を増やすという成果を挙げている（※子ども支援学科の入学定員100名のところ総志願者数496名）。

また、2023年度事業においては、上記取り組みのほかに、全国の高校生と現職保育者に対する進路や保育職に対する意識調査を行い、保育者養成課程の志願者減、保育職への就職率の低さ、離職率の高さの原因を考察してきた。そこに見られる本事業に取り組むにあたっての課題背景は以下の通りである。

1) 保育職についての正しい情報と魅力発信

吉永・鈴木・島田・野澤・青木（2024）は、令和5年度文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」において作成した『幼児教育のプロフェッショ

ナリズム育成プログラムの開発研究成果報告書』において、全国の高校生を対象とした調査で「幼稚園・保育所の先生になりたい」（思う・少し思う）が全回答者のうち 16.4%いるにもかかわらず、実際に保育者養成課程に進学を希望する高校生は 5.4%程度であることを明らかにしている。高校生は、保育職を志望しない理由として、ほかにやりたい仕事があるというものを除けば、「給料が良くなさそう」「忙しそう」「イメージがあまりよくない」など保育者の処遇の低さや社会的イメージに言及している。

この調査結果から、高校生が進路を決める段階で、高校生や高校の進路指導担当者に、保育者の処遇改善に対する正しい情報発信や、保育職の魅力積極的に発信することが効果的であると考えられる。更に、意識調査では高校生からも若手保育者からも、保育職の魅力高める工夫や取組について SNS 等を通じた保育者の魅力発信が有効であるとの意見が多数みられた。出前授業やオープンキャンパスといった限定された対象者だけではなく、広く社会に保育者の魅力や保育を学ぶ魅力を伝える動画を SNS 発信することが、保育職に対するイメージ改善や保育・幼児教育分野への進学希望の向上に一層拍車をかけると考える。

2) 保育職定着のための取り組み

また、保育者不足の深刻化の背景として、保育者の離職率の高さが指摘されている(庭野, 2020)。これまでの調査(文部科学省, 2021; 東京都福祉保健局, 2019)と同様、吉永ら(2024)の若手幼稚園教諭・保育士を対象とした調査においても、仕事上の悩みや退職希望理由として「給与の安さ」「業務負担」が挙げられており、養成校教員が処遇改善に関して詳細な調査結果をもとに更に国に働き掛けていくと共に、処遇改善が各園において適切に執行されているか点検することが求められる。一方、吉永ら(2024)の調査では、保育職確保・定着の方法として、「職場の人間関係」「新人の育成・指導強化」「キャリアアップの仕組みづくり」「精神的サポート」も必要であることが示唆されており、保育者が職場の豊かな同僚性を実感できるような仕組みや職業適性の自覚を促し保育効力感を上げる仕組みとしての研修が保育者の在職意欲の向上や離職防止に効果がある(保育教諭養成課程研究会, 2016; 有松・那須, 2023)だけでなく、メンターによる精神的サポートが求められている(吉永ら, 2024)。

本学では、2021年度には新卒だけを対象とするフォローアップ研修、2023年には現職保育者を対象とする年1回の研修を行ってきたが、より一層の継続的なキャリアアップのための研修、また、日頃からの保育の悩みを相談できる精神的サポートとなるような養成校教員と現職保育者との少人数で気楽に話ができる取り組みを行っていくことが必要であると考えた。

3) 安心して保育職を目指せる仕組みづくり

本学では、入学当初は保育職を希望する学生がほとんどであるが、一般就職に変更する学生が例年 30%前後いる。吉永ら(2024)の若手幼稚園教諭・保育士を対象とした調査において、保育者を目指す人を増やすために必要な取り組みとして「処遇改善」「社会的地

位の向上」のほかに、「実習・インターシップ・職業体験の充実」「保育職を目指す人のための説明会の実施」「地域の幼稚園・保育所等の情報提供」「保育職の魅力を広めるイベントの開催」「オープンキャンパスの充実」などが挙げられている。また、吉永ら（2024）が文部科学省の委託研究で行った OBOG の現職保育者と実習前の養成校生の懇談会が大変好評で、もっと時間を取って話を聞きたかった、保育所実習や施設実習前、就職前にも聞きたいといった養成校生からのアンケート回答もあり、保育職に就くまでのプロセスの中で行われる実習やインターンシップに安心して臨み、その経験が充実したものとなるよう、こうした転換点で OBOG の現職保育者から保育職の実際（苦労だけではない魅力、処遇改善が進んでいる実態等）を聞けるようにすることが保育職への就職率を上げることに効果があると考えられる。

【引用文献】

- 有松徹・那須信樹（2023）保育者の在職意識にかかる一考察：同僚性と保育者効力感の視点から 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要（55）7-12.
- 庭野晃子（2020）保育従事者の離職意向を規定する要因 保育学研究 58（1），105-114.
- 文部科学省（2021）令和元年度学校教員統計調査（<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400003&tstat=000001016172>：2025.01.05 閲覧）
- 東京都福祉保健局（2019）平成30年度東京都保育士実態調査報告書（<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/shikaku/30hoikushichousa.html>：2025.01.05 閲覧）
- 保育教諭養成課程研究会編（2016）「養成から現職への学びの連続性を踏まえた新規採用教員研修」 保育教諭養成課程研究会
- 吉永・鈴木・島田・野澤・青木（2024）は、令和5年度文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」において作成した『幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発研究成果報告書』

Ⅱ. 本事業の目的

上記の課題背景から、本事業の目的を以下の3つとする。

1) 保育職についての正しい情報と魅力発信

高校生を対象とした保育職の魅力発信として、本学教員が高等学校へ赴き、幼児教育の重要性に関する出前授業を行ったり、オープンキャンパスにて高校生と養成校生との交流の機会を設けたり、養成校生や養成校教員による動画配信を行い、中高校生や保護者にも保育職や保育を学ぶ魅力を広く知ってもらい、進路選択に役立つ情報提供を行う。

2) 保育職定着のための取り組み

現職教諭を対象としたキャリア形成支援として、経験年数にかかわらずOBOGの現職保育者を対象としたホームカミングデーを実施し、その中で、保育の現代的課題についての継続的に研修を受けられる機会を設けたり、大学教員に相談できる茶話会を行ったりする。保育効力感を上げ保育職への定着を図る仕組みづくりを開発する。

3) 安心して保育職を目指せる多層的な関係性と対話を生む仕組みづくり

養成校生を対象としたキャリア形成支援として、OBOGの現職保育者と養成校生との交流会を実習前の2年生と実習後の3年生を対象に開き、養成校生が保育職の実際とその魅力を知り、保育職を目指す際の不安を払拭できるようにする。

第2章 各取り組みの実施

I. テーマ①：小中高生を対象とした職の魅力発信

1. 取組A 「保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演」

取組内容 小中高生に対する保育体験等の現場体験の機会の提供や、幼児教育の意義等に関する出前授業の実施を通じて、幼児教育や幼児教育を担う人材の質的向上の重要性や幼稚園教諭の職の魅力を発信することにより、幼稚園教諭を目指す学生の裾野を広げる。

取組対象 令和6年度は、高校生を対象とし、8月27日から12月26日の期間において、1都5県、20校において実施された（表2.1.1）。

表2.1.1 出前授業の一覧（タイトル、講師名、実施先、実施日、資料番号）

授業タイトル	授業者	実施先	実施日	資料番号
遊びは学び ～自然あそびがなぜいいか～	青木康太郎	國學院高等学校	8月27日	1
保育士の仕事を知らう	廣井雄一	國學院高等学校	8月27日	13
子どもは町でどう育つのか ～子どもが育つ地域をどうつくるのか～	夏秋英房	國學院高等学校	8月27日	14
子どもは町でどう育つのか ～子どもが育つ地域をどうつくるのか～	夏秋英房	湘南学院高等学校	10月18日	14
保育っておもしろい 食べること・遊ぶこと	鈴木みゆき	東京学館浦安高等学校	10月28日	4
絵本の読み聞かせに挑戦しよう	吉永安里	麻布大学附属高等学校	11月12日	10
保育っておもしろい 食べること・遊ぶこと	鈴木みゆき	本庄第一高等学校	11月20日	4
特別な支援の必要な子どもへの臨床発達心理学からの保育支援 ～疑似体験を通して多様性について考えよう～	野澤純子	東京農業大学第三高等学校	11月20日	6
遊びは学び ～自然あそびがなぜいいか～	青木康太郎	國學院大學久我山中学高等学校	11月28日	1
赤ちゃんと遊んでみよう	塩谷香	目黒日本大学中学校高等学校	11月29日	2
『表現』紙を使って創造的な遊びを考える	島田由紀子	八雲学園高等学校	12月2日	3
『表現』紙を使って創造的な遊びを考える	島田由紀子	昭和第一高等学校	12月4日	3
幼児教育・保育と心理学 ～子育て支援のプロフェッションなる～	柳生崇志	八千代松陰高等学校	12月6日	7
保育士の仕事を知らう	廣井雄一	茨城県石岡第二高等学校	12月6日	14
子どもの発達を支える幼稚園教諭等の専門性	山瀬範子	國學院大學栃木中学高等学校	12月9日	8
『表現』紙を使って創造的な遊びを考える	島田由紀子	茨城県牛久高校	12月12日	3
保育っておもしろい 食べること・遊ぶこと	鈴木みゆき	横浜女学院高等学校	12月12日	4
障害のある幼児と教材・おもちゃ	野澤純子	文化学園杉並高等学校	12月13日	6
日本の子育ての現状と課題について	結城孝治	都立広尾高等学校	12月13日	9
赤ちゃんと遊んでみよう	塩谷香	元石川高等学校	12月16日	2
言葉の育ちと絵本	吉永安里	都立豊多摩高等学校	12月17日	11
教育を研究する：特別な支援を必要とする乳幼児の保育	野澤純子	渋谷教育学園渋谷中学高等学校	12月26日	5
これからの保育・教育を考える	吉永安里	渋谷教育学園渋谷中学高等学校	12月26日	12

取組のポイント 本事業を定着させることを重視し、昨年に引き続き、実施された高校を中心に、幼児期の教育に関わる事項（遊び、発達と学習、創作活動、教育方法、健康、職務、子育ての現状、接続期、特別支援教育）を取り上げ、実施した。テーマの内容については、担当者の専門性を活かしながら、高校生に幼児期の教育・保育の魅力が伝わるよう、各担当者において調整が行われた。

取組の実施体制 取組Aのリーダーである鈴木みゆき教授を中心としながら、出前授業先

の高等学校とは、本学入学課員による基本的な連絡調整（実施日時の調整、高校の担当者の連絡先交換等）を行った。その後、日程のあう教員を募り、担当となった本学教員が訪問先の高校の担当教員と連絡をとり、出前授業のテーマの内容の調整を行い、当日実施した。

No.1

体験授業

遊びは学び

～自然遊びがなぜいいのか～

國學院大學 青木 康太朗

どろだんごづくり

きれいなだんごをつくりたい!

Aちゃんは、上手にどろだんごを作っているお友だちをみて、自分も「きれいなどろだんごをつくりたい!」と思っていました。



最初は思うようなどろだんごをつくれませんでした。何度も作っているうちに、きれいなどろだんごをつくることができました。

「つくりたい」と思ってから「きれいなだんごがつかれる」まで、Aちゃんはどんなことを考えたり、思ったりしていると思いますか?

遊びを通して、何かを**考えたり**、**やってみたり**することが大きな**学び**になっている!



では、**遊び**を通じて**どういう力**が**身**についているのでしょうか?

どろだんごづくり

きれいなだんごをつくりたい!

意欲・主体性

どうしたら固くてまん丸のだんごが作れるのかな?

好奇心

思考力・創造力

こうしたらうまく作れるかな?

挑戦心

ちょっとやってみよう

非認知能力

こうしたらいいのなあ...分かったぞ!

自己肯定感

あ〜、ダメだ...どうしたらうまくできるかな?

探究心・課題解決力

やった!できた!!

達成感・充実感

〇〇ちゃんはあるなふうにしてるのか...。僕もやってみようかな

観察力・吸収力・柔軟性

じゃあ、今度はこうやってみよう!

粘り強さ・やり抜く力

〇〇ちゃんに聞いてみようかな

コミュニケーション力

非認知能力

人が人としてよりよく生きるために必要な力

認知能力

読み・書き・計算など数値化できる力

1. 自分の感情をコントロールする力

強い意志 忍耐力
自制心 対応力

2. 人とうまく関わる力

協調性 コミュニケーション力
誠実さと思いやり 社交性

3. 目標に向かってがんばる力

意欲 根気
やる気 粘り強さ

4. 苦難を乗り越える力

粘り強さ チャレンジ精神
立ち直りが早い やり抜く力

引用: 原坂一郎監修「3〜6歳児のあそび図鑑」

非認知能力

人が人としてよりよく生きるために必要な力

認知能力

読み・書き・計算など数値化できる力

- ✓ 遊びの中で、文字を書いたり、数を数えたりすることもある。
- ✓ 書いたり、読んだり、数えたりすることができれば、**遊びの幅が広がり、内容も充実**するため、**必要だから学ぶ**という状況が生まれる。
- ✓ 覚えた言葉や文字、数を**遊びや生活の中に取り入れ、使いこなして**いくことで、認知能力が自然と身についていくようになる。



教えて覚えるのではなく、**覚えたいから教えてもらう**



子どもの生活の中心は遊びであり、
 子どもは**遊び**を通して**学び**、**成長**していきます。
 とりわけ…
 幼児期の**自然遊び**は心身の健やかな成長において
 欠くことのできない大切な**経験**になります。

自然は子どもの感性を刺激する

自然には…

- ✓ 人間にはまねのできない**造形**の**美しさ**や**魅力**があり、**生物**の**営み**は**神秘的**で、科学では説明できない**不思議**や**驚き**にあふれています。
- ✓ 幼児にとっては、身近にあるささやかな自然であっても、はじめて目にするものも多く、「これ、なに?」「すごくきれい!」「なんで、こうなの?」「これ、やってみたい!」など、幼児の**遊び心**をくすぐり、**好奇心**や**探究心**を刺激する素材が豊富にあります。



身近な環境にある**様々な物事**に目を向け、**好奇心**や**探究心**をもって自ら関わるようになることは、その後の**学ぶ力**につながってきます。
 幼児期の自然遊びは豊かな人間性をはぐくむだけでなく、**小学校以降の学習の土台づくり**にもなっているのです。

大自然に行かないといけなの?

幼児と一緒に自然遊びをする場合、無理して**大自然に行く必要はない**
 近所の公園や広場など、身近にある自然の中で、走り回ったり、木登りをしたり、花摘みをしたりしながら、**自然に触れる機会をたくさんもつ**ことが大切
 自然の中で遊び慣れていない子どもは、はじめての大自然より、**遊び慣れた身近な環境のほうが安心して**のびのびと遊ぶことができる



身近な自然で豊かな感性をはぐくむ

幼い頃は、
 日差しの暖かさや風の冷たさ、木の温もり、花の香りなどを肌で感じることで五感が刺激され、**豊かな感性**が養われていく
 自然の不思議さに気づき、素朴な疑問をもつことで**好奇心**が高まり、物事に対する**探究心**が芽生えてくるようになる
 身近な自然の中で、**心動かされる体験**(驚きや感動など)を重ねることで、**豊かな感性**をはぐくんでいくことが大切



子どもと一緒に自然遊びをするときは…

- ✓ 子どもと一緒に**楽しむ!**
- ✓ 子どもの楽しいという気持ちに**共感する!**
- ✓ 子どもに楽しむ姿を**見せる!**



気をつけてほしいこと…

- ✓ 子どもの楽しい、おもしろい、不思議を**否定しない!**
- ✓ すぐに答えを出そうとしたり、**教えたりしない!**
- ✓ 危ないこと、汚いことを何でも**禁止しない!**

No.2



赤ちゃんとお遊んでみよう～

赤ちゃんを理解して、楽しい
コミュニケーションを！
遊びは心の交流、赤ちゃんの心の栄養です～

赤ちゃんとは？

- * 生後～1年 乳児
- 生後～3か月 首がすわる、3か月微笑
- 4, 5か月～寝返りをする、声を上げて笑う
- 6, 7か月～ずり這い、お座り
- 9か月～よつ這い
- 10か月～つかまり立ち
- 12か月～一人立ち、一人歩き
- * **個人差**が大きい！

* 生きていくうえで大切な「**基本的信頼感**」を経験
(身近な大人との関係) の中で育んでいます




ところで・・・




人間の赤ちゃんは・・・




1歳頃の発達

- ・自分にかける言葉の意味がわかって行動しようとする
- ・ほめられるとうれしい、しかられるとかなしい、というような感情もはつきりする
- ・自分に関心をもって笑顔を向けてくれる大人にはこたえようとする(初めての人には時間が必要)




発達の不思議？

① いらないないばーはなにがおもしろいのか？

② どうして箱のティッシュペーパーをなくなるまで出してしまおうのか？



赤ちゃんとお心の交流をしましょう！

赤ちゃんは自分に関心をもって笑顔を向けてくれる大人を信頼し、笑顔で答えてくれます～

遊びは交流できる楽しい方法です、赤ちゃんと一緒に心から楽しんでください！




わらべうたで遊ぼう！

♪長いあいだ伝えてきた伝えられてきた
♪リズムやメロディがかんたんでだれでもうたえる
♪道具も準備も練習もいらない
♪お金もかからない
♪赤ちゃんと大人のスキンシップができる
♪なにより赤ちゃんが大喜び！
♪大人も心地よい

ちやちやつぼちやつぼ ちやつぼにやふたがない
そこってふたにしる

おてらのおしょうさんがかぼちゃのたねをまきました
めがでてふくらんではながさいたら・・・

ときよとにほんばしがりやの
ばんやさんとつねこさんが
かいだんのほってちよちよちよ

赤ちゃんとやってみましょう ふれあい遊び

♪こーこはとうちゃんにんどころ、こーこはかあちゃんにんどころ
こーこはじいちゃんにんどころ、こーこはばあちゃんにんどころ
ほそみちぬけて だいどうだいどう こちよこちよこちよ

♪いちりにりさんり～しりしりしり～

♪うまはとしとし ないてもつよい
うまはつよいから～ちゃんもつーよーい
としとし



赤ちゃんと遊んでみよう～

赤ちゃんを理解して、楽しい
コミュニケーションを！
遊びは心の交流、赤ちゃんの心の栄養です～

No.3

『表現』 紙を使って創造的な遊びを考える

國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科 島田由紀子

子ども支援学科での表現に関する学び

子どもの表現は「造形表現」「音楽表現」「身体表現」等と区別されていません。子どもの発達による「表現（表出）」を見出し、さらに育むために、その子どもの「表現」に応じたアプローチが大切です。子どもの表現と発達を理解しどのように指導するのか考える、子どもの表現を支えるために、表現に関する知識・技能・表現する力を身につけること、について学びます。

子どもの表現を理解し、
子どもの表現を育むため
の指導について学ぶ
・子どもの表現から読み取り
・発達の理解
・子どもの表現を支える方法
など



表現に関することを 習得する

- ・表現に関する知識
- ・表現に関する技能
- ・表現力を身に付ける
など



1. 子どもの紙を使った遊びを見てみましょう。
 クラスの友達や保育者と一緒に遊ぶことで
 どのような良い影響があるでしょうか。

- (1) 「家庭での遊び」と「幼稚園、保育所等」の相違について考えてみましょう。
- (2) 子どもの表現を見てみましょう。
- (3) 保育者（幼稚園教諭・保育士）の役割を考えてみましょう。



⇒さまざまな素材を使って子どもの表現を拡げることが保育者の役割のひとつです。

描く、作る、歌う、踊る等を通して、子どもの楽しい気持ち・もっとやってみたい気持ち、不思議に感じる事、工夫してみようと思うこと、友達との違いを知り自分の表現・友達の表現を大切にすることが大切です。



2. 紙を使って遊んでみましょう。

保育者（先生）は子どもたちに働きかけます。例えば・・・

- (1) 新聞紙は感触？
- (2) どんな匂い？
- (3) 新聞紙はどんな音？

どんな答えも正解！ いろいろな言葉の表現を引き出します。

自分の表現、他者との表現との相違に気づき、自分も友達も尊重できるように工夫します。

フリスビーを作りながら遊びを考えてみましょう！



材料：新聞紙、クリップ、セロテープ、ビニールテープ、サインペンなど



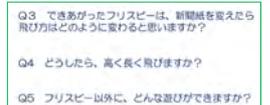
強い紐を付けて、セロテープでめれば出来上がりです。



Q1 この紐でどんな遊びができますか？ひとりの遊び、グループでの遊びなどを考えて、遊んでみましょう。



Q2 この紐を使って、どんな遊びができますか？ひとりの遊び、グループでの遊びなどを考えて、遊んでみましょう。



Q3 できあがったフリスビーは、新聞紙を変えたら飛び方はどのように変わるとおもいますか？

Q4 どうしたら、高く長く飛びますか？

Q5 フリスビー以外に、どんな遊びができますか？

まとめ

- ・作る過程、出来がったフリスビーの形から見立てて、遊びを広げてみましょう。
- ・素材そのものを変えたり、大きさや厚さを変えたら、フリスビーとしての飛び方に変化があるのか確認してみましょう。
- ・子どもが作る時、遊ぶときに、どのようなこと（特に安全性）に留意する必要があるか考えてみましょう。

再確認！

⇒さまざまな素材を使って子どもの表現を拡げることが保育者の役割のひとつ！
 描く、作る、歌う、踊る等を通して、子どもの楽しい気持ち・もっとやってみたい気持ち、不思議に感じる事、工夫してみようと思うこと、友達との違いを知り自分の表現・友達の表現を尊重することが大切です。

No.4

保育って面白い 食べること・遊ぶこと

國學院大學 鈴木みゆき

保育 去月

トピック 1 幼稚園・保育所、こども園って
どんなところ？

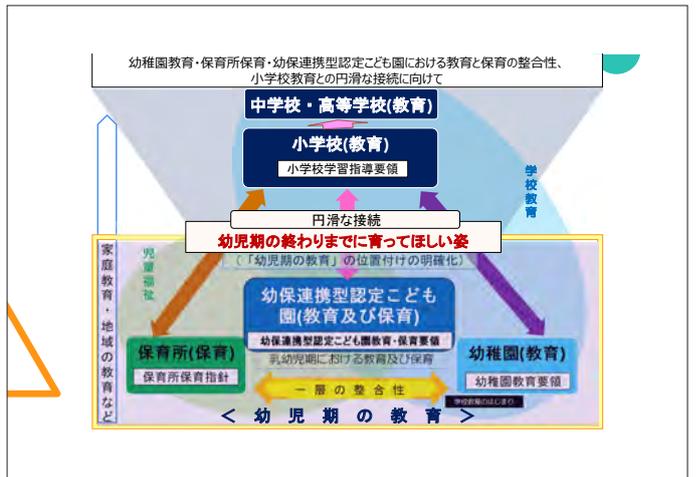
トピック 2 子どもの食をめぐる問題

トピック 3 保育は面白い！

1. 幼稚園・保育所ってどんなところ？.. あなたはいかがでしたか？

○園生活時代の思い出
その時の感情（顔）を選んでください。

○幼稚園や保育所の先生のイメージを
一言書いてください。



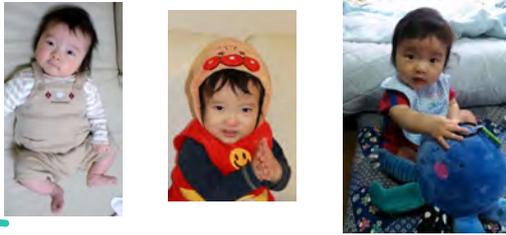
日本における乳幼児の就学前教育施設

施設種別	所管文部科学省 児童福祉法に基づく学校	厚生労働省 児童福祉法に基づく児童福祉施設	内閣府・文科省・厚労省 幼保連携型認定こども園 幼保連携型認定こども園
目的	「幼稚園は、幼児教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を養育し、生活の豊かな成長のために適度な取組を考慮し、その身の発達を促進することを旨とする。」(学校教育法第22条)	「日々施設等の開放を受けて、保育を必要とする乳児又は幼児を保育すること」(児童福祉法第99条)	幼稚園及び保育所等における小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を統合的に実施。(子ども・子育て関連3法)
対象	園児から小学校就学前の幼児に該当するまでの幼児(中学校等29歳)	保育を必要とする、乳児・幼児(児童福祉法第99条)であるが、一時的に不足した、子育て支援として、2歳児等0歳~5歳の乳児、幼児が対象となっている。不足に対応した施設等を提供する。	保育に欠ける子どもを受け入れて、保育・養育を一体的に行う。すべての子育て支援を対象に、子育て
	幼稚園教育要領	保育所保育指針	幼保連携型認定こども園教育・保育要領



乳児（0歳児）の保育

①健やかに伸び伸びと育つ②身近な人と気持ちを通じ合う③身近なものかかわり感性が育つ



7

母乳 離乳食 偏食 好き嫌い 食わず嫌い 孤食
 欠食 孤欠個固 食育 栄養 貧困 子ども食堂
 手づかみ食べ 箸 食器の使用
 ままごと 栽培 収穫 調理
食
 生活リズム 虫歯 味 におい
 SDGs アレルギー お手伝い 絵本 歌 排泄

2. 子どもの「食」をめぐる現状と課題



9

食べるー食べさせるは信頼関係の始まり



○保育所保育指針

・食に関するねらいと内容

★1~3歳児

健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。

10

3. 保育は面白い

・〇〇やさんになりたいな

◎保育者の役割は？

★準備するもの

- ・「商品」を作る素材は？
- ・「商品」を作る場所は？
- ・「商品」を売る場所は？
- ・売り言葉・買い言葉



11

ありがとうございました！

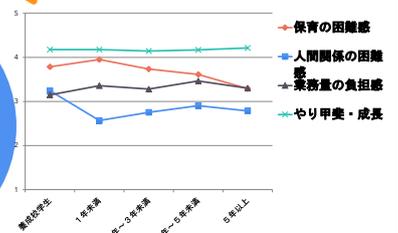


図1 職能上の困難の変化；平成27年度文科省委託研究

12

 国学院大学
 No.5
 講座名: 教育を研究する
特別な支援を必要とする乳幼児の保育
 国学院大学人間開発学部
 子ども支援学科
 野澤純子
 1. 自己紹介、キャリアと研究テーマ
 2. 私の研究における共通の視点
 3. 現在の研究テーマ
 4. ワークショップ 人を理解する
 多様性について疑似体験を通して考える



最初の問いにつながった疑問

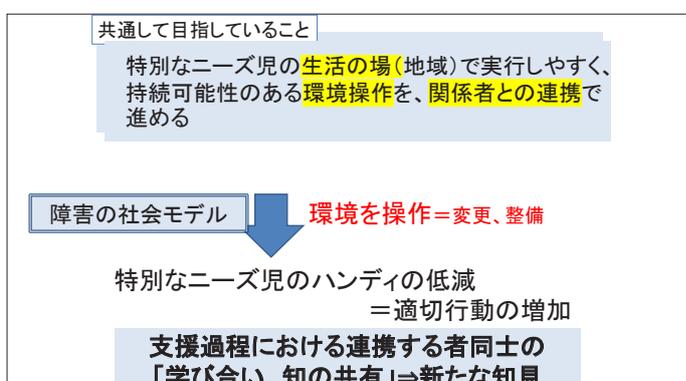
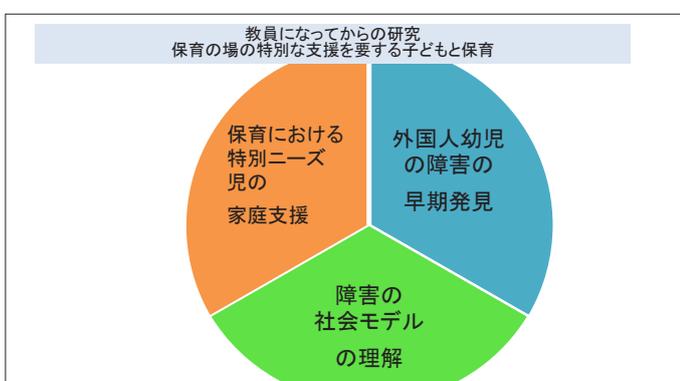
障害のあるAちゃんとの関わりの中での疑問

- なぜ、Aちゃんはこんなにづらい思いをしなくてはならなかったのか？
- なぜ、Aちゃんは私に関わることで、こんなにも改善したのか？

事実があるのに、理由(答え)がわからない

大学院 テーマ選定の段階
 やっと見つけた支援方法 → 保育の現場で生かしたい
巡回相談における「特別ニーズ」保育への保育士参加型による専門的支援の提供方法
 従来のティーチャートレーニング研究の知見
 + 専門的知見の移転におけるエンパワメントの視点
 を取り入れた地域での実証研究

研究の問い
 = 容易には見つからない、たどり着かない
 自分の中にある様々な疑問に向き合ってみる
 → 答えが見つかるもの、答えを見つけなくてもよいものに気づく。
 * そこで終わらずに
 残った 疑問や気になることに目を向ける →  **問いに近づく**



保育における障害の可能性のある外国人幼児の
早期把握と支援に関する研究

特別な支援につながりにくい外国人幼児の増加

- ◆乳幼児健診のみでは早期発見が困難
- ◆保育現場における、障害の可能性のある外国人幼児の発見と支援の研究が不十分

保育所等による、特別な支援につながりにくい
外国人幼児の実態に基づく、早期発見と適切な
支援方法の研究の必要性

背景 外国人幼児の研究を組み入れた理由 1

問題1.

障害がないのに、知的障害とみなされてしまう。
(外国籍は通常の2倍の特別支援学級在籍率など)

問題2.

一方で、外国籍だから、障害ではなく、言葉や異文化の影響。そのうち追いつくだろう。

→ 障害があるが、見落とされる。発達支援の機会を逃す

幼児期に見極めることはできないか？

→ 言葉が通じない、文化が違う、だから困難だ

外国籍幼児と接する際の思い込み

現場、日常生活での経験から分かったこと

- ・障害特性のうち、行動面を見ることによる判別は可能だろう
- ・観察者の思い込みが早期発見の阻害要因としてあるだろう

調査してわかったこと

ワークショップ テーマ
人を理解するー教育、学校生活の視点からー

多様性が大切、とはいうけれど、
私たちは本当に相手の立場になって深く考えているだろうか？

WHOによる障害の考え方 ICF

もし目が見えにくく、聞こえにくい
生徒がいたら・・・

- この学校の何をどうしたらいい？
教育（授業）の方法
学校の物理的環境
- 実際にやってみる 疑似体験

障害とは(社会モデルの考え方)

- 障害のある子ども自身にあるものは、心身の状態のみ(知的障害、視覚障害・・・)

≠ 生活上の障害

- 生活上の障害(障壁、バリアー)
=周囲の人的・物的な環境との相互作用によって生じている。

障壁(バリアー)となっている環境を変化することで生活上の障害を軽減していく

No.6

障害のある幼児と教材・おもちゃ -障害特性に合わせた発達支援-

國學院大學
野澤純子

今日の予定

1. 特別な支援の必要な幼児とは
2. 障害児と遊び
3. 教材を通じた特別支援
(1)疑似体験(2)教材の紹介

障害のある幼児と遊び

幼児は、自発的・主体的な遊びを通して発達する
障害があると・・・

1. 体の動き
移動、手の動き、目の動き、姿勢
2. こころの動き
意欲、集中、自信

特別な配慮が必要

「わかる」「できる」っていいな！

•子どもがわかる・できる環境や保育の手立て

⇒ 子どもの発達や障害の特性に適した教材・教具（おもちゃ）の活用

疑似体験をしてみましょう！

1. 見えにくさの体験
2. 不器用さの体験

見えにくさと無器用さのある幼児のために
何ができるか？（環境因子を考える）

障害のある子どもの教材・おもちゃの紹介

視覚・聴覚障害児者とおもちゃ

共遊玩具とは

「盲導犬マーク」「うさぎマーク」

特別な配慮の例：みてわかる教材編

おわりに

特別支援の教材・おもちゃ、それを使用した関わりは、
目の前の子どもが生き生きと自発的に生活、活動する
ために取り入れるもの。

- 子どもの発達を促すもの
- 子どもの困難を解消するもの

先生にとっても、保育を進めやすくなる！

特別な支援の必要な子どもへの
臨床発達心理学からの保育支援

—疑似体験を通して多様性について考えよう—

國學院大學
野澤純子

- 目標:保育における多様性の支援について理解を深める
1. 自己紹介と事例紹介
 2. 多様性を理解する—障害の疑似体験 から理解を深めよう

❀ さくら保育園の様子 ❀

さくら保育園では、運動会に向け、子ども達が園庭で開会式の練習をしています。
子ども達のなかには、少し様子が気になる子ども達がいるようです。

発達をつまづき

何らかの発達をつまづきがある
どうしたらよいか？

支援の必要な子どもの状態をとらえる際の
視点

- ★ 保育を取り巻く状況から考える
- ★ 障害の特性を知る

つまづきへの支援 A児(知的障害を伴う自閉スペクトラム症)の場合

障害のとらえ方

・従来のとらえ方

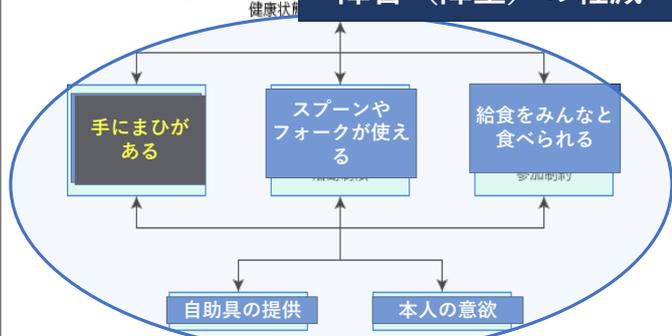
- ・ 障害があるために●●ができない子、●●ができない人
- マイナス面のみを重視した見方 → ×

近年 障害というものを多面的にとらえ、プラス面にも視点をあてるようになる。

障害のある人が、様々な支援を利用して、少しでも社会参加が進むような支援を考える方向へ

ICFによる考え方

障害（障壁）の軽減



見えにくさのある子ども達

- ・ 視覚障害のある子どもの他にも・・・
- ・ 肢体不自由
- ・ ダウン症候群
- ・ 発達障害

見えにくさの疑似体験をしてみよう

2024年度 出張講義

幼児教育・保育と心理学 ～子育て支援のプロフェッショナル～

2024年12月6日(金) 13:00-14:30
@八千代松陰中学校・高等学校

國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科
准教授 柳生崇志

今日の内容とゴール

内容

- 幼児教育・保育(者)って何？
- 幼児教育・保育と社会課題
- 子どもの心を理解する



ゴール

- 幼児教育・保育の正しいイメージが持てる
- 幼児教育・保育“カイワイ”の社会課題に対する心理学からアプローチを知る

“保育職”は安定した人気

	女子高校生(n=400)	%
1位	保育士・幼稚園教諭	12.0
2位	公務員	11.5
3位	看護師	9.8
4位	会社員	8.3
	歌手・俳優・声優などの芸能人	8.3
6位	教師・教員	8.0
7位	デザイナー(ファッション・インテリアなど)	7.8
8位	絵を描く職業(漫画家・イラストレーター・アニメーター)	6.8
	ショップ店員	6.8
10位	美容師	6.5

なぜ人気？

ソニー生命「中高生が思い描く将来についての意識調査」(2024年)

幼児教育・保育

すべて
誤解

- ・ 「ただ子どもを遊ばせているだけ」
- ・ 「小学校入学に向けた先取りの学習」
- ・ 「保育所は家計の厳しい家、幼稚園は裕福な家」
- ・ 「保育所は家庭に代わる生活のサポート、幼稚園は勉強」

ただ自由に遊ばせるのではなく、幼児一人一人が自ら興味や関心をもって遊びに夢中になる中で試行錯誤しながら、様々な経験を重ねていくことを大切にします。保育者は、一人一人の幼児を理解し、幼児の興味が広がったり深まったりして遊びがさらに展開されるよう、必要な道具や用具、素材などの物的環境や保育者や友達との関わりなどの人的環境など、教育的に価値のある環境を計画的に構成しています。こうした幼児教育を通して育まれた幼児の資質・能力は、その後の小学校以降の生活や学習における基盤となります。

(文部科学省, 2024)

第3問

質の高い幼児教育・保育が
目指すものは？

1. 基本的な生活習慣の確立
2. 小学校の学習の先取り
3. 英語やプログラミングなどの早期教育
4. 人格形成・生きる力

三歳児神話
の崩壊

1. 子どもの学力の「伸び」、社会的成功
 - 1位 0歳から質の高い保育を受けた子ども
 - 2位 家庭で過ごす期間が長かった子ども
 - 3位 質の低い保育を受けた子
2. 貧困による制約

貧困の家庭ほど、質の高い保育を受けた時の伸び方、回復の度合いが大きい！

= 潜在的な能力

幼児教育・保育“カイワイ”で今、何が起きているのか ～ 幼児教育(行政)の大転換 ～

1. 保育所 ⇄ 幼稚園 ⇄ 認定こども園
= 幼児教育機関、幼児期の教育を行う施設

もっともっと
子どもに投資！

2. 幼児教育の価値を見直す・高める
同じ投資額なら効果の大きさは…

幼児 >>> 大人 (OECD, ECEC)

OECD (経済開発協力機構: Organisation for Economic Co-operation and Development)

ECEC (Early Childhood Education and Care)

粘り強さ、挑戦
目標の達成、他者との感情
感情のコントロール、etc.

3. 幼児教育の質を徹底的に高める

「社会情動的スキル(非認知能力)」をどうやって育むか

Heckmanによる研究
(1962~実施)

社会情動的スキルを育む教育内容
少人数(6:1)
毎日の教育と週末の家庭訪問
約40年の縦断研究 etc.

ペリー就学前プロジェクト

質の高い幼児教育を受けた子どものその後は？

結果

- 質の高い 幼児教育を受けた子どもの方が優れていた
- 経済力 (雇用率, 年収, 自家用車, 住宅等)
- 学力 (IQ, GPA, 高校卒業率等) *ただしIQの優位性は小学生で消失
- 社会性 (結婚, 男性の子育て関与等)

幼児期の教育コスト1ドルは、
将来のリターン12ドル！

沖縄の貧困問題

沖縄の
子どもの貧困率
29.9%



子どもの貧困や格差とどう向き合うか

- 適切で**質の高い**幼児教育・保育を受けられるために
→ 幼児教育・保育の無償化制度の実現 (済) → 拡充は？
- 家庭ベースの体験 (遊び) の豊かさは？
→ 「習い事」の意義や格差を考える cf. ピアノ, 英語, スイミング...
- 国や地域の特徴 (考え方や個性) と具体的施策は？
→ 汎用的・普遍的な“あるべき姿”の確立よりも, 個別最適な施策
- “**関係人口**”を増やす
→ 定住人口や交流人口をつなぐ支援の実現可能性を高める視点

何よりも重要なことは...

就学前の教育

= 遊びを通して社会情動的スキルを徹底的に育むこと

幼児教育・保育 × 心理学

子どもを、守り、育てる

人の行動や特徴を科学する



ただし「勉強」は
一切不要

教育的側面は、
幼稚園だけじゃない！

$$B = f(p, e)$$

B = behavior,
p = personality,
e = environment

「ワクワク・ドキドキ」「思わず遊びたくなる」「没頭してしまう」

Sense of
WONDER

Flow

社会情動的スキル
(非認知的能力)

心情・意欲・態度 + 粘り強さ・挑戦

幼児教育・保育の
最大の目的！
(目標は大学で)

心理学 (+ 幼児教育学) ができること

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 子ども理解
心理学知見に基づく発達理解 | 4 支援者支援
親・保育者の支援 |
| 2 育ちの支援
適切な保育方法の提案 | 6 幼児教育・保育の施策
研究成果の利活用 |
| 3 保育者養成
保育者の質向上への取り組み | 5 幼児教育・保育の理論化
エビデンス・ベイスト |

・乳幼児期の体験の本質をとらえる

・お金をかける(お金がかからない)ことと、そうでないことの選択も大切

・貧困や格差を解消する

・一人の発達と社会の構造を変える: 『マインドセット』の要諦

子どもの発達を支える 幼稚園教諭等の専門性

國學院大學 人間開発学部
子ども支援学科 山瀬範子

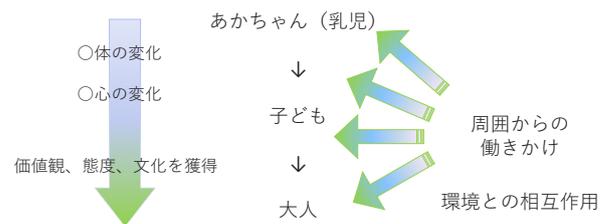
本授業の目的

幼児期の育ちは生涯にわたる発達の基盤です。社会においては、安心・安全な生活の中で子どもの健やかな発達を支える質の高い幼児教育・保育が求められています。このような幼児期の育ちを支える幼稚園教諭等の専門性とはどのような資質能力にあるのでしょうか？子どもの発達について理解を深め、子どもの発達の特徴から幼児教育・保育を担う人材に求められる資質能力を捉えて、幼児教育・保育の「職」の魅力はどのようなところにあるのか、考えてみましょう。

子どもの生活と遊びの様々な要素

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 家族と過ごす ■ 食べる ■ お風呂 ■ 生活習慣 ■ お散歩する ■ おしゃべりする | <ul style="list-style-type: none"> ■ 体を動かす（全体・部分） ■ 考える ■ 工夫する ■ 先生や友達とお話をする ■ 協力する ■ 他者のことを思いやる <p style="text-align: right;">.....などなど</p> |
|--|--|

「大きくなる」ってどんなこと？



「学び」のスタイル

<高校生の場合>

- 教室の中でクラスメイトと並んで座る。
- 先生から授業を受ける。
- 教科書、プリント、ノート、筆記用具
- 聴く、理解する。

<乳幼児の場合>

- 五感を使って体験する。
 - 不思議だなあと思って考える。
 - 気付く。
 - 試してみる。
- 生活と遊びを通して「学ぶ」

幼稚園・幼保連携型認定こども園では、 どのような園生活をしているの？



幼児期に育てたいものは？

幼稚園教育等において
育みたい資質・能力を育んでいくことです

- 自立心を育み、人と関わる力を養います**
- 好奇心や探究心を育み、生活に取り入れる力を養います**
- 豊かに育つ力、人間性**
- 自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養います**
- 相手の言葉を聞き、自分の言葉で表現する力を養います**

保育教諭養成課程研究会 2019『幼児一人一人が未来の創り手に』

自己を表出し、ものや人と関わる力が育つには？

遊びを通して育ちます

- 人と関わる**
先生や友達、地域の人など多様な人と関わる経験をします
- 自己を表出する**
安心して、のびのびと動いたり、自分の思いを出したりしていきます
- ものに関わる**
興味や関心に沿って、いろいろな道具や道具などを使って遊びます

保育教諭養成課程研究会 2019『幼児一人一人が未来の創り手に』

生涯にわたる発達の基盤としての幼児期 ：生活と遊びを通じた「学び」

教育基本法
第十一条（幼児期の教育）幼児期の教育は、**生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの**であることにかんがみ、国及び地方公共団体は、**幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備**その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

学校教育法
第二十二條 幼稚園は、**義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長**することを目的とする。

『幼稚園教育要領』における発達

人は生まれながらにして、**自然に成長していく力**と同時に、**周囲の環境に対して自分から能動的に働き掛けようとする力**をもっている。**自然な心身の成長に伴い**、人がこのように**能動性を発揮して環境と関わり合う中で**、**生活に必要な能力や態度などを獲得**していく過程を発達と考えることができよう。

『幼稚園教育要領解説』（2）幼児期の発達 13頁より

子どもの生活と遊びを通して 育ちを支える幼稚園教諭等の専門性

子どもは、「能動性を発揮して環境と関わり合う中で」育つ

能動性を発揮して環境と関わる：遊びや生活場面

子ども理解 / 環境 / 遊びや生活を通して援助

※就学前の子どもの発達の特徴を踏まえた援助

幼稚園教諭等 保育職の魅力とやりがい

子どもの発達についての知
子どもの生活についての知
子どもの遊びについての知
子育て・子育てについての知

➡ 専門家としての
子育て・子育ての支援

※ 生涯にわたる発達の基盤
豊かな感性、関わる力、表現する力、取り組む力

No.9 2014.12.13
 @都立広尾高校 國學院大學 人間開発学部 結婚者活

職の魅力発信講座
 ~日本の子育ての現状と課題について~

<資料1>

出生数 推移

2023年過去最少
75万8631人

合計特殊出生率の推移

1947年 4.54
2020年 1.20

2007 1,089,818
 2008 1,091,156
 2009 1,070,036

2024.2.27 NHKニュースより
 2024.6.5 NHKニュースより

*合計特殊出生率は、その年次において15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものを指す。

<資料2>

図表 1-1-1 人口ピラミッドの変化 (1990、2015、2025、2065) -平成29年中位推計-

出所: 実績値 (1990年及び2015年) は総務省「国勢調査」をもとに厚生労働省作成。推計値 (2025年及び2065年) は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (平成29年推計): 出生中位・死亡中位推計」(毎年10月1日現在人口) 1990年及び2015年の輸入人口は、年齢不詳を含む。

厚生労働省 平成29年版 厚生労働白書より

<資料3>

婚姻件数及び結婚率の年次推移

初婚年齢の年次推移

出典: (1)2023年人口動態統計(国勢調査) 出生・結婚・離婚
 (2)2023年人口動態統計(国勢調査) 出生・結婚・離婚

<https://ohitorisama.site/blog/marriage-rate-transition/>

<資料4>

図表 1-1-12 天降の理想子ども数・予定子ども数・完結出生児数の推移

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「出生・結婚・離婚」

厚生労働省 令和2年版 厚生労働白書より

<資料5>

保育所の利用児童数等の推移

出典: 厚生労働省 総務省統計局「国勢調査」

<資料6>

出典: 2017 「子育てと経済成長」 朝日新聞出版社より

<資料7>

「こども大綱が目指す『こども豊かな社会』」（平成22年度）
 全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神に基づき、発達にわたる人類形成の過程を踏ま、健全な個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の健康、置かれている環境等に拘わらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会。

全てのこどもや若者が、保護者や社会に支えられ、生活に必要な資源を適切に受けながら、心身の健全な成長が図られる。

- 個性の多様性が尊重され、個性が伸ばされる。ありのままの自分を愛受け受け取り、自己肯定感を持つことができ、自ららしき、一人一人が誇りを持って生活できる。
- 様々な個性があり、他者尊重を通じて、互に協力し合えることができる。
- 夢や希望を持てるために、希望と夢に基づいて、めげないチャレンジができ、未来を切り開くことができる。
- 固定観念や偏見を押し付けられず、自由で多様な選択ができる。自分の可能性を最大限に活かすことができる。
- 自分自身の個性や才能を伸ばし活用することができる。その個性を尊重し、社会に貢献できる。
- 平素や悩みを抱えたり、困ったりしても、周囲の人や社会にサポートされ、問題を解決したり、乗り越えたりすることができる。
- 困難、いじめ、差別・虐待や不平等、暴力、経済的困窮、虐待、虐待、虐待、虐待、虐待などから守られ、困難や状況に陥った場合には助けられ、勇気づけられ、孤立しなくなり、援助が得られること、不安や悩みを解消することができる。
- 働くこと、また、遊ぶことと調和すること、働くことには、夢や希望を持つことができる。

そして、2019年、2020年を中心とする国際的課題が、世界に共通した課題として取り上げられる。

- 世界から多くの人材を育てることができ、経済的発展が確保され、国民に恩恵し得ることが出来る。
- 希望するキャリアを実現するために、仕事と生活を調和させること、希望と夢に基づいて社会で活躍することを目指す。
- それぞれの夢に基づいて、夢を実現すること、こどもを夢を実現すること、不安なく、こどもとの生活を始めることができる。
- 社会全体から支えられ、自己実現や夢を実現するための環境が整い、こどもと働き手との関係がより強固になる。

① こども・若者が、健康や豊かさを保ち、自分らしく自らの夢に基づいて夢を実現し活躍することができるようにする。こどもも夢を叶え、夢でいかに生きるかを課題とする。こどもや若者、子育て支援者の意識向上が課題になる。

② その結果として、子育て・人材育成の取組が大きく変化する。事業系の人材も社会全体で育ち、社会経済の持続可能性も確保される。

こどもや若者、子育て支援者ももちろん、全ての人にとって、社会的環境が創設され、その実現が高まることにより、

『こども大綱（説明資料）』こども実現HPより

幼児期の教育・保育の役割

子育てを巡る日本の現状は、見てきたとおり。これから社会を担う若い人たちに待ち構える社会構造

- 幼稚園・保育所の役割について、「少子化をどう止めるか」に第一課題をおいてはけない。
- 「勉強」は、自分たちが生きる社会の仕組みがどうなっており、どうしたらその問題を解決できるかを考える力を養う場。
- 世の中は多様なニーズ（こう生きたい！）をもった人たちの集まり。だから、お互いの立場を理解し、相談して、解決の道を探っていかなければならない。「自分（たち）だけじゃれば…」という原理では、社会はなりたない。
- 幼稚園・保育所は、共通して、次世代の若者たちが、自分たちが生きる社会を生きやすくするための知恵と工夫を創出するための教育を担う最初の段階。
- 数の問題ではなく、質の問題になっている。20年先に、この子たちが、幸せな社会の担い手になっていくために、幼児期からどんな資質・能力（コンピテンシー）を養っていくことが大事なのか？ そんなことを、真剣に考えられる幼児期の教育・保育を担う人材が、今、求められている。

No.10



絵本の読み聞かせに挑戦しよう！

担当：吉永安里



国学院大学

絵本



絵と文章が一体になって展開されるお話の世界。

目を通して絵本の絵を見る。
 耳を通して語られたお話を聞く。
 ⇒ 一体化したメディア

国学院大学

絵本の歴史①

平安時代：絵巻物

室町時代：奈良絵本（御伽草子）
「浦島太郎」「一寸法師」など

江戸時代：草双紙（赤本）
「桃太郎」「さるかに合戦」など

国学院大学

奈良絵本



『小袖曾我』（国立国会図書館デジタルコレクション）

赤本



『是は御ぞんじのばけ物にて御座候』(東京都立図書館デジタルライブラリー)

• 絵本の歴史②

明治時代:東京女子師範学校附属幼稚園の保育科目(説話)に合わせて「絵本」が製作される。

大正時代:絵雑誌「コドモクニ」
「浦島太郎」「一寸法師」など

昭和2年:「キンダーブック」(月刊絵本)
昭和31年:「こどものとも」(月刊絵本)

• 絵本の種類

- ①赤ちゃん絵本
- ②創作・物語絵本
- ③昔話・民話絵本
- ④知識絵本
- ⑤言葉の絵本
- ⑥写真絵本
- ⑦文字のない絵本
- ⑧仕掛け絵本 など

• 絵本の読み聞かせの準備

- ①絵本を選ぶ:相手(子どもの様子)と目的に合わせて
- ②読み聞かせの練習をする=下読み
- ③読み聞かせの環境を考える

絵本の読み聞かせに挑戦してみよう

• 上手に読むためのコツ

- * 本の持ち方とめくり方
- * 声の調子を工夫してみよう
高低／緩急／大小／間



言葉の育ちと絵本

國學院大學人間開発学部子ども支援学科
吉永安里

言葉の発達と保育－0～3歳の頃－

(1) 乳児のことば

- ①産声：「オギャ〜！」という呼気
臍の緒を通しての呼吸から肺呼吸へ
- ②0～8週：生理的な不快状態の泣き
- ③8～20週：クーイング (cooing)
喉を使った母音を中心とした音「アー」「ウー」
- ④20～30週：喃語 (babbling)
子音+母音の音「ブー」「パー」
- ⑤25～50週：反復喃語
繰り返しの音「マンマン」「ダダダ」
- ⑥9～18か月：ジャーゴン
文のようなメロディーをともなった音。

(2) 初語

二項関係 (自分－対象)



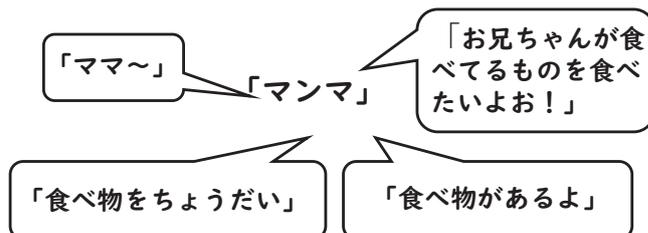
三項関係 (自分－対象－他者)

⇒コミュニケーションの道具としての
「初語」の出現

「マンマ」：食べることにすること
「ママ」「パパ」：身近な愛着のある人
「ワンワン」「ブーブ」：身近なもの
(動物、乗り物)



(3) 一語文 (1～1歳半くらい) — 「多義性」



⇒状況、身ぶり、表情などから総合的に判断する

「汎用」「狭用」なども見られる。

(4) 二語文 (1歳半～2歳)

「ワンワン」+「きた」⇒「ワンワン (が) きた」
「ママ」+「ごはん (が) 食べたい」=「ママ、ごはん」

助詞や動詞が抜けるという不十分な構文だが、
発話が文としての構造を持ち始める時期。

※幼児語 (保育者から見れば育児語) を用いて表現されることが多い。

「ブーブー」「クック」「ポンポン」「ネンネ」

喃語の特徴をもち、幼児に発音しやすい。

また、擬音語・擬態語のため、語の意味をイメージしやすい。

(4) 二語文 (1歳半～2歳)

《その他、この時期の幼児の言葉の特徴》

- ・発音の誤り／不明瞭
マ行音は2歳代に獲得
サ・ラ行は5～6歳代に獲得
⇒7歳頃に発音の誤り／不明瞭が目立つ場合は配慮
- ・幼児音
 - ①母音の誤り (くれよん→くろよん)
 - ②子音の誤り (せんせい→てんてい)
 - ③音の転置 (エレベーター→エベレーター)
 - ④音の脱落 (うぐいす→ういーす)

(5) 語彙増加

二語文・三語文の出現



① 語彙爆発 (vocabulary explosion)

1 歳前後：数語

2 歳まで：300 語

3 歳まで：1000 語

4 歳まで：1500 語

5 歳まで：2000～2500 語

※語彙爆発が起こる内的機構については諸説ある
「命名の洞察 (第1質問期)」「象徴機能の発達」

② 語彙の種類増加

名詞・感動詞→動詞→形容詞・副詞→助詞・接続詞

語彙爆発の時期

(6) 文構造の複雑化 (2 歳半～3 歳)

語彙増加



① 一文が長くなる／文構造が複雑化

肯定文、否定文、疑問文

従属文 (助詞) 例：～から、・・・

並列文 (接続詞) 例：～。それで、・・・

第2質問期：なんで？どうして？＝認識の深まり

② 表現が豊かになる

助詞 (終助詞→格助詞)

言葉の発達と保育－4～5歳の頃－

(1) 言葉の質的な深まり①

・時間の概念の発達－3歳頃 「きのう」

3歳半頃 「あした」

⇒4歳頃から過去・現在・未来が区別され、
時間的順序の理解が芽生える。

カレンダーの理解もできるようになってくる。

・因果関係の理解の発達－5, 6歳頃

⇒「～だから…しよう」という理由が理解できる
ようになる。

(1) 言葉の質的な深まり②

・自己調整－「このおやつ、3時になったら食べるん
だよね。」

⇒「外言」から「内言」へ

・言葉による概念化－「りんご」「みかん」→「果物」
「幸せ」「悲しい」→抽象的概念

⇒上位概念・下位概念などの概念化、言葉による
抽象的思考が少しずつできるようになる。

(2) 書き言葉への関心

・読むこと (理解)

⇒「りんご」＝「り」「ん」「ご」と一音一文字と
いうように分解して理解できるようになるのが、
4・5歳から

cf. しりとり、反対のことばなどの言葉遊び

・書くこと (表現)

⇒手先・指先の微細な動きやその協応

⇒図形・方向の認知 cf. 鏡映文字

自己紹介

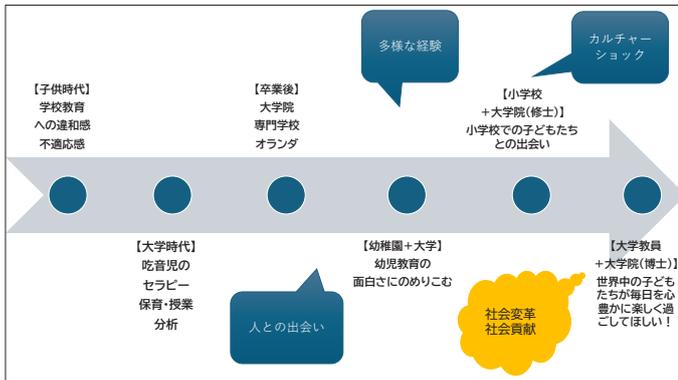
國學院大學人間開発学部子ども支援学科
吉永安里

自己紹介

- ▷ 専攻：心理学（認知心理学）
教育・保育学
- ▷ オランダの幼児教育施設での現場経験
- ▷ 幼稚園・小学校での保育・教育の現場経験
- ▷ 趣味：K-POP 🎧、海外旅行 🌍

現在の研究領域

- ▷ 乳幼児期の言葉の発達
- ▷ 児童文化財の保育における取り扱い
- ▷ 小学校国語科指導法
- ▷ 幼小接続
- ▷ 保育・教育の国際比較研究



小1プロブレム って知っていますか？

小1プロブレムとは？

小1プロブレム

「授業不成立という現象を中心に、学級が本来持っている学び・遊び・暮らしの機能が不全になっている、小学校1年生の集団未形成の問題」
(新保, 2010)

- ▶ 授業中立ち歩く
 - ▶ 話が聞けない
 - ▶ 先生の指示通り行動しない
 - ▶ 集団行動ができない
- ≠ 学級崩壊

子どもたちが
悪いのか？

【小1プロブレムの原因】

- ① 子どもたちを取り巻く環境の変化
- ② 親の子育ての孤立化と未熟さ
- ③ 親子とも自尊心が低く、人間関係づくりが苦手
- ④ 幼児教育と学校教育の段差の拡大
- ⑤ 自己完結し、連携が少ない学校園
- ⑥ 今の子どもにミスマッチの頑固な学校文化や学校教育システム

新保 真紀子(2010)
『小1プロブレムの予防とスタートカリキュラム—幼児教育と学校教育の学びをつなぐ』より抜粋。一部改変
明治図書

幼児教育と小学校教育のちがい

幼児教育
(幼稚園、保育園、認定こども園)



- ≫ 環境を通じた総合的な指導
- ≫ 幼児の自発的な遊び・活動
- ≫ 学びの芽生え・無自覚な学び

小学校教育



- ≫ 教科・領域等の指導
- ≫ 教師の発問・指示による授業
- ≫ 自覚的な学び

小1プロブレムを乗り越えるために

発達に合わせた教育と
接続の仕方を工夫する

各国の幼小接続の特徴

幼小分離型	準備教育型	新たな出会いの場型
幼児教育 Holistic Approach	幼児教育 Academic Approach	幼児教育 Holistic Approach
小学校教育 Academic Approach	小学校教育 Academic Approach	小学校教育 Academic Approach
北欧、ドイツ、オランダ、 ベルギー、イタリア、日本 など	アメリカ、南米、フランス、 イギリス、中国など	スウェーデン、フィンランド、日本など
※減りつつある。準備教育 型か新たな出会いの場型へ 移行。	※増えつつある。学力低下 の危機感。移民等の影響。	※幼児教育と小学校教育の間に「汽水 域」を設けようとする考え方。 0年生を小学校側に設ける国もある。 日本は施設は別だが、カリキュラムをつ なげようとしている。

ワークショップ —あなたの考える理想の教育とは?—

これからの子どもたちが生きる新たな時代

Education2030: 共有しているビジョン

「VUCA」(Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性)が急速に進展する世界に直面する中で、**教育の在り方次第**で、直面している課題を解決することができるのか、それとも解決できずに敗れることとなるのかが変わってくる。**新たな科学に関する知識が爆発的に増大し、複雑な社会的課題が拡大していく時代において、カリキュラムも、おそらくは全く新しい方向に進化し続けなければならないだろう。**

OECD(2018)「Education 2030 OECD Education 2030プロジェクトについて(日本語仮訳)」

あなたの考えるこれからの教育のあり方

- ①現状の課題分析
 - a. 学力観
 - b. 内容
 - c. 方法
- ②新たな教育の方向性
 - a. 学力観
 - b. 内容
 - c. 方法

No.17



保育士の仕事を知ろう

子ども支援学科：廣井 雄一
 (主な担当科目：子ども家庭福祉・保育実習指導)

保育士とは

児童福祉法・・・子どもの福祉に関する法律
 第18条の4

- 都道府県に登録申請し、保育士証の交付を受ける
- 保育士の名称を用いて仕事ができる(名称独占資格)
- 児童の保育
- 児童の保護者に対する保育に関する指導

保育所

- 保育を必要とする乳児・幼児を日々保護者の下から通わせて保育を行うことを目的とする施設とする。
- 保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とし、その内容については、内閣総理大臣が定める指針に従う。
 →「保育所保育指針」

児童の権利に関する条約 (子どもの権利条約)

- 子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた国際条約。
- 18歳未満の児童を、**権利をもつ主体**と位置づけ、**おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定められている。**



ユニセフ協会P 子どもの権利条約

児童の権利に関する条約 一般原則

	<p>差別の禁止 (差別のないこと)</p> <p>すべての子どもは、子ども自身や親の国籍や民族、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。</p>
	<p>子どもの最善の利益 (子どもにとって最もよいこと)</p> <p>子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。</p>
	<p>生命、生存及び発達に対する権利 (命を守られ成長できること)</p> <p>すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などが保障されます。</p>
	<p>子どもの意見の尊重 (子どもが意味のある参加ができること)</p> <p>子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表明することができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。</p>

ユニセフ協会P

こども基本法 こども施策の6つの基本理念

1	すべての子どもは人間生まれ、基本的人権が守られ、差別されず、おとなと同等の権利が認められること。		4	すべての子どもは年齢や発達段階に応じて、意見が尊重され、子どもやこれらによって最もよいことが確保して考えられること。	
2	すべての子どもは、生活に支えられ、生活が守られ、豊かれ、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること。		5	子育ては家族を基本としながら、そのサポートが十分に行われ、家庭で育つことが難しい子どもも、家庭と同様の環境が確保されること。	
3	年齢や発達段階に応じて、自分に適した環境や活動に参加できるように、自分に適した環境や活動に参加できるように、自分の意思に基づき活動に参加できるように、自分の意思に基づき活動に参加できるように。		6	家庭や子育てに寄り添い、喜びを分かちあえる社会をつくること。	

こども家庭庁Pより

児童福祉法

第1条 全て児童は、**児童の権利に関する条約の精神**にのっとり、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する。

第2条 全て国民は、**児童が良好な環境**において生まれ、かつ、社会のあらゆる分野において、児童の年齢及び発達に程度に応じて、その**意見が尊重**され、その**最善の利益が優先して考慮**され、**心身ともに健やかに育成**されるよう努めなければならない。

主に資格が求められる職場

児童福祉施設・・・児童福祉法に基づいて子どもの福祉に関する事業を行う施設

- ・ 助産施設
- ・ 乳児院
- ・ 母子生活支援施設☆
- ・ 保育所☆
- ・ 幼保連携型認定こども園
- ・ 児童厚生施設
- ・ 児童養護施設☆
- ・ 障害児入所施設☆
- ・ 児童発達支援センター
- ・ 児童心理治療施設
- ・ 児童自立支援施設
- ・ 児童家庭支援センター
- ・ 里親支援センター

児童福祉施設の紹介 母子生活支援施設

- ・ 配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて、これらの者を保護するとともに、これらの者の自立の促進のためにその生活を支援し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設とする。
- ・ 母子生活支援施設における生活支援は、母子を共に入所させる施設の特性を生かしつつ、親子関係の再構築等及び退所後の生活の安定が図られるよう、個々の母子の家庭生活及び稼働の状況に応じ、就労、家庭生活及び児童の養育に関する相談、助言及び指導並びに関係機関との連絡調整を行う等の支援により、その自立の促進を目的とし、かつ、その私生活を尊重して行わなければならない。

児童福祉施設の紹介 児童養護施設

- ・ 保護者のない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする。
- ・ 児童養護施設における養護は、児童に対して安定した生活環境を整えるとともに、生活指導、学習指導、職業指導及び家庭環境の調整を行いつつ児童を養育することにより、児童の心身の健やかな成長とその自立を支援することを目的として行わなければならない。

児童福祉施設の紹介 障害児入所施設

- ・ 福祉型障害児入所施設
保護並びに日常生活における基本的な動作及び独立自活に必要な知識技能の習得のための支援
知的障害児 自閉症児 盲児 ろうあ児 肢体不自由児
- ・ 医療型障害児入所施設
保護、日常生活における基本的な動作及び独立自活に必要な知識技能の習得のための支援並びに治療
自閉症児 肢体不自由児 重症心身障害児

保育士の仕事とは

- ・ 0歳から概ね18歳までの児童と児童を養育する保護者を対象としている。
- ・ 児童の権利に関する条約、こども基本法、児童福祉法に示されている社会（こどもまんなか社会）の実現を目指している。
- ・ 主には児童福祉施設において働いている。
- ・ 保育士は、児童福祉施設の目的、対象によって求められる役割や具体的な仕事は異なる。
- ・ 取得方法：①「指定保育士養成施設」で指定科目を修得し、卒業する、②国家試験を受験し、合格する。

子どもは町でどう育つのか ～子どもが育つ地域をどうつくるのか～

子ども支援学科
夏秋英房

國學院大學高大連携事業
人間開発学部

地域の祭りとお子さんの育ち

地域の夏の祭りをとおして、子どもはどのように育っているのだろうか

【都市部】川崎市宮前区の2つの町内会の夏祭り

【中山間地】長野県南佐久郡小海町御射山（みさやま）祭り
(2024年8月25日)

【島嶼部】沖縄県うるま市のエイサー祭りと保育園児

町内会や自治会、子ども会育成会、神社の氏子、保育園の係わり

【都市部】川崎市宮前区の2つの町内会の夏祭り

- 川崎市宮前区 小台町内会 土橋町内会 市立土橋小学校の学区を構成する
- 駅前の商店街と住宅街によって構成される地域
- いずれも、地区公園で夏祭りを開催。しかしその性格は違う

【土橋町内会】

田園都市線の開通に伴う町の形成とともにある古くからの町内会
大人中心の盆踊り、狭い地区公園に5000人からの人出

【小台町内会】

他の町内会から分離独立して19年たつわかい町内会（土橋小の創立と同年）
子どもに焦点をあてた子ども祭り
小台町内会と小台子ども会主催
とくに低年齢の子どもが保護者とする
150人くらい

【2つの空間】太鼓の輪と踊りの輪

地元の人たちによる出店
密集する人びと
屋台に並ぶ長い行列



川崎市宮前区の2つの町内会の夏祭り

【2つの祭りに共通していたこと】

- たくさん笑顔があった
- 手作りの祭りであり、さまざまな大人による活動と対面的接触
- 神様はいない。祀りではなく祭りである
- 日常的な「地域公園」の空間に「非日常の空間」が一時的に作られた
- 子どものための取り組みがあり、多くの大人が関わっていた

【2つの祭りにおける教育的な作用】

- 【小台町内会】 体験学習 町内会と子ども会の大人たちが主催
家族ぐるみで楽しむ様子、子どもが喜ぶと親も喜ぶ
若い子どもを対象の中心とする。⇨若い世代の保護者を誘い込む可能性
- 【土橋町内会】 子どもをおもな対象とした、地域の大人たちによる出店
交通やパトロールをふくめ、組織的な管理運営と活動の展開。
子供の役割と出番がある「土橋太鼓連」輪の上で子どもが叩く
「お盆に太鼓を叩くのは先祖の供養のため」。OBがお盆に「里帰り」
町内に伝承される「万作踊り」の保存会による披露

※人口の移動が大きい都市部でも、育った地域を自分たちの「ふるさと」と感じる。



【中山間地】長野県南佐久郡小海町 御射山（みさやま）祭り（2024年8月25日）

- 集落の松原諏方神社から、3.5kmの距離にある神社林のなかにある広場（御射山原）まで子どもたちが山を駆け上がる。ススキの穂でつくった仮屋（オヤ）に宮司がご神体を遷し、集落の人と子どもたちとともに祀る
- 研究者によると、中世前期の諏訪信仰の形を遺す祀りか
- 子どもたちは小学生から中学生まで。中学生がラッパを吹き、走り方や儀礼の作法を指導する。戦前の「子ども組」の活動の名残。コロナ禍以前は御射山原の小屋に泊まった（お籠もり）



【島嶼部】沖縄県うるま市の盆のエイサーと保育園児

- エイサーは旧盆に数日間、わたり踊られる。区ごとに独身の男女が旗頭を先頭に区内の各戸を回る。その前から区の集会所で練習が行われるので、集所には長い期間、エイサーの音が響いている。

- ◎お盆明けの子ども様子
- ◎エイサーの道具や衣装づくり
- ◎獅子舞を演じる
- ◎エイサーの人になりたい

- ・0歳児からみられるエイサー遊び
- ・エイサーの音に、自然に身体がうごく
- ・遊びが自然に周りの子どもにも拡がっていく
- ・道具や衣装を作りたいという子どもの願いやつぶやきを遊びで実現できるように子どもたちの活動を保育者が支援する。

夏の祭りをとおして子どもはどう育つのか

地域のさまざまな大人とかかわる

地域にはさまざまな役割が関わっている「役割モデル」

地域のなかで子どもたちの集団が一定の役割を果たす

課題に対して自律的に知恵を働かせて取り組む

地域の文化を伝承することで、子どもが地域を形づくる

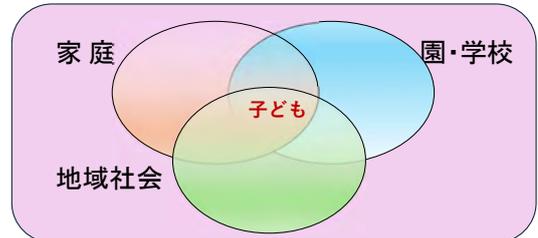
身体的なレベルで文化を学び、記憶し、表現していく

地域に貢献し愛着をおぼえ、ふるさと意識を抱く

学校以外の場において自己有用感を抱く

さまざまな地域での体験が子どもの学びへの姿勢を豊かにする …etc.

図 子どもが育つ3領域+情報環境



<情報環境:子どもの成育環境全体を規定する>

子どもは町でどう育つのか

子どもたちは
子どもの家族は

- ・ 地域の子どもたち
 - ・ 地域の人々
 - ・ 地域で働く保育士
- とともに、かかわりをとおして育つ

地域に触れ、出会い、
かかわり、参加し
地域から学ぼうとする

地域の人々や
地域で働く保育士は

- ・ 子どもが地域に触れ
 - ・ 出会い、かかわり
 - ・ 地域から学ぼうとする
- ための

つながる機会や
場（居場所）を用意し
環境を整え
活動を応援する

保育士の役割と地域での働き

【保育士とは】

「登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」（児童福祉法第18条）であり2003年から国家資格となった専門職です。

【保育士が働く場所は】

保育所のほかに、児童養護施設、知的障害児施設、知的障害児通園施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、情緒障害児短期治療施設、乳児院、母子生活支援施設、児童厚生施設、児童自立支援施設で働くことができます。

子どもと家族を地域につなぐ人になる「共育」



ミュージックキャラバンの地域での活動

<https://www.kokugakuin.ac.jp/news/439356>

学生が企画運営する「共育フェスティバル」

<https://www.kokugakuin.ac.jp/event/433656>

これから考えていきたいこと

- ・ 子どもはさまざまな地域でどのように育つのでしょうか
- ・ あなた自身は地域とどのようにかかわりながら育ってきたのでしょうか
- ・ 子どもの育ちを支える地域をどのようにつくればよいのでしょうか

地域社会とは何か。どのような性質をもち、どのように変化しているのか
子どもが生活のなかで体験することは、子どもにどのような影響を及ぼすのか
情報環境の広がりや深まりの中で、子どもの成育環境はどのように変わっていくのか

授業風景



アンケート結果

本調査は、高校生を対象とした職の魅力発信として、本学教員による幼児教育の重要性、保育職の魅力、進路選択に役立つ情報提供に関する出前授業を行い、その成果として受講者の理解度、興味の変化を明らかにすることを目的とした。

調査期間は令和6年8月27日（火）～12月26日（木）とし、調査方法は自記式の調査票を用いた集合法とした。調査時期は出前授業後とし、出前授業を受講した854名（男子228名、女子604名、回答したくない17名、無回答5名）の高校生（1年生452名、2年生215名、3年生173名、無回答14名）から回答を得た。

主な調査内容は、出前授業を通じた「子どもや子育てへの興味や関心の深まり」や「保育職に対するイメージの変化」「保育職への興味や関心の深まり」「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり」「保育・幼児教育系の学部学科への進学意向」、出前授業に対する感想等とした。

② 主な調査結果

出前授業による保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化や出前授業に対する感想は以下の通りである。各調査結果については、単純集計のほか、保育・幼児教育関係への進学を希望する生徒（123名）と希望しない生徒（678名）でクロス集計も行った。更に、出前授業による保育・幼児教育系の学部学科への進学希望の変化の要因を探るため、保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化を説明変数とした重回帰分析も行った。

ア. 出前授業による保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化

（子どもや子育てへの興味や関心の深まり）

出前授業を受け、「子どもや子育てについて興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は91.1%で、ほとんどの生徒が出前授業を通じて子どもや子育てへの興味や関心が深まったことが分かった。

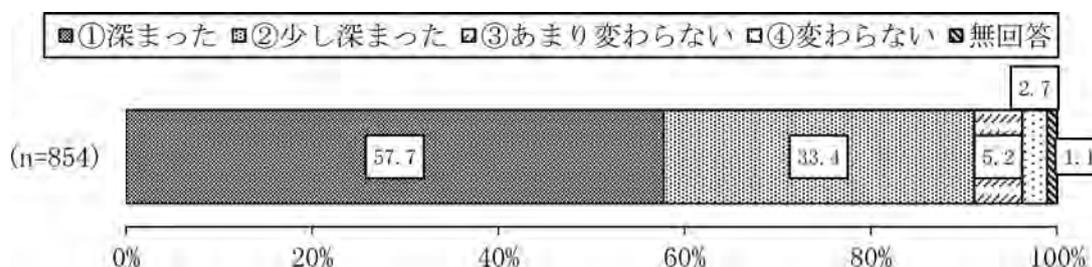


図 2.1.1 子どもや子育てへの興味や関心の深まり

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（81.3%）と希望しない生徒（54.9%）で大きな差がみられたが、「少し深まっ

た」を合わせると、いずれも9割を超えていることから、進学希望の有無に関わらず、出前授業を通じて子どもや子育てに対して興味や関心が深まったことが分かった。

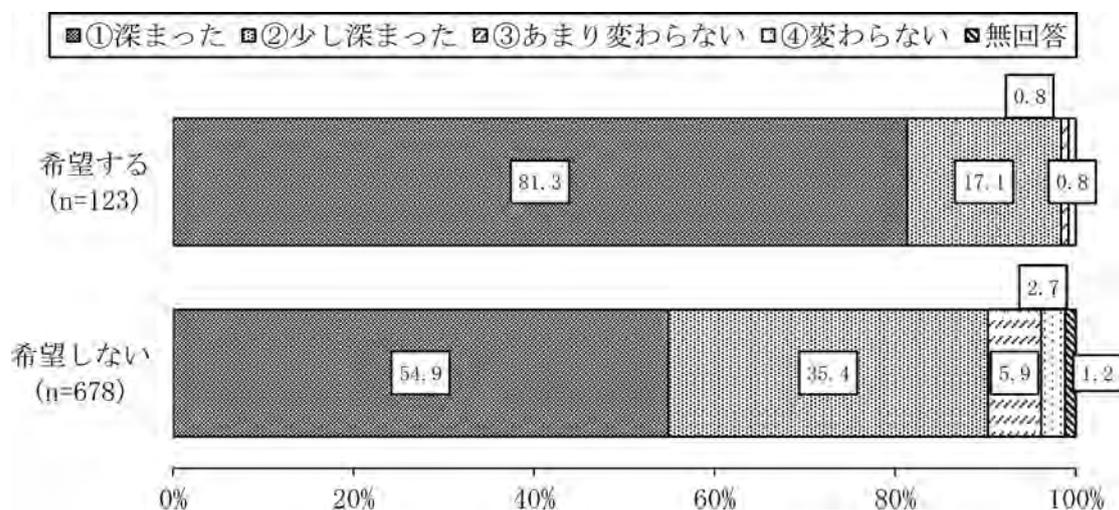


図 2.1.2 保育・幼児教育への進学希望別 子どもや子育てへの興味や関心の深まり

(保育職に対するイメージの変化)

出前授業を受け、「保育職（幼稚園や保育所の先生）に対するイメージが変わったか」と尋ねたところ、「変わった」「少し変わった」と回答した生徒は79.9%で、8割弱の生徒が出前授業を通じて保育職に対するイメージが変わったことが分かった。

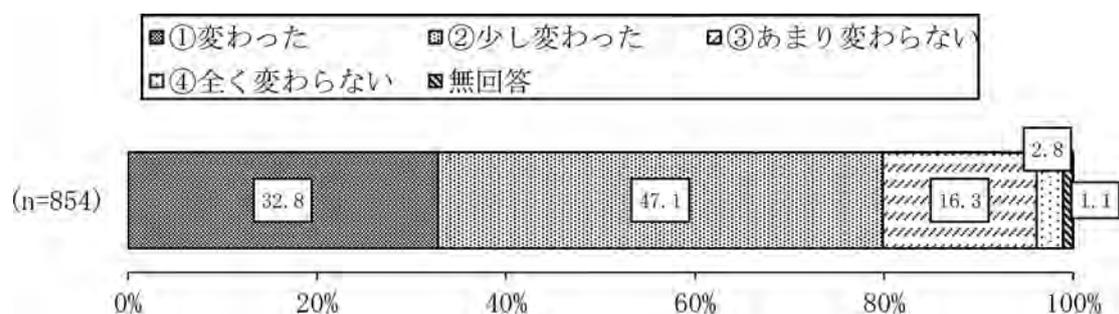


図 2.1.3 保育職に対するイメージの変化

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「変わった」と「少し変わった」を合わせて回答した割合を比較してみると、希望する生徒は77.2%、希望しない生徒は80.4%が変わったと感じていることから、希望しない生徒の方が出前授業を通じて保育職に対するイメージが変わったことが分かった。

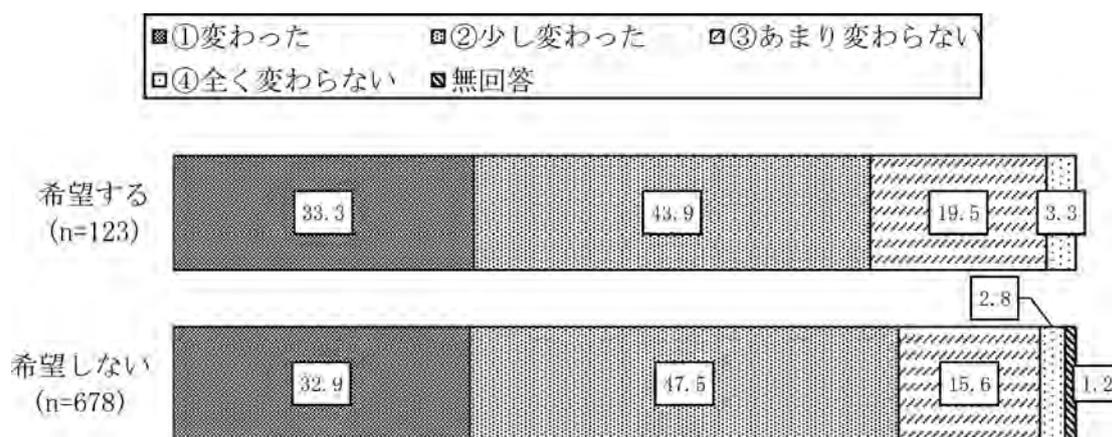


図 2.1.4 保育・幼児教育への進学希望別 保育職に対するイメージの変化

(保育職への興味や関心の深まり)

出前授業を受け、「保育職（幼稚園や保育所の先生）について興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は75.3%で、およそ7割強の生徒が出前授業を通じて保育職への興味や関心が深まったことが分かった。

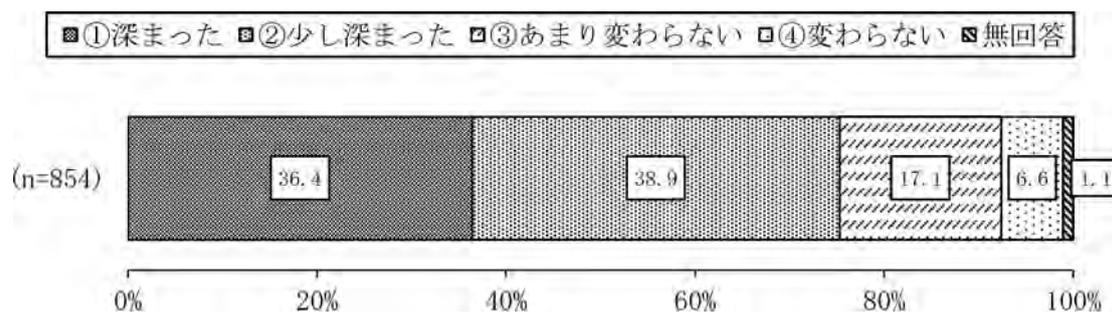


図 2.1.5 保育職への興味や関心の深まり

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（81.3%）と希望しない生徒（29.4%）では50ポイント以上の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、出前授業を通じて保育職に対する興味や関心が深まっていることが分かった。しかし、「少し深まった」を合わせると、希望しない生徒でも70.8%が変わったと感じていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、7割以上の生徒は出前授業を通じて保育職に対して興味や関心が深まったことが分かった。

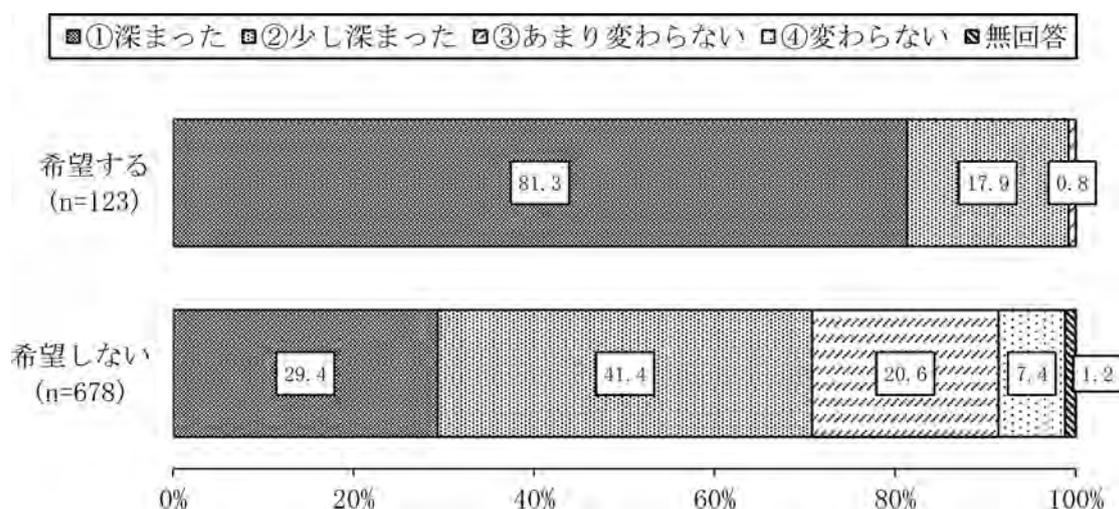


図 2.1.6 保育・幼児教育への進学希望別 保育職への興味や関心の深まり

(保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり)

出前授業を受け、「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は 73.5% で、7 割以上の生徒が出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まったことが分かった。

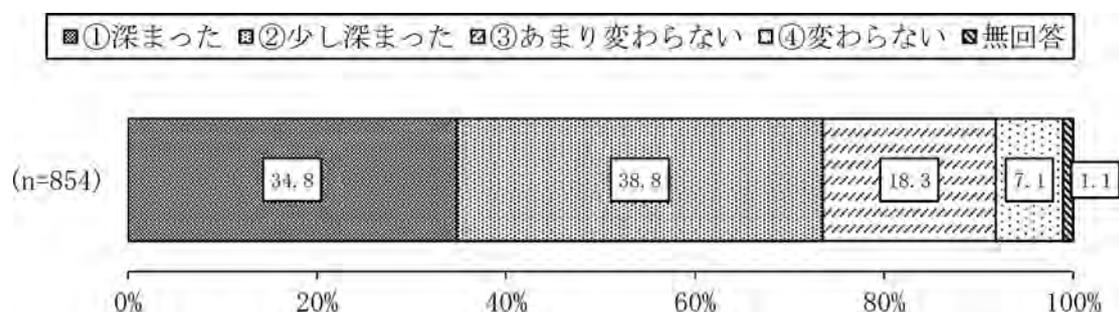


図 2.1.7 保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒 (82.9%) と希望しない生徒 (27.1%) では 50 ポイント強の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科に対する興味や関心が深まったことが分かった。しかし、「少し深まった」を合わせると、希望しない生徒でも 69.2% が深まったと感じていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、7 割近くの生徒は出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科に対する興味や関心が深まったことが分かった。

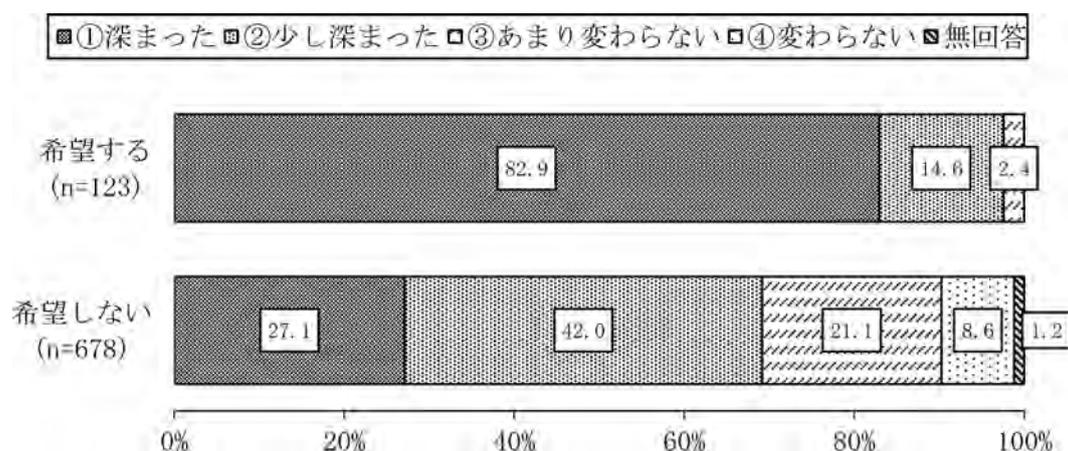


図 2.1.8 保育・幼児教育への進学希望別 保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり

(保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向)

出前授業を受け、「保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うか」と尋ねたところ、「そう思う」「少しそう思う」と回答した生徒は 39.9% で、4 割近くの生徒が出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思っていることが分かった。

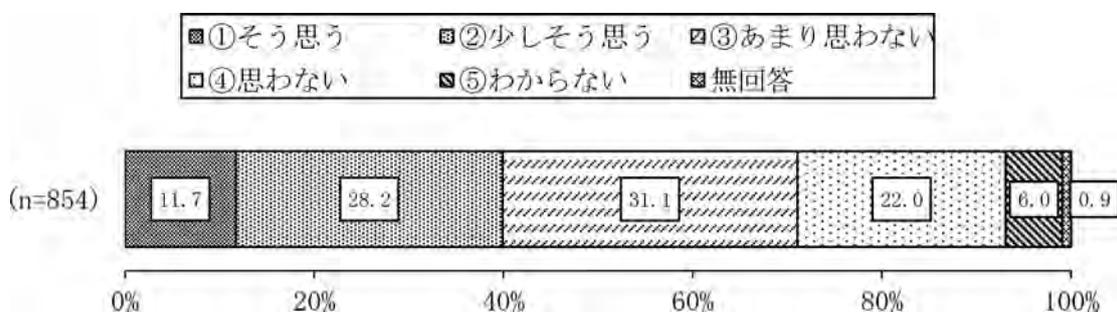


図 2.1.9 保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「そう思う」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒 (54.5%) と希望しない生徒 (4.7%) では 50 ポイント程度の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科への進学先したいという思いを強くしていることが分かった。しかし、「少しそう思う」を合わせると、希望しない生徒でも 29.9% が保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思っていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、3 割弱の生徒は出前授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになることが分かった。

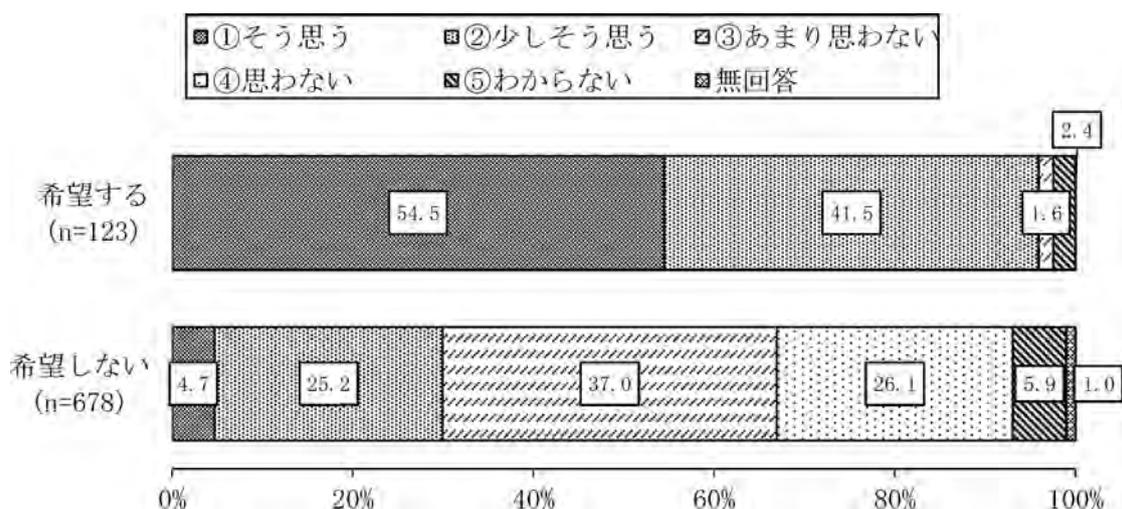


図 2.1.10 保育・幼児教育への進学希望別 保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向

イ. 出前授業に対する感想

出前授業について関心をもったかどうか尋ねたところ、「関心をもった」「少し関心をもった」と回答した生徒は 94.0% で、ほとんどの生徒が出前授業の内容に関心をもったことが分かった。

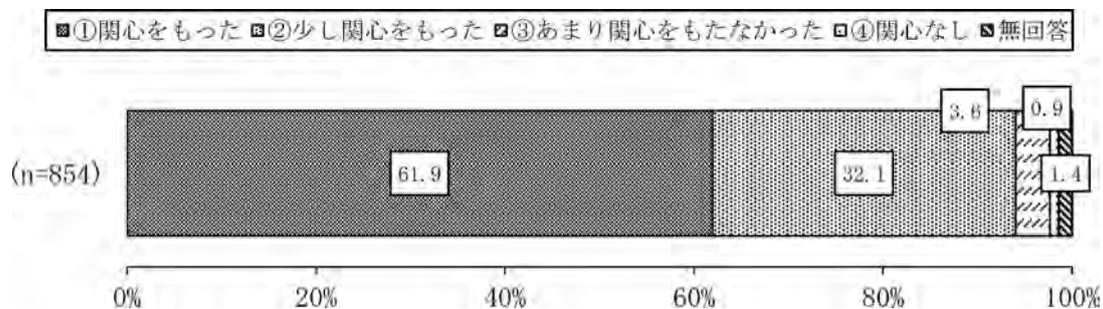


図 2.1.11 出前授業への関心

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「関心をもった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒 (88.6%) と希望しない生徒 (58.6%) で大きな差がみられたものの、「少し関心をもった」を合わせると、いずれも 9 割を超えることから、進学希望の有無に関わらず、ほとんどの生徒が出前授業の内容に関心をもったことが分かった。

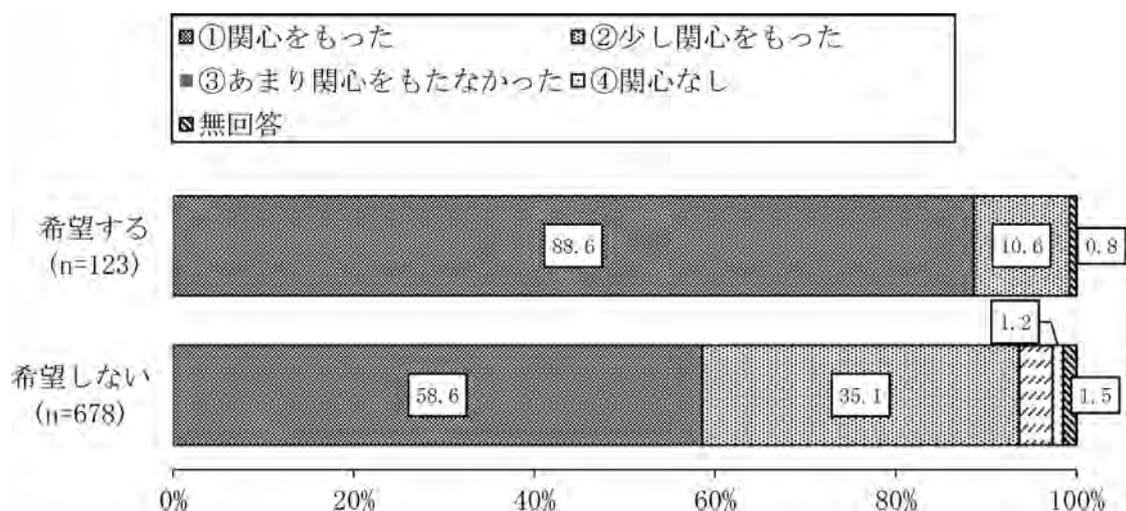


図 2.1.12 保育・幼児教育への進学希望別 出前授業への関心

<重回帰分析による要因分析>

出前授業による保育・幼児教育系の学部学科への進学希望の変化の要因を探るため、保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化を説明変数、保育・幼児教育系の学部学科への進学希望の変化を目的変数とした重回帰分析を行った。

分析の結果、出前授業を通じて「保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思った」という意識の変化は「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まったか」(0.44)や「保育職に興味や関心が深まったか」(0.28)と有意に関連していることが分かった。

この結果から、保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まり、保育職に興味や関心が深まることで、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思う傾向にあることが示唆された。

表 2.1.2 「保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思ったか」を目的変数とした重回帰分析の結果

	偏回帰係数
子どもや子育てについて興味や関心が深まったか	-0.03
保育職のイメージが変わったか	-0.01
保育職に興味や関心が深まったか	0.28***
保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まったか	0.44***
出前授業への関心について	0.09
N	782
F 検定	117.16***
自由度調整済み R ²	0.43

<出前授業の主な感想>

- ・今までは、保育士は特別な事情のある児童の世話をするというイメージしか持っていっていませんでしたが、授業を通して、児童が住みやすい社会づくりであったり、指導なども仕事の一つであると分かりました。また、様々な児童によって施設があるということを知ることが出来たのでよかったです。
- ・子どもの育て方について深く学べて良かった。今、自分が幼児にしたほうがよいことは、自分が幼児の頃に大人の人にしてもらいたかったことなんだと実感して、保育の授業の経験を生かして幼児に接したいと思った。
- ・子どもの一つ一つの行動や何気ない発言は全て子どもの成長のきっかけになることが分かり、改めて教育の面白さや魅力を知れた。思ったより子育てに関わる仕事が多く驚いた。
- ・子どもの非認知能力を高めるためには、子どもを否定しない、すぐに答えを教えないということが大切だと知った。これは私が親になったときにすごく役立つと思う。
- ・自分の小さい頃の経験が今の探究の授業だったり思考につながっていることを知れて、親に感謝しようと思えました。また自分も親の立場になったときにはこれらのことを生かしていきたいです。
- ・自分は社会福祉に興味があり、もし将来児童福祉に関わることがあったら、今回の授業で学んだことはとても生かせると思いました。また、もし自分が母親になったら、私も自然が好きなので子どもと自然の中で遊びたいと思いました。昔のことを思い出すと、大人が思っているより幼児はたくさん頭を働かせているんだなと思いました。
- ・今まで幼稚園児が考えていることについて興味は無かったが、この授業を聞いて、非認知能力を身につけていることを知り、想像していたよりも遊びが大切なのだと分かった。幼稚園児のときにいかに非認知能力を身に付けられるかが将来に影響してくることに驚いた。
- ・子どもがどうして幼稚園、保育所に通うべきなのかが、納得し、関心をもった。私たちの学びと乳幼児の学びを比較する場面では乳幼児が生活を通して学ぶとの結論がでたとき納得がいった。とても保育職に対して学べるよい機会だった。
- ・私自身、将来、教育に関する仕事に就きたいと思っていたので、貴重なお話を聞いて、とても参考になりました。私は、中・高の教員に初め興味がありましたが、今回のお話を聞き、幼児についてのおもしろさや感心がわきました。今日学んだことを将来の自分の選択につなげていきたいと思いました。
- ・幼児期の生活は一番重要であると考えました。脳の成長、心の成長体の成長をするためには睡眠をすることだった。日本は世界的に見ても一番子どもも大人も睡眠時間が少ないため、改善すべき点といえる。今回の体験授業を受けてみて、子どもとの接し方やどうやったら子どもがよろこんでくれるのかがわかり、今後子どもと関

わる際、生かしていきたいです。

- 小さな子はとても好きなのですが、今まで保育の学びを深める機会があまりありませんでした。今回の体験授業を通して保育は様々なことがらと関連があることを知りました。また睡眠の重要性・食の重要性などを改めて考えるよい時間でした。
- 父が福祉関係の仕事をしていることもあり、少し身近な内容でしたが、事例やそれに対する対処法などを実際に聞き更に理解が深まりました。障害をもつ人だけでなく、周りも変わっていくことが大切なのだと感じました。疑似体験を通して、手伝ってくれたりする人の温かみが身にしみました。
- 保育・幼児についてあまり関心がありませんでしたが、今回の講義で少し興味がわきました。子どもの貧困や格差について日本は世界的に見ても問題があると、初めて知り、この問題にどう向き合うか考えていく必要があるなと思いました。
- 保育士さんのお給料がそこまで低くないこと、女子高校生からの人気も高いことを初めて知りました。今まで間違ったイメージをもっていたので、正しい情報を知ることができて良かったです。また、講演を通して固定概念にとらわれずに様々な視点からみて、調べることで、新しいことが知れると感じました。そして、将来子どもができたときは1人で抱え込まずに保育所や幼稚園などを利用し、「質の高い保育」を受けさせてあげたいと思いました。
- 保育士という職業には公務員の枠もあるということに驚いた。保育士の適性やなりたいたいという心がないのに、実際に先生になってしまう人もいることが少し恐ろしいと思った。沖縄の貧困率があまりにも高く、日本にも貧困な人が多いという事実を知らなかった自分が少しはずかしくなったので、これを機に日本の保育の現状についてもっと調べたい。
- 手遊びや紙1枚で楽しさの広がりが凄く印象に残りました。現代はインターネット（YouTube等）に頼ることばかりだけれど、人と人との間でしか得ることのできない尊い経験があるのだと改めて痛感しました。“保育”とは何か、保育の現状。様々なことを学ぶことができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 保育について詳しく学ぶことができました。保育は、大変なこともあると思うけれど、子どもの成長にとってとても大切なのだと改めてわかりました。お弁当箱の歌がとても楽しかったです！子どもの食への興味が広がるきっかけになるなと思いました。保育職への興味、関心が深まりました。私も保育職についてもっと知りたいです！
- 赤ちゃんを育てるには、とても大変であると同時に、楽しいこともたくさんあると分かりました。また、保育士は働きっぱなしで忙しいイメージしかなかったけど、赤ちゃんと一緒に遊んだり喜ばせるのはとてもやりがいのある仕事だとイメージと考えが変わりました。

- ・私は将来、保育士を目指しています。そのため、こういった実際の保育現場で遊んでいることであつたり、内容を知れるとても貴重な機会でした。保育士は子どもの成長を見守る仕事ですが、それ以上に、子ども見て、子どもから得る学びもたくさんあると思うので、大学での実習などでは、こういった子ども心を大切にしたいと思います。
- ・実際に赤ちゃんとふれあう機会がなかったが、今回の授業を通して赤ちゃんと交流を深める遊びをしたり、だっこの仕方を学んだりしてふれあうことができてよかった。この経験を生かし、将来に役立てていきたいと思う。
- ・将来、幼稚園で働きたいと考えていて、今回の授業を通してより保育について関心を持つことができてとてもよい時間になったと思います。幼稚園生の頃、自閉症の子の支援をしていたのである程度障害のある子について知っていると思ったけれど、自分で体験したことによってより理解をできてとてもよかったです。
- ・障害を持った子は様々な困難があることを知ってはいたが、ここまで大変だったとは知らなかった。弱視メガネ(?)をつけたら、とても見えづらいし、手袋をすることでつかみにくくなったりしたので、大変だと思った。あまりこういった体験ができる機会がないので、良かった。福祉関係の仕事に就きたいと思っていたのでよい学びになりました。

③ まとめ

本調査の結果、高校生を対象に出前授業を行い、幼児教育の重要性や保育職の魅力を伝えたり、進路選択に役立つ情報を提供したりすることで、子どもや子育てに対する興味・関心が深まり、保育職のイメージにも好意的な変化があることが分かった。また、重回帰分析を行った結果、出前授業を通じて保育や幼児教育に関する学びを深め、保育職や保育・幼児教育系の学部学科に対する興味・関心が高まることで、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになる傾向も示唆された。

出前授業の成果は、保育職を希望する生徒で多くみられたが、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、保育職に対する興味・関心が高まったり、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになりたりする生徒が一定数いることも分かった。出前授業の主な感想をみると、「子どもがどうして幼稚園、保育所に通うべきなのかが、納得し、関心をもった。私たちの学びと乳幼児の学びを比較する場面では乳幼児が生活を通して学ぶとの結論がでたとき納得がいった。」「赤ちゃんを育てるには、とても大変であると同時に、楽しいこともたくさんあると分かりました。また、保育士は働きっぱなしで忙しいイメージしかなかったけど、赤ちゃんと一緒に遊んだり喜ばせるのはとてもやりがいのある仕事だとイメージと考えが変わりました。」「保育・幼児についてあまり関心がありませんでしたが、今回の講義で少し興味がわきました。子どもの貧困や格差について日本は世界的に見ても問題があると、初めて知り、この問題にどう向き合うか考え

ていく必要があるなと思いました。」といった感想が多数みられた。

以上のことより、高校生に保育職の魅力を伝え、将来の保育者の芽をはぐくんでいくためには、高大連携の観点から保育・幼児教育に係る出前授業を積極的に取り組んでいくことが大切であると考えます。

2. 取組 B オープンキャンパスを活用した模擬授業や個別相談

(1) 取組の対象とポイント

高校生と対象としたオープンキャンパスにおいて、大学での学びをよりリアルに体験できる模擬授業と学科教員による個別相談を実施した。模擬授業を通して、子どもの発達や幼児教育への関心を高める。個別相談を通して、養成校の理念やカリキュラム、進路指導について紹介し、幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高める。

(2) 実施体制

令和6年度のオープンキャンパスは、8月3日、8月4日、8月24日に実施した(表2.1.3)。模擬授業は高校生の関心の高い乳児保育、心理学、今日的課題(幼児教育・保育の格差)に関わるテーマで実施した。

各日程、模擬授業担当教員1名、個別相談担当教員1名で実施した。

表 2.1.3 オープンキャンパス担当者

	8月3日	8月4日	8月24日
模擬授業	塩谷香 乳児の発達と保育	結城孝治 心とからだの発達	柳生崇志 幼児教育・保育の格差 と心理学
個別相談	中野圭祐	山瀬範子	廣井雄一

(3) 実施報告

オープンキャンパスの来場者数、模擬授業、個別相談の参加者は以下の通りである(表2.1.4)。

表 2.1.4 オープンキャンパス参加者

	8月3日	8月4日	8月24日
来場者数(同伴者含む)	1,623名	1,525名	1,465名
模擬授業	92名	98名	77名
個別相談	19件	18件	24件

1) 模擬授業

各回のオープンキャンパスでは、11時30分から12時15分に模擬授業を実施した。模擬授業担当教員による授業実施後の振り返りは以下の通りである。

①「乳児の発達と保育」

乳児保育の現状から、乳児期の発達を乳児の視点から説明し、乳児期の発達の重要性をまず認識していただくことを目的としました。また子育て支援の必要性や子育てが親として成長できるものであること、育てるものの責任は社会全体で負うものであることも伝え

ました。

たくさんの高校生の皆さんやその保護者の方々が大変熱心に聞いてくださったのが何より印象的でした。とくに保護者の皆さんにも身近なことでもあるので興味を持ってくださったのかもしれませんが。オープンキャンパスの模擬授業は、高校生の皆さんに向けてのものであることはもちろんのことですが、保護者の方々にも「聞いてよかった！」と感じていただけるようなものであることも今後重要なことと思いました。

②「心とからだの発達」

模擬授業ということで、「発達と学習」（1年生:幼稚園教諭免許および保育士資格科目）の一部を高校生向けにアレンジして実施しました。内容は、第4回目の乳児期から幼児期にかけての「身体機能と運動機能の発達」から抜粋しています。

高校生にとっては、身体機能や運動機能の発達、例えば、寝返りをする、座る、歩く、ものを取ろうとするなど、「自然にできるようになる」というイメージをお持ちのようでしたが、保育環境・養育環境の工夫、また養育者の関わりにおいて、どのような点が配慮されており、子どもの自発性を刺激しながら、徐々に発達していくものであるという点を理解していただけるよう説明しました。

高校生にとっては、今の自分が周りの大人のかかわりによって育てられてきたこと、具体的に大人のどんな意図や願いがそこにあるのかを理解していただけたと思います。就学後の教育とは異なり、乳幼児期の発達は、「自然とそうなるものだ」という思い込みを取り払い、保育や幼児教育の中でも大人の配慮や工夫があることを知っていただけたかと思えます。

③「幼児教育・保育の格差と心理学」

今回の模擬授業では、「幼児教育・保育の格差と心理学」と題して、私が担当している大学1～2年生対象の授業内容のごく一部を再構成して解説しました。本学科を志望する高校生の皆様は、保育士資格や幼稚園教諭一種免許を取得するための勉強はイメージしやすいと思いますが、その周辺にはさまざまな学問分野が展開されていることや深刻な社会課題との向き合い方などを意識することは容易ではないかもしれず、少々難しい内容だったかもしれません。

幅広いトピックについて急ぎ足で解説したにもかかわらず、受講してくださった高校生や保護者の方々は熱心にメモをとり、授業の終わりには保育の本質や子どもの貧困問題などの社会課題に関する質問も寄せられ、意識・関心の高さがうかがえました。

この模擬の受講が、本学科への進学検討にとどまらず保育職や幼児教育・保育に関心を持つきっかけの一つとなっただけなら幸いです。

Sec. 2 乳児期の運動発達

- ・乳児期後半の運動発達
(3) 無指固執(乳児期後半)
- ①つかむこと手放すこと
掴んだものを確認する認識作業
手放して、新しい物をつかむ認識作業
↓
比較する力のもと



図 2. 1. 13 結城教授模擬授業資料

格差をどうとらえるか？

1. 適切で質の高い幼児教育・保育を受けられるか受けられないか？
→ 幼児教育・保育の無償化制度の実現(済) → 拡充
2. 家庭ベースの体験(遊び)の豊かさは？
→ 「習い事」の意義や格差を考える cf. ピアノ、英語、スイミング…
3. 国や地域の特徴(考え方や個性)と具体的施策は？
→ 汎用的・普遍的な“あるべき姿”の確立よりも、個別最適な施策

生活の安定



体験の安定

図 2. 1. 14 柳生准教授模擬授業資料

2) 個別相談

各回のオープンキャンパスでは、学科教員による個別相談を10時▶から12時と13時から15時に実施した。個別相談では教員に対して以下のような質問があった。

Q: OCでのほかの企画で教員や在学生と話したときの印象から「人間開発」の理念に関心をもった。ほかの養成校との違いになるような特色について教えてほしい。

A: 「人間開発」や「子ども支援」の理念についてお話し、カリキュラム上の特色について説明しました。教員から個別に説明を受けて、自分の持つ教育観に近いものがあることがわかり、意欲が高まったとのことでした。

Q: 公立保育所での就職を考えている。どのような就職支援があるか？

A: 採用試験に向けたサポート体制、卒業生の進路状況について、資料等を用いて説明をしました。

Q: 幼稚園教諭等は短大でも4年制の大学でも取得できる。短大と大学の違いを教えてください。

A: 短大の養成の特徴、大学の養成の特徴を説明しました。



図 2. 1. 15 個別相談の様子

(4) 効果検証の手法

模擬授業や個別相談の参加人数、模擬授業担当教員の授業実施後の振り返り、個別相談担当教員の報告などから総合的に評価した。

(5) 取組の成果と課題

模擬授業は、高校生の関心の高い乳幼児の発達や今日的課題に関わるテーマで実施した。参加人数は、3日間で267名、参加率（参加数／予約数）は平均82%で良好だった。担当教員の振り返りでも参加者の熱心な様子が報告された。また、付き添いで参加された保護者も同様に関心を持って熱心に参加されていた様子もうかがえた。一方、乳児保育を担当した教員からは、保育の魅力を発信するためには赤ちゃん人形を使用した演習形式が望ましかったが、オープンキャンパスの運営の関係で大教室での講義になってしまったとの意見もあった。

学科教員による個別相談は、3日間で61名、参加率（参加件数／予約件数）は平均56%であった。参加者からは、本学の理念に基づいた保育者養成、養成年数の違いによる養成の違いや就職に関わる支援について質問等があり、学科教員の具体的な説明により、「意欲が高まった」と参加者からの感想が得られた。

今後の課題は、模擬授業では、取り扱う分野の検討や実施する際の授業形態（講義・演習等）の検討が挙げられた。個別相談については、より参加しやすい時間設定や実施方法の検討が挙げられた。

3. 取組 C 養成校生によるキャンパスツアー

(1) 取組の対象とポイント

高校生を対象にオープンキャンパスにおいて、養成校生が案内するキャンパスツアーを実施した。受験生と養成校生との交流を通して、養成校の授業や取組、大学生活などを紹介、幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高めることをポイントとした。

(2) 実施体制

2024年8月3日、4日、24日の3日間の本学オープンキャンパスにおいて、養成校生によるキャンパスツアーを実施した。ツアーは1回45分間、回数は各日10便（午前午後各5便）であった。ツアーの経路と参加した養成校生の概要は以下のとおりであった。

【ツアー経路】

集合の教室でのキャンパスツアーの説明→リトミック室→図画工作室→ピアノレッスン室→音楽室→多目的室→乳児室→観察室・保育室

【養成校生の概要】

案内学生：子ども支援学科2年～4年生、各回1名で案内。各日5名で2巡体制（うちリーダー2年生1名）。担当人数：8月3日5名、8月4日5名、8月24日4名。

保育室では、本プロジェクトメンバーの子ども支援学科教員各回1名が待機。

(3) 実施報告

1) ツアー全般

各回養成校生1名がコンダクターとなり、保育実技を学ぶ教室（乳児室やピアノ室等）を順に案内した（ツアースケジュール参照）。集合の教室では、養成校生がツアーの説明を行い、参加者の座席には学科の授業を写真付きで紹介したファイルを用意して、高校生が養成校の授業の様子を手に取り閲覧できるようにした（図2.1.16-17）。養成校生は、教室を案内しながら、日頃、どういった授業を受け、どのようなことを学んでいるのかなど、幼児教育を学ぶ楽しさや魅力について語った。図工室では、幼稚園等の実習を想定し、描画、工作、歌、体を動かすことといった表現遊びのための教材研究や模擬保育を行っていること説明し、自分たちが制作した作品とともに説明した（図2.1.18）。

2) 学びの実演—模擬保育—

保育室では、担当の学生が短い模擬保育を実演した。学生は授業で作成したペープサートやパネルシアター、実習行った手遊び、歌遊びなど、それぞれが大学の学修と実習を通して習得したものを実演した。学生は実演に際し、保育者を目指した理由、座学や実習を通して保育職への思いがより強くなったことなど、各自の保育への思いや保育職の魅力を目の前の高校生へ語った。参加の高校生や保護者はその語りに聞き入っていた。

また、学生の國學院での学びの一端を示せるものとして、1年次の基礎演習で作成した「絵本カード」や自作のペープサート、スケッチブックなどを保育室の外に展示し、退出時に高校生に説明をした（図2.1.19）



図 2.1.16 キャンパスツアーへの説明



図 2.1.17 授業説明（一部）



図 2.1.18 ツアーの様子（図工室）



図 2.1.19 （保育室前の展示）

（4）効果検証の手法

キャンパスツアーの参加人数、来場者の評価、養成校生の感想、観察によるエピソード記録などから取組を総合的に評価した。

（5）取組の成果と課題

今回は高校生を対象に、学生が様々な工夫をこらしたキャンパスツアーを実施した。参加人数は3日間で289名、参加率(参加数/予約数)は平均78%で良好だった。オープンキャンパス全体の満足度は9割の来場者が満足している結果となった。参加者からは、幼児教育や保育を学びたいという意欲を高めるよい機会になった、キャンパスツアーの最後に実際の模擬授業で行っている手遊びや、先生の声が聞けたのでとても良かった、などの感想を得た。ツアー担当の学生からは、これまでの自らの保育の学びを振り返ることができた、自身の進路を再確認する機会となった等の感想があった。

進路検討中の高校生にとっては、保育の学びに真剣に取り組む養成校生を目の当たりにし、また交流することで、教職課程のイメージが明確になり、幼稚園教諭の仕事に対する理解が深まる機会となったと考えられる。結果として、高校生の幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高める上で、本キャンパスツアーは有用であったと言える。今後の課題として、入学から就職までの学びの流れを、4年生から高校生へリアルに伝える方法の検討などが挙げられた。

4. 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（二次分析）

（1）二次分析の概要

① 二次分析の目的

昨年度の調査研究では、高校生 1,000 人を対象にウェブアンケートを実施し、保育職に対するイメージや保育・幼児教育分野への進学希望について明らかにした。

今年度は、高校生の保育職に対するイメージ向上や保育・幼児教育分野への進学希望の増進に資する情報を得ることを目的に、昨年度の調査データを再分析し、より精緻な考察を行うこととした。

② 調査データの概要

調査データの対象は、調査会社にモニター登録している高校生 1,000 人である。回答者の内訳は、性別では男子 186 人、女子 785 人、回答したくないが 29 人となっており、学年別では、1 年生 340 人、2 年生 365 人、3 年生 294 人、その他 1 人となっている。

調査の主な内容は、「卒業後の希望進路」「中学生以降の幼稚園・保育所との関わり」「保育職に対するイメージ」「保育職への関心・希望」「保育職の魅力をも高める工夫や取組」などである。

調査結果の詳細については、昨年度の研究成果報告書『幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発』の pp. 34 - 51 を参照されたい。

③ 分析方法

二次分析では、中学生以降の保育の仕事に触れた機会や保育・子育てに関する授業、保育職に対する興味・関心やイメージが、保育・幼児教育関係への進学希望や保育職への就職希望に与える影響を検証するため、クロス集計とロジスティック回帰分析を行った。クロス集計では χ^2 検定や残差分析を行い、その有意性についても検討した。

クロス集計を行うにあたり、保育・幼児教育関係への進学希望については「進学を希望する学部」の回答を基に、保育・幼児教育関係への進学希望群（46 人）と保育・幼児教育関係以外への進学・就職希望群（954 人）の 2 群に分け、保育職への就職希望については「保育の仕事への興味や関心」と「将来、幼稚園や保育所の先生になりたいか」の回答を基に、保育職を希望する群（164 人）、保育職に興味はあるが希望しない群（174 人）、保育職に興味・関心がない群（662 人）の 3 群に分け、保育の仕事に触れた機会や保育・子育てに関する授業、保育職に対するイメージ等との関係について検証した。保育の仕事に触れた機会や保育や子育てに関する授業等の回答については、選択肢の構造を簡素化するため、例えば、「肯定的」（楽しかった、まあ楽しかった）や「否定的」（あまり楽しくなかった、楽しくなかった）にするなど、適宜、選択肢を統合して集計を行った。

χ^2 検定は両側検定で $p < 0.05$ を有意とし、両側検定による残差分析の有意確率は、 $|r| > 3.29$ ならば $p < 0.001$ (***)、 $|r| > 2.58$ ならば $p < 0.01$ (**), $|r| > 1.96$ ならば $p < 0.05$ (*) とした。なお、残差分析の結果については、調整済み標準化残差の数値は記載せず、有意差のみ表に記載している。

次に、保育・幼児教育分野への進学希望や保育職への就職希望に与える要因を検証するため、「保育・幼児教育関係への進学希望群」と「保育職を希望する群」をそれぞれ目的変数とし、保育の仕事に触れた機会や保育・子育てに関する授業、保育職に対する興味・関心やイメージを説明変数としたロジスティック回帰分析を行った。

なお、「保育に対するイメージ」は単一選択式設問 (SA) と複数選択式設問 (MA) が設定されていたため、 χ^2 検定は単一選択式設問 (SA)、ロジスティック回帰分析は複数選択式設問 (MA) を用いて分析を行った。

統計解析は統計ソフト R Ver. 4. 4. 2 を用いて行った。

(2) 分析結果

① クロス集計と χ^2 検定・残差分析の結果

ア. 保育・幼児教育関係への進学希望との関係

保育・幼児教育関係への進学希望と、保育の仕事に触れた機会や保育・子育てに関する授業、保育職に対する興味・関心やイメージとのクロス集計を行い、 χ^2 検定と残差分析でその有意性を検証した (表 2. 1. 5、2. 1. 6)。

χ^2 検定の結果、「保育や子育てに関する授業 (家庭科) の印象」、「保育の仕事に対するイメージ」「幼稚園や保育所の先生になりたいと思ったきっかけ」を除き、すべての設問で有意差が認められた。

残差分析の結果をみると、「中学生以降に幼稚園や保育所の先生の働く姿を見た経験」では、保育・幼児教育関係への進学希望群で「ある」(73. 3%)、保育・幼児教育関係以外への進学・就職希望群で「ない」(53. 0%) が有意に多く、「学校の職場体験で幼稚園や保育所に行ったこと」でも、保育・幼児教育関係への進学希望群で「ある」(45. 7%)、保育・幼児教育関係以外への進学・就職希望群で「ない」(75. 6%) が有意に多かった。また、「学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会」をみても、保育・幼児教育関係への進学希望群で「あった」(85. 7%)、保育・幼児教育関係以外への進学・就職群で「なかった」(51. 0%) が有意に多かった。

次に、「保育の仕事に対する興味・関心」をみると、保育・幼児教育関係への進学希望群で「ある」(95. 7%)、保育・幼児教育関係以外への進学・就職希望群で「ない」(69. 2%) が有意に多く、「将来、幼稚園や保育所の先生になりたいか」でも、保育・幼児教育関係への進学希望群で「思う」(88. 6%)、保育・幼児教育関係以外への進学・就職希望群で「思わない」(57. 5%) が有意に多かった。また、「幼稚園や保育所の先生になりたいと思ったきっかけ」では、保育・幼児教育関係への進学希望群で「自分が通っていた幼稚園や保育所の先生に憧れたから」(15. 4%) が有意に多くなっていた。

表 2.1.5 保育・幼児教育関係への進学希望別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果①

	保育・幼児教育関係への進学希望				chisq-test
	全回答	保育・幼児教育関係への進学希望		②	
		①	②		
中学生以降に幼稚園や保育所の先生の働く姿を見た経験	N	916	45	871	chisq-test : 10.889***
ある		48.3%	73.3%***	47.0%***	
ない		51.7%	26.7%***	53.0%***	
学校の職場体験で幼稚園や保育所に行ったこと	N	1,000	46	954	chisq-test : 9.347**
ある		25.4%	45.7%**	24.4%**	
ない		74.6%	54.3%**	75.6%**	
学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会	N	812	42	770	chisq-test : 20.081***
あった（よくあった、少しあった）		50.9%	85.7%***	49.0%***	
なかった		49.1%	14.3%***	51.0%***	
保育や子育てに関する授業（家庭科）の印象	N	838	42	796	chisq-test : 2.918
肯定的（楽しかった、まあ楽しかった）		81.7%	92.9%	81.2%	
否定的（あまり楽しくなかった、楽しくなかった）		18.3%	7.1%	18.8%	
保育の仕事に対するイメージ	N	1,000	46	954	chisq-test : 12.540
やりがいがある		4.3%	4.3%	4.3%	
楽しい		2.0%	4.3%	1.9%	
子どもの成長を支える		14.3%	17.4%	14.2%	
子育てのプロ		5.6%	6.5%	5.6%	
専門的な知識・技術を必要とする		1.4%	0.0%	1.5%	
責任が重い		12.1%	15.2%	11.9%	
社会的に重要な仕事		4.8%	6.5%	4.7%	
子どもが好きでないと務まらない		21.5%	13.0%	21.9%	
残業が多い		6.3%	6.5%	6.3%	
保護者を支える		2.2%	0.0%	2.3%	
賃金が低い		16.7%	26.1%	16.2%	
人間関係が難しい		3.8%	0.0%	4.0%	
この中にはひとつもない		5.0%	0.0%	5.2%	

表 2.1.6 保育・幼児教育関係への進学希望別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果②

	全回答	保育・幼児教育関係への進学希望		chisq-test
		①	②	
保育の仕事に対する興味・関心				
N	1,000	46	954	79.569***
ある(ある、少しある)	33.8%	95.7%***	30.8%***	
ない(あまりない、ない)	66.2%	4.3%***	69.2%***	
将来、幼稚園や保育所の先生になりたいか				
N	338	44	294	30.770***
思う(思う、少し思う)	48.5%	88.6%***	42.5%***	
思わない(あまり思わない、思わない)	51.5%	11.4%***	57.5%***	
幼稚園や保育所の先生になりたいと思ったきっかけ				
N	164	39	125	19.552
子どもが好きだから	42.1%	16.2%	40.8%	
弟や妹の面倒をみていたから	3.7%	7.7%	2.4%	
自分が通っていた幼稚園や保育所の先生に憧れたから	7.9%	15.4%*	5.6%*	
幼稚園や保育所で職場体験したから	2.4%	0.0%	3.2%	
中学校や高校の授業で保育について学んだから	1.8%	0.0%	2.4%	
保育の仕事に興味があったから	12.2%	12.8%	12.0%	
自分の性格に合っているから	3.7%	0.0%	4.8%	
得意なことを活かせると思ったから	3.7%	0.0%	4.8%	
子育てに役立つと思ったから	5.5%	2.6%	6.4%	
人のため、社会貢献できる職業だから	7.9%	7.7%	8.0%	
身近に幼稚園や保育所で働いている人がいるから	3.0%	5.1%	2.4%	
親や先生などに勧められたから	3.7%	0.0%	4.8%	
就職に困らないと思ったから	0.6%	2.6%	0.0%	
その他	0.0%	0.0%	0.0%	
わからない・覚えていない	1.8%	0.0%	2.4%	

イ. 保育職への興味・関心や就職希望との関係

保育職への興味・関心や就職希望と、保育の仕事に触れた機会や保育・子育てに関する授業、保育職に対するイメージとのクロス集計を行い、 χ^2 検定と残差分析でその有意性を検証した(表 2.1.7)。

χ^2 検定の結果、すべての設問で有意差が認められた。残差分析の結果をみると、「中学生以降に幼稚園や保育所の先生の働く姿を見た経験」では、保育職を希望する群で「ある」(68.2%)、保育職に興味・関心がない群で「ない」(58.5%)が有意に多く、「学校の職場体験で幼稚園や保育所に行ったこと」でも、保育職を希望する群で「ある」(48.2%)、保育職に興味・関心がない群で「ない」(80.4%)が有意に多かった。「学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会」では、保育職を希望する群で「あった」(78.9%)、保育職に興味・関心がない群で「なかった」(61.3%)が有意に多くなっており、「保育や子育てに関する授業(家庭科)の印象」では、保育職を希望する群では「肯定的(楽しかった、まあ楽しかった)」(97.4%)、保育職に興味・関心がない群では「否定的(あまり楽しくなかった、楽しくなかった)」(27.2%)が有意に多くなっていった。

また、「保育の仕事に対するイメージ」をみると、保育職を希望する群では「子どもの成長を支える」(23.8%)、「楽しい」(5.5%)、「やりがいがある」(7.3%)で有意に多く、保育職に興味・関心がない群では「子どもが好きでないと務まらない」(25.4%)、「この中にはひとつもない」(6.9%)が有意に多くなっていった。

② ロジスティック回帰分析の結果

ア. 保育・幼児教育関係への進学希望に影響を与える要因

保育・幼児教育分野への進学希望に影響を与える要因を検証するため、「保育・幼児教育関係への進学希望群」を目的変数、保育の仕事に触れた機会や保育・子育てに関する授業、保育職に対する興味・関心やイメージを説明変数としたロジスティック回帰分析を行った(表 2.1.8)。

分析の結果、保育・幼児教育分野への進学希望と関連がみられたのは、「保育や子育てに関する授業(家庭科)の印象」、保育の仕事に対するイメージの「楽しい」と「専門的な知識・技術を必要とする」、「保育の仕事に興味や関心」であった。オッズ比をみると、「保育の仕事に興味や関心」(1.08)が最も有意に高く、次いで保育の仕事に対するイメージの「専門的な知識・技術を必要とする」(1.05)、「楽しい」(1.04)が有意に高くなっており、「保育や子育てに関する授業(家庭科)の印象」(0.98)については有意に低くなっていた。

表 2.1.7 保育職への興味・関心や就職希望別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果

保育職への興味・関心や就職希望

- ①保育職を希望する群
- ②保育職に興味はあるが希望しない群
- ③保育職に興味・関心がない群

	全回答	保育職への興味・関心や就職希望			
		①	②	③	
中学生以降に幼稚園や保育所の先生の働く姿を見た経験	N 916	157	164	595	chisq-test : 37.645***
ある	48.3%	68.2%***	53.7%	41.5%***	
ない	51.7%	31.8%***	46.3%	58.5%***	
学校の職場体験で幼稚園や保育所に行ったこと	N 1,000	164	174	662	chisq-test : 56.498***
ある	25.4%	48.2%***	25.9%	19.6%***	
ない	74.6%	51.8%***	74.1%	80.4%***	
学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会	N 812	147	158	507	chisq-test : 87.272***
あった（よくあった、少しあった）	50.9%	78.9%***	63.9%***	38.7%***	
なかった	49.1%	21.1%***	36.1%***	61.3%***	
保育や子育てに関する授業（家庭科）の印象	N 838	153	166	519	chisq-test : 72.781***
肯定的（楽しかった、まあ楽しかった）	81.7%	97.4%***	95.2%***	72.8%***	
否定的（あまり楽しくなかった、楽しくなかった）	18.3%	2.6%***	4.8%***	27.2%***	
保育の仕事に対するイメージ	N 1,000	164	174	662	chisq-test : 79.044***
やりがいがある	4.3%	7.3%*	7.5%*	2.7%***	
楽しい	2.0%	5.5%***	1.1%	1.4%*	
子どもの成長を支える	14.3%	23.8%***	19.0%	10.7%***	
子育てのプロ	5.6%	5.5%	6.0%	5.3%	
専門的な知識・技術を必要とする	1.4%	1.8%	1.1%	1.4%	
責任が重い	12.1%	11.6%	15.5%	11.3%	
社会的に重要な仕事	4.8%	4.9%	5.7%	4.5%	
子どもが好きでないと務まらない	21.5%	11.6%***	16.1%	25.4%***	
残業が多い	6.3%	6.1%	3.4%	7.1%	
保護者を支える	2.2%	1.8%	2.3%	2.3%	
賃金が低い	16.7%	15.2%	16.7%	17.1%	
人間関係が難しい	3.8%	4.3%	2.9%	3.9%	
この中にはひとつもない	5.0%	0.6%**	1.7%*	6.9%***	

表 2.1.8 保育・幼児教育関係への進学希望に影響を与える要因（ロジスティック回帰分析）

項目	偏回帰係数	オッズ比	95%信頼区間		偏回帰係数の検定		
			下限値	上限値	Wald値	p値 df=1	
中学生以降に幼稚園や保育所の先生の働く姿を見た経験	0.01	1.01	0.98	1.04	0.31	0.58	
学校の職場体験で幼稚園や保育所に行ったこと	0.01	1.01	0.98	1.04	0.20	0.66	
保育や子育てに関する授業（家庭科）の印象	-0.02	0.98	0.96	1.00	4.31	0.04*	
学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会	0.02	1.02	1.00	1.04	3.27	0.07	
保育の仕事に対するイメージ	やりがいがある	0.01	0.98	1.04	0.66	0.42	
	楽しい	0.04	1.04	1.00	1.08	4.95	0.03*
	子どもの成長を支える	-0.01	0.99	0.96	1.02	0.59	0.44
	子育てのプロ	-0.01	0.99	0.96	1.02	0.46	0.50
	専門的な知識・技術を必要とする	0.05	1.05	1.01	1.08	7.53	0.01**
	責任が重い	-0.01	0.99	0.97	1.02	0.37	0.54
	社会的に重要な仕事	0.00	1.00	0.98	1.03	0.07	0.79
	子どもが好きでないと務まらない	0.01	1.01	0.99	1.04	0.75	0.39
	残業が多い	0.00	1.00	0.98	1.03	0.11	0.75
	保護者を支える	0.01	1.01	0.98	1.04	0.62	0.43
	賃金が低い	0.02	1.02	0.99	1.04	1.48	0.22
	人間関係が難しい	0.00	1.00	0.98	1.03	0.09	0.76
この中にはひとつもない	0.04	1.04	0.98	1.11	1.62	0.20	
保育の仕事に興味や関心	0.07	1.08	1.06	1.09	86.91	0.00***	

イ. 保育職への興味・関心や就職希望との関係

保育職への興味・関心や就職希望に影響を与える要因を検証するため、「保育職を希望する群」を目的変数、保育の仕事に触れた機会や保育・子育てに関する授業、保育職に対するイメージを説明変数としたロジスティック回帰分析を行った（表 2.1.9）。

分析の結果、保育職への就職希望と関連がみられたのは、「学校の職場体験で幼稚園や保育所に行ったこと」、「保育や子育てに関する授業（家庭科）の印象」、「学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会」、保育の仕事に対するイメージの「楽しい」が有意に関連した。オッズ比をみると、「保育や子育てに関する授業（家庭科）の印象」（2.87）が最も有意に高く、次いで「学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会」（2.28）、「学校の職場体験で、幼稚園や保育所に行ったこと」（2.08）、保育の仕事に対するイメージの「楽しい」（1.89）が有意に高くなっていた。

表 2.1.9 保育職への就職希望に影響を与える要因（ロジスティック回帰分析）

項目	偏回帰係数	オッズ比	95%信頼区間		偏回帰係数の検定		
			下限値	上限値	Wald 値	p 値 df=1	
中学生以降に、幼稚園や保育所の先生の働く姿を見た経験	0.22	1.25	0.78	2.00	0.85	0.36	
学校の職場体験で、幼稚園や保育所に行ったこと	0.73	2.08	1.33	3.24	10.29	0.00**	
家庭科で受けた授業のうち、保育や子育てに関する授業の印象	1.06	2.87	2.08	4.02	39.43	0.00***	
学校の授業以外で、保育や子育てについて調べたり、話を聞くような機会	0.82	2.28	1.70	3.08	29.76	0.00***	
保育の仕事に対するイメージ	やりがいがある	0.33	1.39	0.89	2.17	2.09	0.15
	楽しい	0.64	1.89	1.20	2.98	7.51	0.01**
	子どもの成長を支える	0.24	1.27	0.81	1.99	1.08	0.30
	子育てのプロ	-0.07	0.93	0.59	1.45	0.10	0.75
	専門的な知識・技術を必要とする	0.19	1.21	0.72	1.99	0.52	0.47
	責任が重い	-0.23	0.79	0.51	1.22	1.09	0.30
	社会的に重要な仕事	-0.27	0.76	0.47	1.22	1.24	0.27
	子どもが好きでないと務まらない	-0.41	0.66	0.44	1.00	3.83	0.05
	残業が多い	0.34	1.40	0.90	2.18	2.23	0.14
	保護者を支える	-0.39	0.68	0.42	1.10	2.44	0.12
	賃金が低い	-0.20	0.82	0.53	1.26	0.84	0.36
	人間関係が難しい	-0.35	0.70	0.44	1.11	2.23	0.14
	この中にはひとつもない	-2.04	0.13	0.01	0.69	3.68	0.06

(3) まとめ

二次分析の結果、保育・幼児教育分野への進学を希望する高校生は、そうでない高校生と比べ、中学生以降に幼稚園や保育所で働く先生の姿を見たり、職場体験で現場を訪れた経験がある高校生が多いことが明らかになった。また、学校の授業以外でも保育や子育てについて調べたり、話を聞く機会があったほか、将来的に幼稚園や保育所の先生になりたいという意欲や、実際に通っていた幼稚園や保育所の先生に対する憧れもその背景にあることが分かった。

同様に、保育職への就職を希望する高校生も実際の保育現場に触れる機会が多く、保育や子育てに関する授業に対して肯定的な印象を持ち、保育の仕事に対して「子どもの成長を支える」「楽しい」「やりがいがある」といった前向きなイメージをもっていることも分かった。

一方、保育職に興味・関心がない高校生については、幼稚園や保育所で働く先生の姿を見たり、保育現場に触れたりする機会が少なく、保育や子育てについて学ぶ機会も限られており、保育の仕事に対して「子どもが好きでないと務まらない」といった印象を抱いて

いることが明らかとなった。

以上の結果から、保育・幼児教育分野への進学や保育職を志望する高校生を増やすためには、以下の点が重要であると考ええる。

① 職場体験等を通じた直接体験の場や機会の提供

保育現場に実際に触れることで、保育の現状や魅力を理解できるよう、職場体験等の機会を積極的に設ける。

② 家庭科等を活用した学習環境の整備

家庭科の授業等で保育や子育てについて深く学べる環境を整え、保育の知識や意欲を高める。

③ SNS 等を通じた積極的な情報発信

保育職が子どもの成長を支える、楽しくやりがいのある仕事であるという魅力を、SNS などを通じて広く発信する。

これらの取組みにより、保育・幼児教育分野への関心を喚起し、将来的な進学・就職希望者の増加が期待できるのではないかと考える。

Ⅱ. テーマ② 養成校生を対象としたキャリア形成支援

1. 取組 D OBOG などとの交流会

(1) 取組名

学生と現職幼稚園教諭・保育者との交流会

(2) 取組内容

本事業の一つとして、① 11月16日(土)3限(13:05～14:35)に現職幼稚園教諭3名のトークライブ及び学生と現職幼稚園教諭との座談会、② 12月14日(土)2限(10:45～12:15)に現職保育者3名のトークライブ及び学生と現職保育者との座談会を行った。

(3) 取組の対象

- ① 教育実習事前指導受講中の2年次生101名、及び本学子ども支援学科を卒業した現職幼稚園教諭19名
- ② 保育実習事後指導受講中の3年次生79名、及び本学子ども支援学科を卒業した現職保育者17名

(4) 取組のポイント

① 11月16日(土)

教育実習事前指導の一環として、本学子ども支援学科を卒業した現職幼稚園教諭を招いて交流会を行った。前半の約30分間は現職幼稚園教諭3名と本学教員によるトークライブを行い、幼稚園教諭を志望した経緯や幼稚園教諭の仕事の魅力などについてインタビュー形式で講話をしていただいた。後半は学生(2年次生)5～6名に対して1名の卒業生を1グループとして座談会を行った。異なるOBOGの現職保育者と話す機会を設けるため、途中、卒業生がグループ間を移動した。

② 12月14日(土)

保育実習事後指導の一環として、本学子ども支援学科を卒業した現職保育者を招いて交流会を行なった。前半の約30分間は現職保育者3名と本学教員によるトークライブを行い、保育職を志望した経緯や保育職の仕事の魅力などについてインタビュー形式で講話をしていただいた。後半は学生(3年次生)4～5名に対して1名の卒業生を1グループとして座談会を行なった。異なるOBOGの現職保育者と話す機会を設けるため、途中、卒業生がグループ間を移動した。

(5) 取組の実施体制

① 11月16日(土)

トークライブスピーカー 森 江里香 氏 学校法人亀ヶ谷学園宮前幼稚園
片岡 梨 氏 新宿区立鶴巻幼稚園
久保真莉恵 氏 文京区立千駄木幼稚園

ファシリテーター 中野 圭祐 助教

受付、会場設営、グループの巡回等 本学教職員

② 12月14日(土)

トークライブスピーカー 金子 大希 氏 世田谷区立等々力中央保育所
藤井 未来 氏 社会福祉法人みその 聖母子供の家
工藤 理美 氏 さいたま市立日進保育所

ファシリテーター 塩谷 香 教授

受付、会場設営、グループの巡回等 本学教職員

(6) 取組の実施報告

① 11月16日(土)

前半のトークライブでは勤務先や経験年数の異なる3名の現職幼稚園教諭が、幼稚園教諭になった経緯や職場環境、勤務体制など具体的な状況、及び幼稚園教諭という職業の魅力について講話をすることにより、在学生の職業選択やモチベーション向上に寄与することが期待された。

後半の小グループに分かれての座談会では、OBOGの現職幼稚園教諭の直接経験に基づいた職の魅力や実習に向けての細かな助言などのほか、教育実習前の学生から、教育実習生に求めることについての質問や、幼稚園教諭としての私生活などについての質問などが活発に出され、それらの一つ一つに丁寧に受け答えをする場面が多くみられた。

② 12月14日(土)

前半のトークライブでは施設種別や経験年数の異なる3名の現職保育者が、保育者を目指すことになった経緯、現在の仕事の内容や



図 2.2.1 OBOGの現職保育者との交流会



図 2.2.2 OBOGの現職保育者との交流会

取組み方、保育職をされていてよかったことなどについて熱のこもったトークが繰り広げられた。

後半の小グループに分かれての座談会では、本学ですべての実習を終えたばかりの3年次生から就職や職務内容に関する質問が次々と出される中、実体験に基づいた具体的で的確な助言が贈られていた。大人数の講演会では質問がためられるような、就職活動時の不安な心理や具体的対応、就職してからの悩みやその解消法、保育職の日常にあるさまざまな喜びや感動についてなど、活発な話し合いが行われていた。

(7) 効果検証の手法

本取組の効果については、参加したOBOGの現職保育者及び在学生の双方にアンケートを実施することによりその詳細を検討することができる。アンケートの結果は本報告の資料に掲載されている。また、本取組に種々の形で参加した本学教職員による評価によっても効果を検討することができると考えられることから、今後のさまざまな会議体やFD活動の中で議論を深めていくこととしたい。

(8) 取組の成果

本取組は、一方向的な講演・講話とは異なり、在学生在が自ら積極的に参加しながら幼児教育・保育職の魅力に触れることができる点が大きな特色である。

トークライブでは参加していただいたOBOGの現職保育者の皆さんに「今の仕事を選んだ理由と経過」「保育職の大変なこと、よかったこと」をお聞きし、最後に「保育職の仕事の魅力とは？」を語っていただいた。大変な日常の中、上司である副園長先生と時間をかけてじっくり話したことで少し前に進めた、という経験談や実際の教職員同士の関係が仕事をするうえでとても大切であることなどもお話しいただいた。様々な立場からのご意見を伺うことができ、これから職業選択をする2、3年生には大変参考になったのではないかと思われる。

交流会に参加していただいた現職教諭・保育者の皆さんは、自身も本学においてほぼ同じカリキュラムの中で学び、教育実習を経てきたという思いから、学生の話をお聞きになって聞くことができたと考えられる。学生にとっては自分達と比較的年齢が近く、また学科の卒業生という身近な現職教諭・保育者の話を聞くことができることには大きな意味がある。気軽に質問ができる雰囲気は卒業生との座談会であるからこそ生まれたものである。

(9) 取組の課題

11月16日の取組は、教育実習を控えた3年次生と現職幼稚園教諭との交流会であった。教育実習に向けての意識を高めることには繋がっているが、就職に向けてはまだ具体的に考えが及ばない学生も多くいるため、教育実習を終えたタイミングでOBOGの現職幼稚園

教諭との交流を設けることによって、学生個人が将来の進路選択を視野に入れた姿勢で現職幼稚園教諭の情報を得られる機会となる可能性がある。

一方、12月14日の取組は、本学におけるすべての実習を終えたばかりの3年次生と現職幼稚園教諭との交流会であった。いよいよこれから就職活動が本格化する中で、職業選択に参考となる生の情報に多く触れることができた時間であったが、実習を行う前に知っておきたかった、という内容があったり、11月16日の取組に参加したOBOGの現職幼稚園教諭に話を聞きたかったという意見があったりするなどした。

これらのことを総合すると、本取組は継続的に、また1人の学生がこのような機会を複数回経験できるように拡大して実施することができたら更に大きな効果が得られるのではないかと考えられる。

2. 取組Ⅰ 養成校生自ら幼児教育の「職」の魅力を考え、発信する取組

(1) 取組名

保育者の魅力や保育を学ぶ魅力を発信する動画の作成

(2) 取組内容

養成校生や保育職として働く卒業生と協力して保育職の魅力や保育を学ぶ魅力を伝える中高生向けの動画を作成し、出前授業やオープンキャンパス、YouTube チャンネル等を通じて広く発信することで、保育職に対するイメージ改善や幼児教育・保育分野への進学希望の向上の一助にする。

(3) 取組の対象

保育職を目指す高校生およびその保護者

(4) 取組のポイント

昨年度の研究で、高校生や若手保育者に保育職の魅力を高める工夫や取組について尋ねたところ、SNS 等を通じて保育者の魅力や保育を学ぶ魅力を発信したほうがよいとの意見が多数みられたことを受けて、今回の取組が実施された。

高校生に向けて発信すべき内容については、在学生に対するアンケート調査に基づいて検討され、保育職に関する情報や本学の養成課程に関する情報などが整理された。また、それらの情報を発信するための動画作成には、本学在学生だけでなく、本学を卒業した現職の保育者や、本学の教職員の協力を経て、合計 14 本もの動画コンテンツを作成した。またこれらの動画コンテンツは、オープンキャンパスや SNS を通じて広く高校生に対して配信される予定である。

(5) 取組の実施体制

1) 動画作成に向けた情報収集 2024

年度に本学子ども支援学科に入学した 1 年生 107 名に対するアンケート実施。分析は本取組担当の本学教員が行なった。

2) 動画コンテンツの検討・作成

アンケート結果に基づき抽出された 9 つの項目についてそれぞれの内容に応じて、学生、現職保育者、本学教職員等の回答者を選定し、イ



図 2.2.3 動画コンテンツ撮影風景

インタビュー形式で動画を撮影した。

(6) 取組の実施報告

1) 動画作成に向けた情報収集

2024年に本学子ども支援学科に入学した1年生107名を対象に「高校生のときに疑問に思っていたことや聞きたかったこと」や「保育者養成校として本学を選んだポイントやきっかけ」について尋ねたところ、以下の情報が得られた。

【高校生のときに疑問に思っていたことや聞きたかったこと】(回答数：120件)

- ① 学修に関すること：カリキュラム、実習、ピアノ、英語等 (47件)
- ② 保育職に関すること：仕事のやりがいや大変さ、処遇等 (26件)
- ③ 大学に関すること：大学生活、奨学金等 (16件)
- ④ 免許・資格に関すること：取得できる資格・方法、難易度等 (11件)
- ⑤ 進学に関すること：4年制大学で学ぶ意義、入試・選抜等 (11件)
- ⑥ 就職に関すること：就職先、就職支援に関する疑問 (9件)

【本学を選んだポイントやきっかけ】(回答数：145件)

- ① カリキュラムに関すること：実践的な学び、授業の多様さ・充実、専門性の高さ等 (50件)
- ② 雰囲気・印象に関すること：学生・教員の良さ、印象の良さ、アットホームさ等 (37件)
- ③ 環境に関すること：施設・設備の充実等 (24件)
- ④ 免許・資格の取得に関すること：幼保2つの資格、小免が取れること (23件)
- ⑤ 就職に関すること：就職実績、就職活動支援等 (8件)
- ⑥ その他：学費、入試等 (3件)

2) 動画コンテンツの検討・作成

上記の情報を基にコンテンツについて検討を行い、幼児教育・保育に関心を持つ高校生の質問や疑問に答えるかたちで、保育職の魅力や保育を学ぶ魅力を伝える中高生向けの動画を作成することとした。動画コンテンツとして取り上げた主な質問や疑問は以下の通りである。

動画作成に当たっては、保育者を目指す本学科の学生(養成校生)や保育者として働く卒業生(現役保育者)、養成課程等を担当する教職員に協力を依頼し、それぞれの立場から各質問にコメントをしてもらった。

【動画コンテンツの主な内容】

- ① 保育者について(回答者：現役保育者)
 - ・保育者を目指す上で大切なことは何ですか。
 - ・保育の仕事のやりがいって何ですか。

- ② 保育の仕事について（回答者：現役保育者）
- ③ 保育職の処遇について（回答者：現役保育者）
 - ・保育の仕事で大変なことって何ですか。
 - ・保育は仕事内容の割に給与が低いと聞きますが、実際はどうなんですか。
- ④ 保育職について（回答者：教職員）
 - ・幼稚園教諭と保育士、幼稚園教諭1種と2種ではどういった違いがあるのですか？
- ⑤ 授業について（回答者：養成校生）
 - ・幼稚園の先生や保育士になるために大学ではどんなことを学んでいるのですか？
- ⑥ 実習について（回答者：養成校生）
 - ・実習は大変ですか？実習ではどんなことをするのですか？
- ⑦ ピアノについて（回答者：養成校生、現役保育者）
 - ・ピアノが弾けないので授業についていけないか心配です。ピアノが弾けないとダメですか？
 - ・幼稚園の先生や保育士になるにはピアノの技術は必須ですか？
- ⑧ 進学に当たって（回答者：教職員）
 - ・入学前に幼稚園や保育所でインターンを経験しておいたほうがいいですか？
 - ・幼稚園教諭や保育士になるために高校生のときからできることは何かありますか？
- ⑨ 免許・資格について（回答者：教職員）
 - ・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取れますか？どうしたら免許・資格が取れますか？

動画の撮影は2024年12月～2025年1月に、本学の保育室や多目的室等を使用して行った。協力者には事前に質問内容を伝え、自身の経験を踏まえ、中高生に向けて保育職の魅力、保育を学ぶ魅力が伝わるコメントを考えて来てもらうよう依頼した。協力者の詳細は以下のとおりである。

- 保育者を目指す本学科の学生6名（4年生3名、3年生3名）
- 保育者として働く卒業生4名（保育士7年目、保育士2年目、幼稚園教諭1年目2名）
- 教職員3名（学科代表教員、教務担当教員、就職担当職員）



図 2.2.4 動画コンテンツのサムネイル

（7）効果検証の手法

本取組は次年度以降に予定されている保育職の魅力を伝えるための種々の場面で活用される動画作成であるため、その効果については今後検証されていくものである。

動画コンテンツの配信であるので、その閲覧再生数や視聴後のアンケート調査によって効果を検証する予定である。

(8) 取組の成果

取組の成果も同様に、動画コンテンツの配信・利用後に詳細が明らかにされるものであるが、今回の動画作成に際して養成校に入学したばかりの1年生を対象にして、大学の進路選択時に知っておきたかったことについて調査を実施し、その内容を整理できたことはそれのみでも養成校が保育職の魅力を発信するための土台を形成する上で意義のあることと言えよう。

(9) 取組の課題

本取組は今回初のことであるので、今後その効果を検証しながら動画コンテンツのアップデートを図っていきたい。また、作成した動画コンテンツのより効果的な活用方法についても、とくに現役高校生の意見なども取り入れながら検討していく必要があると考えられる。

Ⅲ. テーマ③ 現職の OBOG を対象としたキャリア形成支援

1. 取組 J 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施や幼児教育の専門的知見に基づく相談の対応（茶話会）

取組 K 体系的な現職研修の機会の確保（現職研修）

現職教諭を対象としたキャリア形成支援として、経験年数にかかわらず保育職に就く OBOG の現職保育者を対象としたホームカミングデーを実施し、その中で、大学教員に相談できる茶話会を行い、保育の現代的課題についての継続的に研修を受けられる機会を設ける。保育効力感を上げ保育職への定着を図る仕組みづくりを開発する。

(1) 取組の目的

若手教諭・保育者等の資質・能力の向上に資する研修のほか、若手教諭・保育者等と養成校の教授が交流する機会を設け、若手教諭・保育者等の悩みについて専門的知見を活用しながら共有・相談し、意欲・能力の向上、ひいては教諭・保育者等の保育職の定着率の向上を図る。



図 2.3.1 吉永学科代表の挨拶

(2) 日時、及び参加者

取組は 2 回行った。第 1 回は令和 6 年 11 月 16 日（土）に幼稚園、認定認定こども園に勤務する保育者 19 名を対象とした。第 2 回は令和 6 年 12 月 14 日（土）に保育所や保育士資格を活かした職に従事する 17 名を対象とした。子ども支援学科に所属する全教員で取り組んだ。

(3) 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施や幼児教育の専門的知見に基づく相談の対応（OBOG の現職保育者と大学教員による茶話会）

茶話会は、1 グループ OBOG の現職保育者 3 名～5 名に大学教員が 3 名程度加わり昼食をとりながらリラックスした雰囲気の中で実施された。「保育職の大変なこと、困っていることは？」、「保育職で良かったと思うことは？」、「保育職を続けるために、必要な条件は？」という 3 つのテーマについて自由に話し合った。OBOG の現職保育者は職場では相談できないことや伝えることが難しいことを話したことに対し同級生、先輩や後輩から、自分の職場での経験から意見や感想を述べ、大学教員は、OBOG の現職保育者の気持ちを受けとめ、必要に応じて助言をしたり励ましたりしながら進められた。

①保育職の大変なこと、困っていることは？

- ・これまで 3 年半ほど担任を務めてきたが、預かり保育の担当になったのは初めて。担任と預かり保育の違いに戸惑い、難しさを感じている。預かり保育には継続的な利用、単発な利用があり、保護者や子どもとの関係構築が難しい。また、先生や保護者との連携

が不十分で、大変だと感じることが多い。

- 学級活動やイベント、延長保育の対応など、様々な業務を一人で進めなければならない状況である。特にイベントの準備では家庭の事情に合わせた配慮が求められることも多く、全体をまとめるのが難しいと感じている。5歳児クラスを担当しており、子どもたちが年齢や性格に応じてバラバラな状態。その中で、集団としてのまとまりを作るのが課題。子どもたちが孤独感を感じないように配慮しながら進めていく必要があると考えている。今年はスタッフが少ない中で保護者対応や教材準備などを進めているが、自分の気持ちをうまく整理できず、担任の仕事とはまた違う責任を感じている。
- 私は1年目で、すべてが初めての経験。日々のスケジュール管理が難しく、次に何をすべきかを考えることに時間がかかっている。特に遠足やイベントの計画では、事前準備が膨大で、段取りをうまく進めることが課題。先輩方に相談しながら進めているが、自分一人では解決できないことも多い。
- クラスの中に支援が必要な子どもが3人おり、更に満3歳児が3人入ってきて、まとめるのが難しい状況。加配も十分ではなく、日々の保育の運営に苦心している。
- 私のクラスは23人で、そのうち6人が支援が必要な子どもたちで、このような状況で、職員間の連携が非常に重要だと感じている。個別支援計画を作成し、それを教職員全体で共有することで、支援が必要な子どもたちがよりよい環境で過ごせるようにしている。ただ、日々の保育においては予想外の出来事も多く、計画通りに進めるのが難しいこともある。保護者との関係においても、対応の仕方や情報の伝え方が非常に重要。たとえば、子どもが家で問題行動を起こしている場合、それをどのように園で対応するかを話し合うことがある。
- 私は5歳児クラスを担当しており、今年で3年目になる。年長児を担当する中で、卒園に向けた準備や子どもたちの小学校への移行を支援することが主な役割となっている。子どもたちが自信を持って卒園できるようにするためには、日々の活動を通じて「自立心」や「責任感」を育む必要がある。一方で、保護者からは進学に関する質問や相談が多く寄せられ、その対応に時間を割くことも少なくない。クラス全体の活動と個々の成長をどうバランスよく支えるかが課題だと感じている。特に、個別に支援が必要な子どもたちへの対応をどのように組み込むかを考えることが日々の業務の中で重要である。
- 人手不足。常に忙しさとか雑務に追われている感じ。全然保育を振り返っている時間がない。加配申請している子どもがいるけれど、申請していない別の子どもが大変で、その子を補助員が見ているので、担任が本来の加配の子を見ながら、ほかの集団を見ている。
- 大変な仕事が若手に任されている感じ。
- 医療的ケアまではいかないけれど、ケアが必要な子どもを担当している。働き始めて知識や技術を身に付けている感じ。一人一人の発達や障害に応じて、どうやったら主体的な活動ができるのかを先生たちと一緒に考えている。

- ・保護者のこと。保護者のリフレッシュとかも大事って言われ、「こども誰でも通園制度」が始まると聞いて、何が大事なんだろう。親のリフレッシュも大事だと思うけれど、保護者の求めるところと子どもにとって何が大事なのかっていうところの共通理解が難しい課題。
- ・保育をしている中で、記録や書類をやる時間がない。持ち帰りするときも。三年目になって余裕は出てきたけど、やるが増えて役割が増えた。
- ・理想はあるけど、現場の大変さをわかってほしい。体調が悪いときも（保育士の）人数が少ないので治りきらないまま働くことになる。若い職員が増えると失敗しているいろんなことを聞いて欲しいけれど、そういう風に思える余裕もどんどんなくなっていく。
- ・子どもの権利擁護が叫ばれすぎて、職員の権利は誰が擁護してくれるんだろう。子どもの権利は大事で守っていきたいけれど、その権利擁護をするために誰かが残業を頑張っていたりする。
- ・職員が辞めても補充されない。人が足りない。足りないから事務もできなくなって悪循環していく。会計年度の途中で事務をしないことを条件に派遣が入ったりするけど、それでは私たちの仕事は減らないので意味がない。
- ・話し合いなどをする時間が取りにくい。理想をいえば毎日やりたいけど、週1でも。

②保育職でよかったと思うことは？

- ・子どもたちとの日々の関わりや成長を見守れること、また保護者との信頼関係を築けることが魅力。
- ・子どもたちの小さな成長を日々感じられること、保護者からの感謝の言葉をもらえること、子どもたちとの関わりから得られる喜びが多いこと。
- ・子どもたちの成長を見守る喜びや、日々の保育での発見。特に子どもたちの発想の面白さや、成長の様子を保護者と共有できる喜びは大きい。
- ・子どもの成長が一番。子どもの変化に気づいたとき、やりがいがある。子どものためにやってるし、目の前の子どもがすごく喜んでいる。子どもが本当かわいい。
- ・自分が毎日笑っていること。すごく楽しくて毎日笑って仕事ができる。もちろん周りの人のお陰でもあるけれど、やっぱり一番は自分の大好きな子どもたちが目の前で屈託のない笑顔で見つめてくれたら、子ども同士が笑っているのを見ているだけでも笑顔になれるし、保護者がお迎えに来て嬉しそうに走っていく姿を見るだけで笑顔になれる。
- ・職場の、どういう人と働くかって大事。休憩中にちょっと愚痴が多くなることもあるけれど、そういうことも話せるのはすごくいい環境だなって思う。子どものことが語り合えるのがすごく楽しい。保育は正解がない。ひとりの子について、みんなでこうかなって言ったり、試してみようって考えたり、話し合えるっていう機会はすごく学びになる。自分の人間性も鍛えられているようで、自分も成長できたらいいなってことを感じられるのが魅力。

- ・人の一生のどこかに関わるっていうのはすごくいい仕事だと思う。自分とは全然感性が違う人とも出会える。常に人と関わる仕事なので、たくさん学ぶこともできる。
- ・卒園式で子どもが先生になりたいって言っていたとき。保護者から「〇〇先生と一緒に働きたいって家でも言っていたんです」と聞き、あと17年は勤めなきゃと思った。
- ・クラスの先生同士の連携が必要だからこそ、職員間の仲が良く先輩とも仲良くなる。話や相談もしやすい。保護者も感謝してくれて一緒に子どもの成長を見守れるっていうのは楽しい。
- ・「先生、大好き」とか子どもが言ってくれる。子どもがかわいくて私の方が大好きだよって言いたい。保護者からお迎えのとき「〇〇先生が一番好きってお風呂で言っていたよ」とか話してくれて、本当にうれしい。行事の担当で忙しかったけどよかったと思う。保護者がよくみていて、感謝を伝えてくれる。
- ・子どもがかわいい。去年担任を持った子どもがいまも追いかけてきてくれる。毎日かわいい出来事が起きるのが本当に良かったって思う。保護者とも信頼関係ができてくると変わってくる。やりがいになるし、頑張ってたよかったと思う。
- ・子どもの人生や親の人生に関わられて、何かひとつでもよかったな、楽しいな、うれしいなみたいなことを伝えてくれる。私もよかったと思える。子どもと接するのが好きなので自分らしく働ける気がする。

③保育職を続けるために、必要な条件は？

- ・良好な職場の人間関係、適切な業務量と人員配置、そして自己成長の機会が重要。また、子どもたちとの関わりから得られる喜びも継続の動機となっている。
- ・園全体でのサポート体制の確立、労働時間の改善、研修機会の確保、そして自身の仕事への前向きな姿勢が重要。
- ・勤務時間の長さや業務量の多さの改善、家庭との両立などが課題として挙げられる。
- ・まず楽しいと思える気持ちがとても大事。柔軟な考え方も大切。あと、事務仕事も多いので効率的に進める力も必要。体調管理とか、精神的な方もうまく管理できること。子どもどものことをうれしいと思える心。子どもの変化とか成長をやっているよかったなって思うことが出来ないと思えば保育は続けられないと思う。
- ・子どもと一緒にときめき続けること。毎日、どんな楽しいことをしようか、とか、子どもと一緒にときめき続ける。小さいことでも子どもと一緒に楽しみ続けられれば事務作業だって頑張れるし、やっぱり根本には子どもが好きとか、子どもと一緒に過ごしたいとか、やっぱりそう思い続ける気持ちが一番必要な条件だと思う。
- ・もう少し労働条件が整ってくれたら。有給がびっくりするくらい使えない。先輩から取るから、取りたいときにとれない。
- ・職員間のサポート。子どものことで悩んでやめていく。
- ・ちょっと先を考えたときに、子育てしている先生を見ると、私はやっていけないかも

れないと思う。

- ・お金の面。給料が安い。残業がきちんと付くといい。
- ・事務仕事。午睡の時間にできればよいけど、子どもの様子を見る必要もある。その部分だけ、非常勤が入って、ちょっと保育から外れて、事務や休憩がとれたらいい。

OBOGの現職保育者は、保育現場での困難、やりがい、継続のための条件について意見交換を行った。主な課題として、業務量の多さ、経験不足による不安、人間関係の構築、給与や手当等の待遇の改善などが挙げられていた。一方で、子どもたちの成長を見守る喜びや、保護者との関係構築の重要性についても共有された。経験豊富なOBOGの現職保育者の先輩からは、新人時代の経験を踏まえたアドバイスが提供され、大学教員からは継続的な学びと成長の重要性が伝えられた。特に共通性の高い話題としては、保育者不足の問題と特別な配慮を必要とする子どもへの対応が挙げられ、保育者には多岐に渡る知識やスキルが求められており、日々悩みながら子どもたちと向き合っていることを改めて確認する機会となった。また、子どもたちの成長を実感できることや保護者からの感謝の言葉などが、保育職のやりがいや魅力につながっていることが語られていた。

④茶話会に対する評価と感想

茶話会に参加した、OBOGの現職保育者36名にアンケート調査を実施し、本取組の効果について把握した。

茶話会の評価を「よかった」「まあまあよかった」「あまりよくなかった」「よくなかった」からあてはまるものを1つ選ぶよう回答を求めた。その結果、「よかった」が97% (35人)、「まあまあよかった」が3% (1人)で、参加者が「茶話会」について満足していることがうかがえた。茶話会の感想の理由について、自由記述で回答を求めたところ、「先生(大学教員)に相談したりアドバイスをいただけたこと」「同級生や先輩と話せたこと」「食事をしながら気軽な雰囲気の中で先生や卒業生と話すことができたこと」「様々な自治体の労働環境や保育環境などを聞いて、共感することができた」「様々な種類の職場の現状を知ることができ、貴重な時間を過ごすことができた。また自分の職場について相談させていただき、自分の働き方について改めて考え直すことができた」という理由に集約された。以上の結果から、参加したOBOGの現職保育者にとって満足度の高い有意義な機会となったことが確認された。

(4)体系的な現職研修の機会の確保

研修会は、保育現場で働くOBOGの現職保育者を対象に、11月16日は中野圭祐助教による「クラス集団をどのように作るのか～『ノリ』を共有することから考える～」、12月14日は塩谷香教授による「子どもの最善の利益のための保育と保護者支援」をテーマに行われた。

手遊び歌に間やアドリブが入る

- 手遊び歌→手遊び歌
- 手遊び歌が子どもと保育者をつなぐ架け橋になる
- ノリの共有と宙づり



図 2.3.2 中野助教による研修

①中野助教「クラス集団をどのように作るのか～『ノリ』を共有することから考える～」

音楽的表現活動がクラス集団としての凝集性にどのように影響を及ぼすのかという点を取り上げ、手遊び歌の構造、またその実施方法による子どもの変容などを話題にして講義及びディスカッションを行った。保育者の基本的なスタンスは一人一人の子どもに寄り添うことであるが、同時に複数の子どもをクラス集団として捉え、指導を行なっていく必要もあるという点から話を進めた。

クラスがまとまりのある集団として成長していくために、必要な知識と技術を身につけていくことが重要である。そのためには、クラスで集まる時間をどのように過ごすのがポイントとなる。今回は手遊び歌やみんなで取り組む遊びをテーマとして取り上げ、子どもと保育者が「ノリ」を共有しながらクラス集団としてまとまっていくにはどうすればよいのかを手遊び歌とその実施方法を取り上げてレクチャーした。また、レクチャーをもとに受講者がふだん行っている手遊び歌などにどのような特徴があるのかについてのディスカッションを行った。

②塩谷教授「子どもの最善の利益のための保育と保護者支援」

保育の質の高さとは何か、子どもの最善の利益のための保護者支援とはどのようなものであるのか、基本に立ち返ったうえで子どもと保護者の現況について考え、これからの保育や保護者支援のあり方について言及した。

子どもも保護者も多様な生活の中で様々なニーズがある。特別な支援が必要な子どもや対応に苦慮する保護者の増加が保育者の労働過重感につながってしまうことがあり、保育者は保育者集団として機能することや寛容で柔軟な姿勢や意識も求められている。しかしどのようなこともすべては子どもの最善の利益を目指して行われていることを常に意識し、基本に忠実な保育や保護者の理解を前提として支援を行うことが重要である。保育とは子どもと保護者と保育者の三者がかかわりつながることで成り立っている。子どもの育ちをしっかりと支えるためにも保護者との信頼関係を確実なものにする必要があることを強調した。



図 2.3.3 塩谷教授による研修

③研修に対する評価と感想

中野助教、塩谷教授による研修に参加した、OBOGの現職保育者36名にアンケート調査を実施し、本取組の効果について把握することにした。研修会に対する評価を「よかった」「まあまあよかった」「あまりよくなかった」「よくなかった」からあてはまるものを1つ選ぶよう回答を求めた。その結果、「よかった」が96%（34人）、「まあまあよかった」が4%（2人）で、参加者が研修について満足していることがうかがえた。OBOGの現職保育者からはたくさんの感想が寄せられた。以下、抜粋である。

- ・自分の悩みを晴らしてくれるような内容で、中野先生の話が面白かった。
- ・すごくためになった。保育経験を重ねている中で、今回の話を聞くことができてよかった。来週からたくさん同調してクラス運営を改めて考えたい。
- ・中野先生のお話を伺う中で、ちょっとした工夫で子どもたちの「楽しい！」を生み出すことができること、子どもたちの姿を思い返しながら、自分の感覚を言語化されたように感じた。来週からの保育に活かしていきたいと思った。
- ・卒業してからも学内で研修を受けることができることに驚いた。現場に出たからこそその新たな気付きや学びもあり、その中でいろいろな意見交換ができたことで、新たに実践してみたいことや頑張りたいことが湧き出てきた。自身の保育と向き合よい時間になった。
- ・仕事をしていて悩んでいた点を教授に質問することができたのでとても勉強になった。
- ・改めて子どもの最善の利益を考えた保育とはどのようなものか考え直すことができた。日々の保育では目の前のことでいっぱいいっぱい保育のことを考える余裕がないが、改めて担任としてどう保育していくことがいいのか考えていきたいと思った。大人にして失礼なことは子どもにもしないことを意識したい。
- ・保護者支援は自分にとって課題であったので詳しく聞くことができてとても参考になった。保護者支援は子どもの最善の利益にのっとっていることを知り、子どものためにも丁寧な保護者支援をしていきたいと感じた。自分のことで手いっぱい忙しく接してしまうときも、一呼吸置いて保護者の方に向き合いたいと思う。
- ・塩谷先生のお話は保育者になってから改めて聞くと、こんなことを心にとめながら保育

していきたいなど考えることも多かった。こんなふうに保育者は考えているんだということも保護者にも伝えていけたらよいなとも思った。

(5) 今後の課題

茶話会は時間が短く、話し足りないグループが多かったように思われる。昼食時に在校生がOBOGの現職保育者に個別に質問したいとの申し出もあったが、その時間を設けることができなかった。また、OBOGの現職保育者の経験年数や悩みなど事前に把握するなどを行い、グループ化したり、大学教員を配置したりするなどの工夫も取り入れることも検討したい。

保育の現場に出ると積極的に自分から行動して研修を受けるという機会は限られてしまう。母校で同級生と共に研修を受ける機会があれば、気軽に、かつ学生の頃とは異なる意識で研修を受講することができるだろう。今回のような機会が継続して提供されることにより、保育者が時代のニーズに合った研修を受け、随時保育者としての意識をアップデートしていくことが可能になるのではないかと考えられた。

2. 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（二次分析）

（1）二次分析の目的

昨年度の調査研究では、若手幼稚園教諭・保育士 300 人を対象にウェブアンケートを実施し、仕事のやりがいや悩み、働き続けやすい職場風土・職場環境で大切なこと、保育士確保・定着に必要なこと、今後の就業の意向等について明らかにした。

今年度は、保育職の魅力向上や早期離職の防止等に資する情報を得ることを目的に、昨年度の調査データを再分析し、より精緻な考察を行うこととした。

② 調査データの概要

調査データの対象は、調査会社にモニター登録している若手幼稚園教諭・保育士（幼稚園教諭免許や保育士資格の保有者）300人で、そのうち、二次分析の対象としたのは、現在、幼稚園教諭・保育士の正職員（短時間正職員を除く）として働いている242人とした。分析対象者の内訳を性別で見ると、男子22人、女子218人、回答したくない2人となっており、勤務年数で見ると、1年未満34人、1～3年目81人、4～6年目86人、7～9年目37人、10年以上4人となっている。

調査の主な内容は、「現在の就業先の施設区分」「個人年収（総支給額）」「幼稚園教諭や保育士の仕事を選んだ理由」「教育実習・保育実習に行った後の気持ちの変化」「仕事にやりがいを感じる時」「仕事上の悩みや不安、不満」「今後、学んでみたい・受けてみたい研修」「今後の就業の意向」「退職を希望する理由」「保育者確保・定着のために必要なこと」「働き続けやすい職場風土・職場環境で最も大切と思うこと」等である。

調査結果の詳細については、昨年度の研究成果報告書『幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発』の pp. 72～86 を参照されたい。

③ 分析方法

二次分析では、若手保育者の保育職の定着率の向上に資する情報を得ることを目的に、「現在の就業先の施設区分」（幼稚園、保育所、認定こども園等）や「今後の就業の意向」に着目し、現在の仕事の状況や仕事に対する意識の違いについて検証した。分析方法はクロス集計とし、その有意性を検討するため χ^2 検定や残差分析を行った。

クロス集計を行うにあたり、現在の就業先の施設区分については、7つの選択肢を「保育所」「幼稚園」「認定こども園」「その他」（「小規模保育事業所」、「事業所内保育事業所」「届出（認可外）保育施設」）を4群に分け、今後の就業の意向については、「今後も保育士として働きたい」と「今後は保育士を辞める予定」（「今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい」＋「今後は保育士を辞め、働かないつもりだ」）の2群に分け、現在の仕事の状況や仕事に対する意識等の比較を行った。

χ^2 検定は両側検定で $P < 0.05$ を統計学的に有意とし、両側検定による残差分析の有

意確率は、 $|r| > 3.29$ ならば $P < 0.001 (***)$ 、 $|r| > 2.58$ ならば $P < 0.01 (**)$ 、 $|r| > 1.96$ ならば $P < 0.05 (*)$ とした。複数選択式設問 (MA) については、独立性を考慮し、設問ごとに χ^2 検定と残差分析を行った。なお、残差分析の結果については、調整済み標準化残差の数値は記載せず、有意差のみ表に記載している。

統計解析には、統計ソフト R Ver. 4.4.2 を使用した。

(2) 分析結果

① 現在の就業先の施設区分による現在の仕事の状況や仕事に対する意識等の違い

現在の就業先の施設区分別に現在の仕事の状況や仕事に対する意識等についてクロス集計を行い、 χ^2 検定と残差分析でその有意性を検証した (表 2.3.1、2.3.2、2.3.3)。

分析結果は以下の通りである。

- ・「個人年収 (総支給額)」では、「幼稚園」で「500 万円以上」(9.4%)、「その他」の施設で「103 ～ 200 万円未満」が有意に多かった。
- ・「幼稚園教諭や保育士の仕事を選んだ理由」では、「保育所」で「身近に幼稚園や保育所で働いている人がいるから」(14.0%)、「身近な資格だから」(15.4%) が有意に多かった。
- ・「仕事にやりがいを感じる時」では、「幼稚園」で「行事・イベントがうまくいったとき」(59.4%)、「その他」の施設で「子どもの笑顔を見ているとき」(84.2%) が有意に多かった。
- ・「仕事上の悩みや不安、不満」では、「保育所」で「人手が足りない」(55.2%)、「認定こども園」で「休憩が取りにくい」(58.3%) や「有給休暇が取りにくい」(45.8%) が有意に多かった。
- ・「今後、学んでみたい・受けてみたい研修」では、「認定こども園」で「幼児教育」(47.9%) が有意に多かった。
- ・「今後の就業の意向」では有意差が認められなかったものの、「退職を希望する理由」では、「保育所」で「給料が安い」(68.4%) が有意に多かった。
- ・「保育士確保・定着のために必要なこと」では、「幼稚園」で「保育士の魅力発信によるイメージアップ」(18.8%)、「その他」の施設で「新人保育士の育成・指導強化」(26.3%) が有意に多かった。
- ・「働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで大切なこと」では、「幼稚園」で「働きがいのある職場であること」(31.3%)、「認定こども園」で「園長のリーダーシップが高いこと」(25.0%) が有意に多かった。また、「働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで最も大切なこと」をみると、「認定こども園」で「職員間の人間関係がよいこと」(43.8%) や「職員全体の交流会や親睦会を積極的に行うこと」(4.2%)、「園長のリーダーシップが高いこと」(6.3%)、「その他」の施設で「職員会議では全員に発言の機会が与えられていること」(5.3%) が有意に多くなっていた。

表 2.3.1 現在の就業先の施設区分別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果①

設問	全回答	現在の就業先の施設区分				chisq-test	
		保育所	幼稚園	認定 こども園	その他		
個人年収(総支給額)							
	N	242	143	32	48	19	chisq-test:30.655*
103万円未満		3.3%	2.8%	0.0%	4.2%	10.5%	
103~200万円未満		9.1%	7.7%	9.4%	6.3%	26.3%**	
200~300万円未満		39.3%	42.7%	28.1%	35.4%	42.1%	
300~400万円未満		36.0%	37.1%	43.8%	33.3%	21.1%	
400~500万円未満		9.5%	8.4%	9.4%	16.7%	0.0%	
500万円以上		2.5%	1.4%	9.4%**	2.1%	0.0%	
その他		0.4%	0.0%	0.0%	2.1%*	0.0%	
幼稚園教諭や保育士の仕事を選んだ理由(MA)							
	N	242	143	32	48	19	
子どもが好きだから		66.9%	65.0%	75.0%	66.7%	68.4%	chisq-test:1.194
保育の仕事に興味があるから		44.6%	44.8%	50.0%	43.8%	36.8%	chisq-test:0.856
得意なことを活かせると思ったから		19.4%	18.9%	31.3%	16.7%	10.5%	chisq-test:4.081
憧れの職業だから		31.4%	30.1%	25.0%	37.5%	36.8%	chisq-test:1.816
自分の性格に合っているから		29.3%	30.1%	31.3%	27.1%	26.3%	chisq-test:0.295
子育てに役立つと思ったから		15.3%	14.7%	15.6%	20.8%	5.3%	chisq-test:2.657
人のため、社会貢献できる職業だから		16.1%	17.5%	18.8%	12.5%	10.5%	chisq-test:1.265
身近に幼稚園や保育所で働いている人がいるから		9.5%	14.0%**	3.1%	2.1%	5.3%	chisq-test:8.324*
親や家族に勧められたから		9.9%	11.9%	9.4%	4.2%	10.5%	chisq-test:2.417
就職に困らないと思ったから		17.4%	19.6%	6.3%	18.8%	15.8%	chisq-test:3.343
中学・高校で勧められたから		7.4%	9.8%	9.4%	2.1%	0.0%	chisq-test:4.849
身近な資格だから		11.2%	15.4%*	3.1%	6.3%	5.3%	chisq-test:6.493
その他		1.7%	1.4%	3.1%	2.1%	0.0%	chisq-test:0.858
仕事にやりがいを感じる時(MA)							
	N	242	143	32	48	19	
子どもの笑顔を見ている時		62.0%	60.8%	50.0%	64.6%	84.2%*	chisq-test:6.151
子どもが懐いてくれたと感じた時		47.9%	46.9%	46.9%	52.1%	47.4%	chisq-test:0.415
子どもの成長を感じた時		69.8%	68.5%	65.6%	77.1%	68.4%	chisq-test:1.600
自分の成長を感じた時		30.2%	31.5%	28.1%	25.0%	36.8%	chisq-test:1.189
上司や同僚に褒められた時		28.9%	30.8%	31.3%	25.0%	21.1%	chisq-test:1.253
保護者から感謝された時		60.3%	63.6%	59.4%	58.3%	42.1%	chisq-test:3.382
行事・イベントがうまくいった時		39.7%	38.5%	59.4%*	35.4%	26.3%	chisq-test:7.058
給料が上がった時		32.6%	32.2%	37.5%	33.3%	26.3%	chisq-test:0.714
責任のある仕事を任された時		17.8%	17.5%	12.5%	22.9%	15.8%	chisq-test:1.538
その他		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
やりがいはない		3.3%	4.2%	0.0%	4.2%	0.0%	chisq-test:2.209
仕事上の悩みや不安、不満(MA)							
	N	242	143	32	48	19	
人手が足りない		50.0%	55.2%*	37.5%	47.9%	36.8%	chisq-test:4.973
仕事内容のわりに給与が低い		59.5%	59.4%	50.0%	70.8%	47.4%	chisq-test:4.918
労働時間が不規則である		21.9%	23.8%	15.6%	25.0%	10.5%	chisq-test:2.738
労働時間が長い		28.9%	27.3%	37.5%	35.4%	10.5%	chisq-test:5.447
休憩が取りにくい		39.3%	35.7%	46.9%	58.3%**	5.3%**	chisq-test:18.086***
有給休暇が取りにくい		30.6%	25.9%	37.5%	45.8%*	15.8%	chisq-test:9.433*
身体的負担が大きい		42.1%	42.7%	46.9%	43.8%	26.3%	chisq-test:2.312
業務が過剰		34.7%	32.9%	37.5%	41.7%	26.3%	chisq-test:1.940
職場内の人間関係が大変で、精神的にきつい		22.7%	21.7%	25.0%	22.9%	26.3%	chisq-test:0.324
保護者への対応が難しいため、精神的にきつい		28.9%	26.6%	40.6%	27.1%	31.6%	chisq-test:2.660
自身の保育知識、技術に不安がある		36.0%	36.4%	28.1%	39.6%	36.8%	chisq-test:1.143
子どもの事故への不安(責任の重さ)がある		43.4%	45.5%	34.4%	50.0%	26.3%	chisq-test:4.416
その他		0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%***	chisq-test:11.786**
悩み、不安、不満はない		3.3%	4.9%	0.0%	0.0%	5.3%	chisq-test:4.093

表 2.3.2 現在の就業先の施設区分別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果②

設問	全回 答	現在の就業先の施設区分				chisq-test	
		保育所	幼稚園	認定 こども園	その他		
今後、学んでみたい・受けてみたいと思う研修(MA)	N	242	143	32	48	19	
乳児保育		43.8%	46.2%	34.4%	43.8%	42.1%	chisq-test:1.499
幼児教育		34.3%	28.7%*	40.6%	47.9%*	31.6%	chisq-test:6.590
障害児保育		46.3%	45.5%	59.4%	43.8%	36.8%	chisq-test:3.051
食育・アレルギー対応		37.2%	38.5%	31.3%	37.5%	36.8%	chisq-test:0.585
保健衛生・安全対策		21.9%	23.8%	15.6%	18.8%	26.3%	chisq-test:1.526
保護者支援・子育て支援		44.6%	45.5%	46.9%	39.6%	47.4%	chisq-test:0.657
マネジメント		19.8%	19.6%	12.5%	27.1%	15.8%	chisq-test:2.870
保育実践		30.2%	31.5%	28.1%	29.2%	26.3%	chisq-test:0.335
その他		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
特になし		9.1%	9.8%	3.1%	10.4%	10.5%	chisq-test:1.612
今後の就業の意向	N	242	143	32	48	19	chisq-test:4.882
今後も保育士として働き続けたい		71.5%	73.4%	78.1%	66.7%	57.9%	
今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい		23.6%	21.7%	21.9%	27.1%	31.6%	
今後は保育士を辞め、働かないつもりだ		5.0%	4.9%	0.0%	6.3%	10.5%	
退職を希望する理由(MA)	N	69	38	7	16	8	
給料が安い		56.5%	68.4%*	28.6%	62.5%	12.5%**	chisq-test:10.956*
仕事量が多い		43.5%	47.4%	57.1%	50.0%	0.0%**	chisq-test:7.197
労働時間が長い		17.4%	15.8%	14.3%	31.3%	0.0%	chisq-test:3.938
職場の人間関係		29.0%	26.3%	28.6%	43.8%	12.5%	chisq-test:2.883
他業種への興味		37.7%	42.1%	28.6%	25.0%	50.0%	chisq-test:2.177
職業適性に対する不安		24.6%	28.9%	0.0%	31.3%	12.5%	chisq-test:3.680
保護者対応の大変さ		27.5%	31.6%	42.9%	25.0%	0.0%	chisq-test:4.226
子育て・家事		10.1%	13.2%	28.6%	0.0%	0.0%	chisq-test:5.695
健康上の理由(体力含む)		17.4%	23.7%	0.0%	12.5%	12.5%	chisq-test:2.921
妊娠・出産		7.2%	10.5%	0.0%	6.3%	0.0%	chisq-test:1.804
結婚		10.1%	5.3%	14.3%	18.8%	12.5%	chisq-test:2.473
家族の事情(介護等)		8.7%	13.2%	0.0%	0.0%	12.5%	chisq-test:3.289
転居		10.1%	10.5%	0.0%	12.5%	12.5%	chisq-test:0.942
配偶者の意向		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
その他		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
保育士確保・定着のために必要なこと(MA)	N	242	143	32	48	19	
給与改善		63.6%	61.5%	59.4%	70.8%	68.4%	chisq-test:1.785
キャリアアップの仕組みづくり		9.9%	11.2%	12.5%	4.2%	10.5%	chisq-test:2.282
教育・研修の体制の充実		5.8%	7.0%	3.1%	6.3%	0.0%	chisq-test:1.984
職場間の人間関係の円滑化		27.3%	27.3%	25.0%	31.3%	21.1%	chisq-test:0.837
精神的サポートを行うメンター制度の導入		7.0%	7.7%	6.3%	4.2%	10.5%	chisq-test:1.084
保育士の魅力発信によるイメージアップ		9.1%	7.7%	18.8%*	8.3%	5.3%	chisq-test:4.321
業務負担の見直し		34.3%	36.4%	21.9%	37.5%	31.6%	chisq-test:2.743
保育士の設置基準(人員配置)の見直し		35.1%	39.9%	21.9%	31.3%	31.6%	chisq-test:4.294
出産・育児・介護等の両立支援		14.9%	14.0%	15.6%	14.6%	21.1%	chisq-test:0.679
休暇を取得しやすい環境の整備		36.8%	31.5%*	40.6%	45.8%	47.4%	chisq-test:4.547
ICT化の推進		9.1%	7.0%	12.5%	12.5%	10.5%	chisq-test:1.934
新人保育士の育成・指導強化		9.9%	10.5%	6.3%	4.2%	26.3%*	chisq-test:8.030*
その他		0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	chisq-test:0.695

表 2.3.3 現在の就業先の施設区別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果③

設問	全回答	現在の就業先の施設区分				chisq-test
		保育所	幼稚園	認定こども園	その他	
働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで大切なこと(MA)						
N	242	143	32	48	19	
職員会議では全員に発言の機会が与えられていること	5.8%	4.2%	9.4%	8.3%	5.3%	chisq-test:2.001
クラスや役割を超えて業務に関する情報を交換・共有し合えること	16.1%	16.1%	12.5%	22.9%	5.3%	chisq-test:3.607
若手職員の意見も反映されること	21.1%	18.2%	15.6%	31.3%	26.3%	chisq-test:4.593
職員間の仕事の分担を繁忙によって柔軟に変更したり助け合ったりすること	19.0%	18.9%	21.9%	16.7%	21.1%	chisq-test:0.395
お互いの仕事上での悩みを相談しやすいこと	23.1%	23.8%	25.0%	22.9%	15.8%	chisq-test:0.673
非常勤よりも常勤の方が多いこと	13.6%	14.0%	12.5%	14.6%	10.5%	chisq-test:0.243
保育士と保育士以外の職員との意思疎通がとれていること	18.2%	21.7%	12.5%	10.4%	21.1%	chisq-test:3.921
職員間の人間関係が良いこと	50.4%	48.3%	40.6%	62.5%	52.6%	chisq-test:4.336
職員と管理職(理事長・所長等)の関係が良いこと	17.4%	18.9%	12.5%	16.7%	15.8%	chisq-test:0.806
職員全体の交流会や親睦会を積極的に行うこと	4.5%	4.2%	6.3%	4.2%	5.3%	chisq-test:0.293
職員同士が協力し合い一体感を持って保育していること	27.7%	26.6%	31.3%	29.2%	26.3%	chisq-test:0.362
有給休暇の取得等の福利厚生に関する制度・体制が整っていること	43.0%	42.7%	31.3%	45.8%	57.9%	chisq-test:3.687
働きがいのある職場であること	18.2%	18.9%	31.3%*	10.4%	10.5%	chisq-test:6.415
理念や方針を全員が把握・理解していること	5.8%	5.6%	12.5%	2.1%	5.3%	chisq-test:3.873
改善や新しいことなどの提案がしやすいこと	13.2%	13.3%	15.6%	10.4%	15.8%	chisq-test:0.600
保育に関する知識や技術などの向上を図る環境が整っていること	16.1%	19.6%	9.4%	10.4%	15.8%	chisq-test:3.500
園は積極的に保育の質を上げるための努力をしていること	11.6%	11.9%	6.3%	14.6%	10.5%	chisq-test:1.346
園は積極的に保育者との良い関係を保つようしていること	9.1%	9.1%	12.5%	6.3%	10.5%	chisq-test:0.966
仕事もプライベートも両方を大切にできる雰囲気職場内にあること	47.1%	44.8%	46.9%	52.1%	52.6%	chisq-test:1.028
園長のリーダーシップが高いこと	14.9%	11.9%	15.6%	25.0%*	10.5%	chisq-test:5.191
その他	0.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	chisq-test:1.396
働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで最も大切なこと						
N	242	143	32	48	19	chisq-test:65.179
職員会議では全員に発言の機会が与えられていること	0.8%	0.0%	3.1%	0.0%	5.3%*	
クラスや役割を超えて業務に関する情報を交換・共有し合えること	3.3%	3.5%	0.0%	6.3%	0.0%	
若手職員の意見も反映されること	2.9%	4.2%	0.0%	2.1%	0.0%	
職員間の仕事の分担を繁忙によって柔軟に変更したり助け合ったりすること	2.9%	2.8%	6.3%	2.1%	0.0%	
お互いの仕事上での悩みを相談しやすいこと	1.7%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
非常勤よりも常勤の方が多いこと	2.1%	2.1%	6.3%	0.0%	0.0%	
保育士と保育士以外の職員との意思疎通がとれていること	5.8%	7.0%	3.1%	4.2%	5.3%	
職員間の人間関係が良いこと	28.1%	24.5%	21.9%	43.8%**	26.3%	
職員と管理職(理事長・所長等)の関係が良いこと	3.3%	4.2%	6.3%	0.0%	0.0%	
職員全体の交流会や親睦会を積極的に行うこと	0.8%	0.0%	0.0%	4.2%**	0.0%	
職員同士が協力し合い一体感を持って保育していること	7.0%	6.3%	12.5%	4.2%	10.5%	
有給休暇の取得等の福利厚生に関する制度・体制が整っていること	12.8%	11.2%	12.5%	12.5%	26.3%	
働きがいのある職場であること	3.7%	4.2%	3.1%	2.1%	5.3%	
理念や方針を全員が把握・理解していること	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
改善や新しいことなどの提案がしやすいこと	2.5%	2.1%	3.1%	4.2%	0.0%	
保育に関する知識や技術などの向上を図る環境が整っていること	2.5%	2.8%	0.0%	2.1%	5.3%	
園は積極的に保育の質を上げるための努力をしていること	2.9%	4.2%	0.0%	2.1%	0.0%	
園は積極的に保育者との良い関係を保つようしていること	1.7%	1.4%	3.1%	0.0%	5.3%	
仕事もプライベートも両方を大切にできる雰囲気職場内にあること	12.0%	14.0%	15.6%	4.2%	10.5%	
園長のリーダーシップが高いこと	2.1%	0.7%	3.1%	6.3%*	0.0%	
その他	0.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	

② 今後の就業の意向による現在の仕事の状況や仕事に対する意識等の違い

今後の就業の意向別に現在の仕事の状況や仕事に対する意識等についてクロス集計を行い、 χ^2 検定と残差分析でその有意性を検証した（表 2.3.4、2.3.5、2.3.6）。

分析結果は以下の通りである。

- ・「現在の就業先の施設区分」では、「今後は保育士を辞める予定」で「届出（認可外）保育施設」（2.9%）が有意に多かった。
- ・「幼稚園教諭や保育士の仕事を選んだ理由」では、「今後も保育士として働きたい」で「自分の性格に合っているから」（33.5%）が有意に多かった。
- ・「教育実習・保育実習に行った後の気持ちの変化」では、「今後も保育士として働きたい」で「幼稚園教諭・保育士になりたい気持ちが高まった」（43.0%）や「自分に向いている仕事だと思った」（26.7%）が有意に多く、「今後は保育士を辞める予定」で「幼稚園教諭・保育士になりたい気持ちが低くなった」（26.2%）や「自分に向いていない仕事だと思った」（24.6%）、「仕事を続けていけないと思った」（30.8%）が有意に多くなっていた。
- ・「仕事にやりがいを感じる時」では、「今後も保育士として働きたい」で「保護者から感謝されたとき」（65.3%）や「給料が上がったとき」（37.0%）、「責任のある仕事を任されたとき」（21.4%）が有意に多く、「今後は保育士を辞める予定」で「やりがいはない」（8.7%）が有意に多くなっていた。
- ・「職場で仕事上の悩みや不安、不満なこと」では、「今後は保育士を辞める予定」で「休憩が取りにくい」（49.3%）や「身体的負担が大きい」（53.6%）、「業務が過剰」（46.4%）、「子どもの事故への不安（責任の重さ）がある」（56.5%）が有意に多かった。
- ・「今後、学んでみたい・受けてみたい研修」では、「今後も保育士として働きたい」で「幼児教育」（38.2%）や「障害児保育」（50.9%）、「保育実践」（34.1%）が有意に多かった。
- ・「働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで大切なこと」では、「今後も保育士として働きたい」で「園は積極的に保育者とのよい関係を保つようにしていること」（11.6%）が有意に多かった。また、「働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで最も大切に思うこと」をみると、「今後は保育士を辞める予定」で「有給休暇の取得等の福利厚生に関する制度・体制が整っていること」（24.6%）が有意に多くなっていた。

表 2.3.4 今後の就業の意向別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果①

	N	今後の就業の意向		chisq-test	
		全回答	今後も保育士として働きたい		今後は保育士を辞める予定
現在の就業先の施設区分					
保育所	242	59.1%	60.7%	55.1%	chisq-test:7.550
幼稚園		13.2%	14.5%	10.1%	
認定こども園		19.8%	18.5%	23.2%	
小規模保育事業所		6.6%	5.8%	8.7%	
事業所内保育事業所		0.4%	0.6%	0.0%	
届出(認可外)保育施設		0.8%	0.0%*	2.9%*	
その他		0.0%	0.0%	0.0%	
個人年収(総支給額)					
103万円未満	242	3.3%	2.3%	5.8%	chisq-test:10.630
103～200万円未満		9.1%	7.5%	13.0%	
200～300万円未満		39.3%	37.6%	43.5%	
300～400万円未満		36.0%	38.7%	29.0%	
400～500万円未満		9.5%	10.4%	7.2%	
500万円以上		2.5%	3.5%	0.0%	
その他		0.4%	0.0%	1.4%	
幼稚園教諭や保育士の仕事を選んだ理由(MA)					
子どもが好きだから	242	66.9%	70.5%	58.0%	chisq-test:2.966
保育の仕事に興味があるから		44.6%	48.0%	36.2%	
得意なことを活かせると思ったから		19.4%	20.2%	17.4%	
憧れの職業だから		31.4%	34.1%	24.6%	
自分の性格に合っているから		29.3%	33.5%*	18.8%*	
子育てに役立つと思ったから		15.3%	17.9%	8.7%	
人のため、社会貢献できる職業だから		16.1%	17.3%	13.0%	
身近に幼稚園や保育所で働いている人がいるから		9.5%	9.2%	10.1%	
親や家族に勧められたから		9.9%	11.6%	5.8%	
就職に困らないと思ったから		17.4%	17.3%	17.4%	
中学・高校で勧められたから		7.4%	6.9%	8.7%	
身近な資格だから		11.2%	9.8%	14.5%	
その他		1.7%	1.7%	1.4%	
教育実習・保育実習に行った後の気持ちの変化(MA)					
子どもを好きな気持ちが強くなった	237	40.1%	41.3%	36.9%	
子どもを好きな気持ちが弱くなった		0.8%	0.6%	1.5%	
幼稚園教諭・保育士になりたい気持ちが高まった		35.4%	43.0%***	15.4%***	
幼稚園教諭・保育士になりたい気持ちが低くなった		13.9%	9.3%***	26.2%***	
幼稚園教諭・保育士の仕事のイメージが良くなった		19.0%	21.5%	12.3%	
幼稚園教諭・保育士の仕事のイメージが悪くなった		13.5%	12.2%	16.9%	
自分に向いている仕事だと思った		21.5%	26.7%**	7.7%**	
自分に向いていない仕事だと思った		13.9%	9.9%**	24.6%**	
仕事を続けていけそうだと思った		14.3%	15.1%	12.3%	
仕事を続けていけないと思った		16.5%	11.0%***	30.8%***	
学習する意欲が高まった		24.5%	26.7%	18.5%	
学習する意欲が弱くなった		4.6%	4.1%	6.2%	
その他		0.4%	0.6%	0.0%	
特に変化はない		6.3%	5.2%	9.2%	

表 2.3.5 今後の就業の意向別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果②

	全回答	今後の就業の意向		
		今後も保育士として働きたい	今後は保育士を辞める予定	
仕事にやりがいを感じる時(MA)				
N	242	173	69	
子どもの笑顔を見ている時	62.0%	64.2%	56.5%	chisq-test:0.919
子どもが懐いてくれたと感じた時	47.9%	49.1%	44.9%	chisq-test:0.201
子どもの成長を感じた時	69.8%	72.8%	62.3%	chisq-test:2.113
自分の成長を感じた時	30.2%	31.8%	26.1%	chisq-test:0.515
上司や同僚に褒められた時	28.9%	30.6%	24.6%	chisq-test:0.596
保護者から感謝された時	60.3%	65.3%*	47.8%*	chisq-test:5.596*
行事・イベントがうまくいった時	39.7%	43.4%	30.4%	chisq-test:2.921
給料が上がった時	32.6%	37.0%*	21.7%*	chisq-test:4.550*
責任のある仕事を任せられた時	17.8%	21.4%*	8.7%*	chisq-test:4.604*
その他	0.0%	0.0%	0.0%	
やりがいはない	3.3%	1.2%**	8.7%**	chisq-test:6.572*
職場で仕事上の悩みや不安、不満なこと(MA)				
N	242	173	69	
人手が足りない	50.0%	48.0%	55.1%	chisq-test:0.730
仕事内容のわりに給与が低い	59.5%	57.2%	65.2%	chisq-test:0.997
労働時間が不規則である	21.9%	20.8%	24.6%	chisq-test:0.228
労働時間が長い	28.9%	27.2%	33.3%	chisq-test:0.637
休憩が取りにくい	39.3%	35.3%*	49.3%*	chisq-test:3.497
有給休暇が取りにくい	30.6%	27.2%	39.1%	chisq-test:2.786
身体的負担が大きい	42.1%	37.6%*	53.6%*	chisq-test:4.574*
業務が過剰	34.7%	30.1%*	46.4%*	chisq-test:5.099*
職場内の人間関係が大変で、精神的にきつい	22.7%	20.8%	27.5%	chisq-test:0.917
保護者への対応が難しいため、精神的にきつい	28.9%	27.2%	33.3%	chisq-test:0.637
自身の保育知識、技術に不安がある	36.0%	32.4%	44.9%	chisq-test:2.855
子どもの事故への不安(責任の重さ)がある	43.4%	38.2%**	56.5%**	chisq-test:6.050*
その他	0.4%	0.6%	0.0%	chisq-test:0.000
悩み、不安、不満はない	3.3%	2.3%	5.8%	chisq-test:0.942
今後、学んでみたい・受けてみたい研修(MA)				
N	242	173	69	
乳児保育	43.8%	46.2%	37.7%	chisq-test:1.142
幼児教育	34.3%	38.2%*	24.6%*	chisq-test:3.420
障害児保育	46.3%	50.9%*	34.8%*	chisq-test:4.506*
食育・アレルギー対応	37.2%	38.7%	33.3%	chisq-test:0.405
保健衛生・安全対策	21.9%	23.1%	18.8%	chisq-test:0.308
保護者支援・子育て支援	44.6%	45.7%	42.0%	chisq-test:0.137
マネジメント	19.8%	20.8%	17.4%	chisq-test:0.179
保育実践	30.2%	34.1%*	20.3%*	chisq-test:3.837
その他	0.0%	0.0%	0.0%	
特になし	9.1%	7.5%	13.0%	chisq-test:1.217

表 2.3.6 今後の就業の意向別クロス集計及び χ^2 検定・残差分析の結果③

	全回答	今後の就業の意向		chisq-test
		今後も保育士として働きたい	今後は保育士を辞める予定	
働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで大切なこと(MA)				
N	242	173	69	
職員会議では全員に発言の機会が与えられていること	5.8%	6.9%	2.9%	chisq-test:0.828
クラスや役割を超えて業務に関する情報を交換・共有し合えること	16.1%	16.2%	15.9%	chisq-test:0.000
若手職員の意見も反映されること	21.1%	22.5%	17.4%	chisq-test:0.508
職員間の仕事の負担を繁忙によって柔軟に変更したり助け合ったりすること	19.0%	17.3%	23.2%	chisq-test:0.749
お互いの仕事上での悩みを相談しやすいこと	23.1%	24.3%	20.3%	chisq-test:0.245
非常勤よりも常勤の方が多いこと	13.6%	12.1%	17.4%	chisq-test:0.308
保育士と保育士以外の職員との意思疎通がとれていること	18.2%	19.1%	15.9%	chisq-test:0.149
職員間の人間関係が良いこと	50.4%	50.3%	50.7%	chisq-test:0.000
職員と管理職(理事長・所長等)の関係が良いこと	17.4%	18.5%	14.5%	chisq-test:0.308
職員全体の交流会や親睦会を積極的に行うこと	4.5%	4.0%	5.8%	chisq-test:0.062
職員同士が協力し合い一体感を持って保育していること	27.7%	30.1%	21.7%	chisq-test:1.315
有給休暇の取得等の福利厚生に関する制度・体制が整っていること	43.0%	42.2%	44.9%	chisq-test:0.059
働きがいのある職場であること	18.2%	19.7%	14.5%	chisq-test:0.570
理念や方針を全員が把握・理解していること	5.8%	6.4%	4.3%	chisq-test:0.090
改善や新しいことなどの提案がしやすいこと	13.2%	13.3%	13.0%	chisq-test:0.000
保育に関する知識や技術などの向上を図る環境が整っていること	16.1%	17.3%	13.0%	chisq-test:0.393
園は積極的に保育の質を上げるための努力をしていること	11.6%	12.7%	8.7%	chisq-test:0.436
園は積極的に保育者との良い関係を保つようにしていること	9.1%	11.0%*	2.9%*	chisq-test:3.492
仕事もプライベートも両方を大切にできる雰囲気があること	47.1%	50.3%	39.1%	chisq-test:2.037
園長のリーダーシップが高いこと	14.9%	14.5%	15.9%	chisq-test:0.009
その他	0.8%	0.6%	1.4%	chisq-test:0.000
働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで最も大切なこと				
N	242	173	69	chisq-test:24.089
職員会議では全員に発言の機会が与えられていること	0.8%	0.6%	1.4%	
クラスや役割を超えて業務に関する情報を交換・共有し合えること	3.3%	4.0%	1.4%	
若手職員の意見も反映されること	2.9%	2.9%	2.9%	
職員間の仕事の負担を繁忙によって柔軟に変更したり助け合ったりすること	2.9%	2.9%	2.9%	
お互いの仕事上での悩みを相談しやすいこと	1.7%	2.3%	0.0%	
非常勤よりも常勤の方が多いこと	2.1%	2.3%	1.4%	
保育士と保育士以外の職員との意思疎通がとれていること	5.8%	6.4%	4.3%	
職員間の人間関係が良いこと	28.1%	30.6%	21.7%	
職員と管理職(理事長・所長等)の関係が良いこと	3.3%	3.5%	2.9%	
職員全体の交流会や親睦会を積極的に行うこと	0.8%	0.6%	1.4%	
職員同士が協力し合い一体感を持って保育していること	7.0%	6.9%	7.2%	
有給休暇の取得等の福利厚生に関する制度・体制が整っていること	12.8%	8.1%***	24.6%***	
働きがいのある職場であること	3.7%	4.0%	2.9%	
理念や方針を全員が把握・理解していること	0.4%	0.0%	1.4%	
改善や新しいことなどの提案がしやすいこと	2.5%	2.3%	2.9%	
保育に関する知識や技術などの向上を図る環境が整っていること	2.5%	2.3%	2.9%	
園は積極的に保育の質を上げるための努力をしていること	2.9%	4.0%	0.0%	
園は積極的に保育者との良い関係を保つようにしていること	1.7%	2.3%	0.0%	
仕事もプライベートも両方を大切にできる雰囲気があること	12.0%	11.6%	13.0%	
園長のリーダーシップが高いこと	2.1%	1.7%	2.9%	
その他	0.8%	0.6%	1.4%	
保育士確保・定着のために必要なこと(MA)				
N	242	173	69	
給与改善	63.6%	63.6%	63.8%	chisq-test:0.000
キャリアアップの仕組みづくり	9.9%	10.4%	8.7%	chisq-test:0.027
教育・研修の体制の充実	5.8%	6.9%	2.9%	chisq-test:0.828
職場間の人間関係の円滑化	27.3%	28.3%	24.6%	chisq-test:0.178
精神的サポートを行うメンター制度の導入	7.0%	5.8%	10.1%	chisq-test:0.848
保育士の魅力発信によるイメージアップ	9.1%	10.4%	5.8%	chisq-test:0.771
業務負担の見直し	34.3%	31.8%	40.6%	chisq-test:1.323
保育士の設置基準(人員配置)の見直し	35.1%	34.1%	37.7%	chisq-test:0.142
出産・育児・介護等の河立支援	14.9%	17.3%	8.7%	chisq-test:2.269
休暇を取得しやすい環境の整備	36.8%	35.3%	40.6%	chisq-test:0.393
ICT化の推進	9.1%	9.2%	8.7%	chisq-test:0.000
新人保育士の育成・指導強化	9.9%	11.0%	7.2%	chisq-test:0.409
その他	0.4%	0.0%	1.4%	chisq-test:0.227

(3) まとめ

二次分析の結果、若手保育者の仕事の状況や仕事に対する意識には、就業先の施設区分や今後の就業意向によって明確な違いが見られた。

就業先の施設区分で見ると、幼稚園の保育者は行事の成功にやりがいを感じており、その他の施設では「子どもの笑顔」が大きなモチベーションとなっていた。一方、保育所では人手不足が大きな悩みとされ、退職理由として給与の低さを指摘する声が多かった。認定こども園では、休憩や有給休暇の取りにくさといった労働環境に対する不満が目立った。

保育者の確保・定着に向けた取り組みとして、幼稚園では保育者の魅力を発信し、イメージアップを図ることが求められ、その他の施設では新人保育者の育成・指導の強化が重要視された。また、働き続けやすい職場環境を整えるためには、幼稚園では「働きがいのある職場」であること、認定こども園では職員間の良好な人間関係や職員同士の交流の機会の充実、園長のリーダーシップの強化が重要であることが分かった。

今後の就業意向で見ると、保育者として働き続けたいと考える人は、保護者からの感謝、給与の上昇、責任ある仕事を任されることにやりがいを感じ、幼児教育、障害児保育、保育実践などの専門研修を希望する人が多かった。一方、保育者を辞める予定と答えた人は、仕事へのやりがいを感じておらず、業務の多さ、休憩の取りにくさ、身体的負担の大きさ、子どもの事故への不安（責任の重さ）など、労働環境の厳しさが退職意向と強く関連していることが明らかになった。

働き続けやすい職場づくりの条件として、保育者として働き続けたいと考える人は、積極的に職場内で良好な人間関係を築くことが重要と考え、辞める予定と答えた人は有給休暇の取得など福利厚生の実施が必要だと考えていることが分かった。

以上の結果から、保育職の定着率向上には、労働環境の改善、職場環境の充実、研修制度の充実が不可欠であると考えられる。定着率の向上に向けた具体的な取組として以下の点が挙げられる。

① 労働環境の改善

- ・シフトの見直しや補助職員の活用により、休憩時間の確保や有給休暇の取得をしやすくする。
- ・ICTの導入や事務作業の分担により業務負担を軽減し、保育業務に専念できる環境を整える。

② 職場環境の充実

- ・定期的な職員交流や意見交換の場を設け、職員間のコミュニケーションを促進し、働きやすい職場づくりを促進する。
- ・管理職向け研修を実施し、園長や管理職のリーダーシップの向上を図り、組織運営力を強化する。

③ 研修制度の充実

- ・幼児教育、障害児保育、保育実践など、希望の多い分野の研修を充実させる。

- ・若手保育者に OJT として行事やイベントのリーダーを任せ、責任のある仕事を経験させることで、仕事のやりがいや達成感を得られる機会を提供する。

若手保育者の定着率を向上させるためには、彼らの声に耳を傾け、積極的に取り入れることが不可欠である。若手保育者の意見を反映し、労働環境の改善や研修制度の充実を進めることで、やりがいを感じられる職場づくりを推進することが求められる。

第3章 事業全体のまとめ

I. スケジュール

1. 研究計画

研究計画については、当初計画より遅れが生じたものの、事業内容についてすべて実施した。最終的な研究の流れは表 3.1 の通りである。

研究の目的に沿って①小中高生を対象とした職の魅力発信、②養成校生を対象としたキャリア形成支援、③現職教諭・離職者を対象としたキャリア形成支援の3本柱で進めた。

①では、高校生を対象に、「保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演」の取り組みとして出前授業を行った。前年度事業での高校生対象の意識調査の結果からも、高校生が進路を決める段階で高校生や高校の進路指導担当者に保育者の処遇改善に対する正しい情報発信や、保育職の魅力を伝えることが効果的であることが示唆されたためである。また、「養成校生との交流の機会の設定」として、希望する養成校生を募り、高校生のキャンパスツアーと大学進学、大学での学修、就職活動などについての質問に答える時間を担当してもらった。さらに、前年度意識調査において高校生からも若手保育者からも、保育職の魅力を高める工夫や取組について SNS 等を通じた保育者の魅力発信が有効であるとの意見が多数みられたため出前授業やオープンキャンパスといった限定された対象者だけではなく、広く社会に保育者の魅力や保育を学ぶ魅力を伝える動画を SNS 発信にも取り組んだ。

②では、前年度に引き続き OBOG の現職保育者と養成校生との交流会を計画した。前年度のプロジェクトでは、OBOG の現職保育者と実習前の養成校生の懇談会が大変好評で、もっと時間を取って話を聞きたかった、保育所実習や施設実習前、就職前にも聞きたいといった養成校生からのアンケート回答があったため、幼稚園教育実習前の学生に1回、幼稚園実習・保育実習すべて終わった学生に1回と計2回の交流会を企画した。

そして、③若手教諭に向けたホームカミングデーの実施では、OBOG の現職保育者対象の研修、大学教員との茶話会、養成校生への講話とグループ懇談を行った。これも、前年度のプロジェクトにおいて、特に茶話会でもっと大学教員と打ち解けた雰囲気気分で話がしたかったという意見があり、小グループで話ができるような場の工夫をすることとした。研修も、幼稚園や認定こども園の3歳以上を担当している OBOG と保育所や認定こども園の乳児担当、児童養護施設等の福祉施設に就職している OBOG がいるため、幼児教育を対象としたもの、乳児保育や児童福祉を対象としたものの2回に分けて実施した。

また、出前授業、OBOG の現職保育者と養成校生との交流会、OBOG の現職保育者対象の研修、大学教員との茶話会、養成校生への講話とグループ懇談の事後のアンケート調査を行うと共に、前年度実施した高校生を対象とした保育職に対する意識調査、若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査について二次分析を行い、効果検証を行った。

表 3.1 研究計画（最新版）

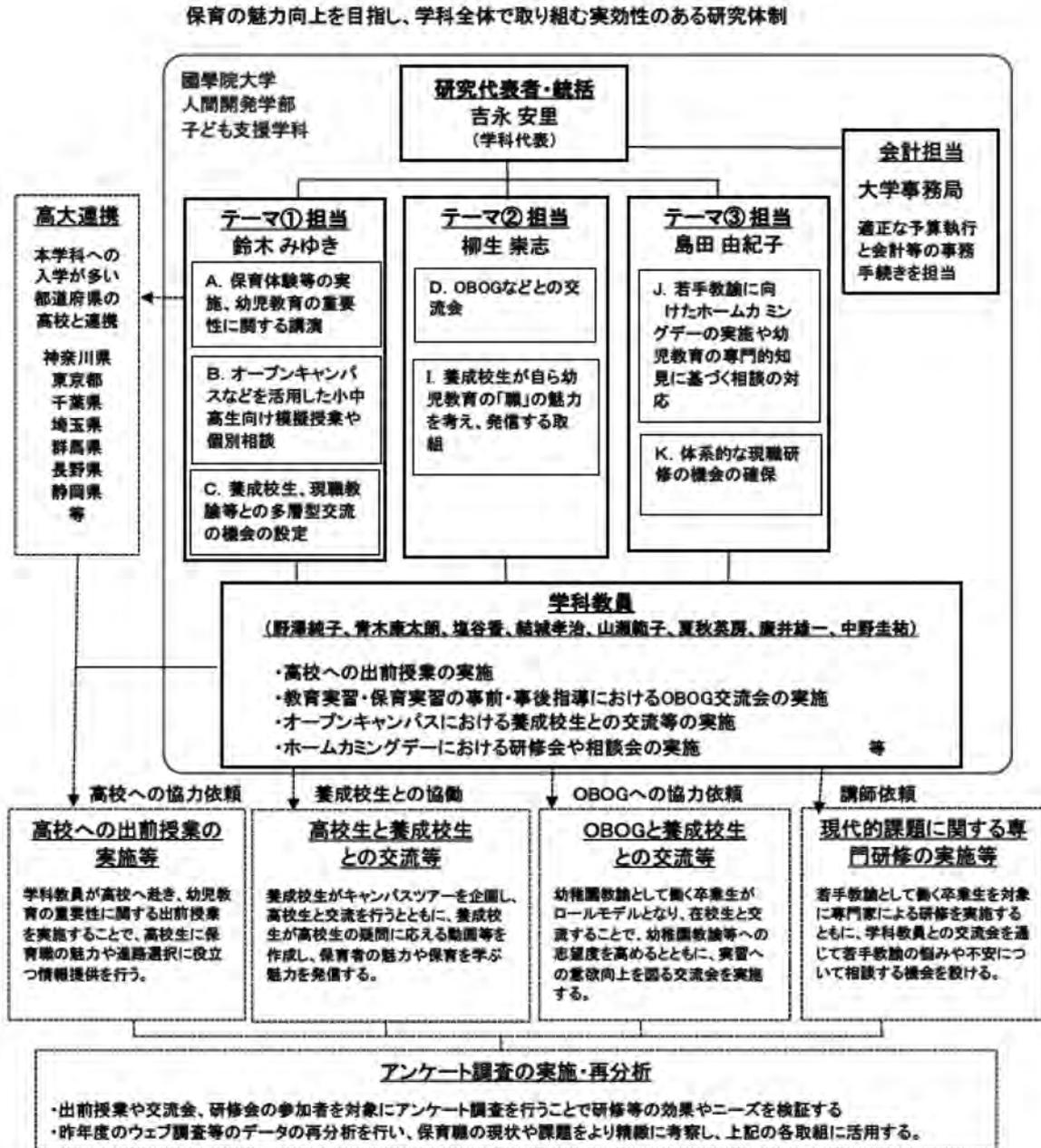
月	全体会議	取組A	取組B	取組C	取組D	取組I	取組J	取組K
チームごとの計画検討								
6月	・全体構想と事業計画について の確認と検討							
7月	・事業の年間活動計画		模擬授業準備	キャンパスツアー準備				
8月	・内容について の協議 ・月次報告		オープンキャンパスでの模擬授業	養成校生による キャンパスツアー				
9月	・進捗報告							
10月		出前授業			OBOGとの交流会 準備	養成校生動画コンテンツ準備	OBOGホームカミングデーの準備	OBOG研修の準備
11月	・中間報告	出前授業			OBOGとの交流会 実施	養成校生動画コンテンツ準備	OBOGホームカミングデーの実施 (教育実習事前指導)	OBOG研修の実施
12月	・月次報告	出前授業			OBOGとの交流会 実施	養成校生動画コンテンツ撮影	OBOGホームカミングデーの実施 (保育実習事後指導)	OBOG研修の実施
1月	・報告書作成 ・最終報告会					養成校生動画コンテンツ 配信		
2月	・各教育委員会 等に送付							

2. 研究組織

(1) 本研究の研究代表者、研究分担者

本研究の研究代表者、研究分担者及び役割分担と専門領域については表 3.2 の通りである。

表 3.2 研究組織



Ⅱ. 事業の成果

研究の目的に沿って、各取組の主な成果をまとめる。

①小中高生を対象とした職の魅力発信では、特に高校生対象の出前授業において、幼児教育の重要性や保育職の魅力を伝えたり、進路選択に役立つ情報を提供したりすることが、子どもや子育てに対する興味・関心を高め、保育職のイメージに好意的な変化をもたらすことが明らかとなった。また、出前授業を通じて保育や幼児教育に関する学びを深め、保育職や保育・幼児教育系の学部学科に対する興味・関心が高まることで、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えるようになる傾向も示唆された。こうした傾向は、保育職を希望する生徒で多くみられたが、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、保育職に対する興味・関心が高まったり、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになったりする生徒が一定数いることも分かり、保育職の魅力を向上させ、保育者養成課程への進路希望者を増やしていくためには、保育・幼児教育に係る出前授業に効果があると考えられる。

また、SNS 配信のための動画コンテンツを作成したが、これについては配信後の効果検証となる。このため現時点では成果を述べることはできないが、養成校生を対象として高校生の段階で知っておきたかったことを調査した上で、その内容について本学の学生、OBOG の現職保育者、教職員が回答するという方法をとったため、保育・幼児教育に関心のある小中高生に保育者の魅力が伝わる内容となったと効果を期待している。

②の OBOG の現職保育者と養成校生との交流会では、OBOG の現職保育者と実習前の養成校生の懇談会が今年度も大変好評で、実習をすべて終えた3年生からは、2年生を対象とした幼稚園・認定こども園に勤める OBOG の現職保育者からの話も聞きたかった、個別の質問や相談もしたいという要望が出るほどであった。

そして、③若手教諭に向けたホームカミングデーの実施では、OBOG の現職保育者対象の研修、大学教員との茶話会、養成校生への講話とグループ懇談を行った。前年度のプロジェクトにおいて、特に茶話会でもっと大学教員と打ち解けた雰囲気や気楽に話がしたかったという意見があったため、小グループで話ができる時間を長くとれる工夫を行ったところ、前年度の70%に比して今年度は97%がよかったと回答しており、満足度が非常に上がった。研修に関しても受講してよかったが96%であり、昨年95%と同様、非常に満足度が高いことが明らかとなった。保育者が日頃の悩みを気軽に話すことで気持ちが晴れたり、研修を受けることで専門職としてのキャリアアップを図ったりしていくことの重要性が伺えた。

最後に、高校生と若手保育者への意識調査の二次分析を通して明らかになったこととして、まず保育・幼児教育分野への進学を希望する高校生は、中学生以降に幼稚園や保育所で働く保育者の姿を見たり、職場体験で現場を訪れた経験があったりすること、保育職への就職を希望する高校生も実際の保育現場に触れる機会が多く、保育や子育てに関する授

業に対して肯定的な印象を持ち、保育の仕事に対して前向きなイメージをもっていることが明らかとなった。保育・幼児教育分野への進学や保育職を志望する高校生を増やすためには、職場体験等を通じた直接体験の場や機会の提供や家庭科等を活用した学習環境の整備、SNS等を通じた保育職に関する積極的でポジティブな情報発信が重要であると考えられる。また、若手保育者の仕事の状況や仕事に対する意識は、就業先の施設区分や今後の就業意向によって明確な違いがあった。保育所では人手不足が大きな悩みとされ、退職理由として給与の低さが指摘する声が多く、認定こども園では休憩や有給休暇の取りにくさといった労働環境に対する不満が多かった。今後の就業意向についても、保育者として働き続けたいと考える人は、保護者からの感謝、給与の上昇、責任ある仕事を任されることにやりがいを感じ、幼児教育、障害児保育、保育実践などの専門研修を希望する人が多かった一方、保育者を辞める予定と答えた人は、仕事へのやりがいを感じておらず、業務の多さ、休憩の取りにくさ、身体的負担の大きさ、子どもの事故への不安（責任の重さ）など、労働環境の厳しさが退職意向と強く関連していることが明らかになった。そして、働き続けやすい職場づくりの条件として、保育者として働き続けたいと考える人は、積極的に職場内で良好な人間関係を築くことが重要と考え、辞める予定と答えた人は有給休暇の取得など福利厚生の実施が必要だと考えていることが分かった。このことから、保育職の定着率向上には、労働環境の改善、職場環境の充実、研修制度の充実が不可欠であることが示唆された。

Ⅲ. 事業の課題と今後の展開

1. 事業の課題

令和6年度も令和5年度に引き続き、①中高生を対象とした職の魅力発信、②養成校生を対象としたキャリア形成支援、③現職教諭・離職者を対象としたキャリア形成支援の3本柱で研究を進めた。上記に示したように、本事業の成果は小中高生へのオープンキャンパスやSNS配信によるポジティブな情報発信によって保育者養成校への進学率を引き上げていくこと、OBOGの現職保育者と養成校生との人と人との直接的な交流が保育職への憧れや親しみにつながり、保育職を進路に選んでいくことにつながる可能性があること、そして、OBOGの現職保育者に対する研修によって専門性の向上を図っていくことや、日頃の職場での不安等を大学教員に気楽に相談し職場環境を充実する視座を得られることが保育職への定着につながる可能性が伺えたことである。

一方で、本事業の取り組みは大きな成果を挙げたため、継続して実施していくことでさらに効果が見込まれるが、実施のための費用、養成校教員の通常の業務に加えての時間的・精神的負担感が相当大きいことが課題である。この取り組みを持続可能なものとしていくためには、大学の正規授業の中で柔軟に取り組むが行えるようにしたり、大学全体の物心両面でのバックアップを得たりすることが必要不可欠である。また、本事業で行っ

た大規模な高校生や若手保育者への意識調査の結果を他の保育者養成校と共有し、競合他社ではなく、質の高い保育者を養成する同志として今後共に検討し、有効活用していく仕組みづくりが今後の課題である。

2. 今後の展開

第2章では「人と人とのつながりを大切にした多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト」の3つの柱Ⅰ．高校生を対象とした職の魅力発信、Ⅱ．養成校生を対象としたキャリア形成支援、Ⅲ．現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援についての調査結果を概観した。

本プロジェクトでは、令和5年度の事業結果を踏まえ、Ⅰの高校生を対象とした職の魅力発信では、Ⅱの養成校生を対象としたキャリア形成支援やⅢの現職教諭を対象としたキャリア形成と連動させ、本学のオープンキャンパスに足を運んでくれる高校生のみを対象とした取り組みに加え、広く一般の高校生に向けて養成校生とOBOGの現職保育者からSNSで保育職の魅力発信するSNS動画を配信した。この取り組みによって、養成校生もOBOGの保育者も自身の保育者としてのキャリア形成に一層自信をもてるようになったことと思う。

また、令和5年度と同様、養成校の教員が高校に出向き、高校生と高校の進路担当の先生方の進路に対する考えを直接聴くことができた。特に、高校の進路担当の先生方の中には、女性のキャリア形成として、本人が4年制大学を目指そうとしても保育職を目指すのであれば専門学校や短大卒で十分と考える保護者がいることや、保育職を目指す生徒の中には偏差値が高い養成校を嫌厭する生徒も少なくないという声を聴き、より高度な専門性をもつ保育者を養成していくための課題が見えた。高校生にアプローチしていただくだけではなく、より広く一般に向けた保育職の専門性に対する認識を更新し、専門性の向上に努めようとする意欲と志向性の高い志願者を受け入れ、養成していく必要がある。また、卒業後も専門性を維持・向上し続けるOBOGの現職保育者をサポートしていく体制を養成校が整えていくことも肝要である。

さらに、Ⅱの養成校生対象の取り組みでは、令和5年度の実習前の2年生の学生を対象とした取り組みに加え、すべての実習を終えた3年生を対象とした保育職への就職についての悩みを相談できる機会を設けたことで、養成校生が一層保育職への魅力と期待感を感じてくれた手応えがあった。年齢やキャリアの乖離した教員より等身大で共感してくれるOBOGの現職保育者と養成校生との交流は今後も継続して取り組んでいくべき課題となった。

ⅢのOBOGの現職保育者を対象とした取り組みにおいても、令和5年同様、養成校生と対話することで、保育職に憧れていた初心を思い出し、憧れの対象となった現在の自分の生き方に誇りをもち、現職研修で学び直したり、同じ悩みを共有する仲間と語り合えたりする時間が、保育の価値と仕事の魅力を見つめ直すきっかけになった様子が伺えた。そして、茶話会では、大学教員とざっくばらんに語り合えるフリートークの時間をたくさん設

けたことで、OBOGの現職保育者が大学教員や同じ保育職に就くOBOGとのつながりを感じられ、保育職のよさを再認識し、自信をもつことにつながったことが示唆された。

今後も質の高い保育職を輩出し、職の魅力を社会に発信し続け、現職保育者へのサポートをたゆまず続けていけるよう、令和5年度、令和6年度とバージョンアップしながら取り組んできた進路指導から養成、キャリア形成までをつなげ、支えていく「人と人とのつながりを大切にした多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト」の研究成果を、広く他の養成校、社会に発信し、その成果を共有していきたい。

資料 1. OBOG 交流会に参加した学生を対象としたアンケート調査の結果

応答の概要 アクティブ

応答

174 

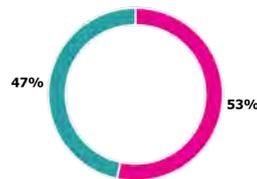
平均時間

05:30 



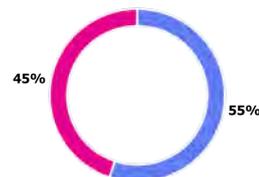
1. あなたの学年をお聞かせください

● 1年	0
● 2年	93
● 3年	81
● 4年	0



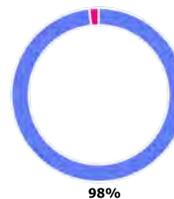
2. 懇親会に参加した日を選択してください。

● 2024年11月16日(土)幼稚園版	96
● 2024年12月14日(土)保育所版	78



3. 「OBOGと養成校生との懇談会」の感想とその理由をお聞かせください。

● よかった	171
● まあよかった	3
● あまりよくなかった	0
● よくなかった	0



4. その理由をお聞かせください。

166

応答

最新の回答

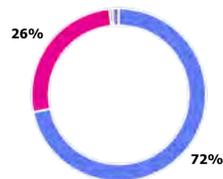
"試験や対策について具体的に聴くことができから."
 "年齢が近くて質問を積極的にすることができ、就職に向けた活動を始めなければなら…"
 "実際に現場で働く保育者の方々の現場の声や少し話づらいことなども話していたい…"
 …

134回答者 (81%) この質問にご回答しました。



5. 今後も保育職に就いているOGOBとの懇親会の開催を希望しますか。

● 希望する	125
● どちらかといえば希望する	46
● どちらかといえば希望しない	1
● 希望しない	2



6. 本懇親会についてご意見やご要望などがございましたらお書きください。

49

応答

最新の回答

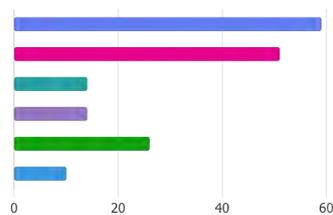
"特になし"
 …

15回答者 (31%) この質問にお話回答しました。



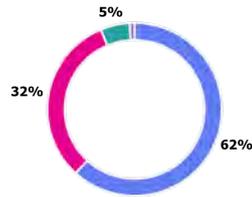
7. 現在考えている卒業後の進路についてお聞かせください。

● 幼稚園	59
● 保育所	51
● 施設(児童福祉施設等)	14
● 公務員(幼稚園、保育所、施設を除く)	14
● 一般企業	26
● その他	10



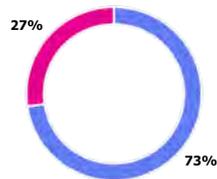
8. 保育職(幼稚園や保育園の先生)に就きたいという思いは深まりましたか?

● 深まった	68
● 少し深まった	35
● あまり変わらない	6
● 変わらない	1



9. 保育職(幼稚園や保育園の先生)に就職を考えるうえで、悩みや課題に思っていることなどはありますか。

● ある	80
● ない	30



10. 悩みや課題に思っていることを具体的に教えてください。

78
応答

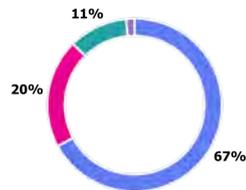
最新の回答
...

18回答者 (23%) この質問にご回答しました。



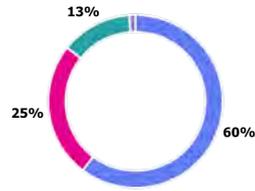
11. 保育職(幼稚園や保育園の先生)に対する興味や関心が深まりましたか?

● 深まった	43
● 少し深まった	13
● あまり変わらない	7
● 変わらない	1



12. 保育職(幼稚園や保育園の先生)の難しさを感じましたか？

● 感じた	105
● 少し感じた	44
● あまり感じなかった	23
● 感じなかった	2



13. どういうところに難しさを感じたのか具体的に教えてください。

116
応答

最新の回答

"実際に就職すると、実習生として表面的に関わるのでは、子どもや職員の見え方…"
"子どもが好きだけではやっていけない仕事だということを知り学んだからです。"

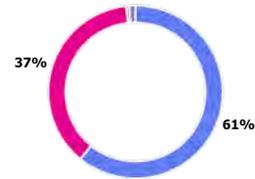
…

42回答者(36%)この質問に子ども回答しました。



14. 実習について具体的なイメージがもてましたか。

● もてた	106
● 少しもてた	65
● あまりもてなかった	1
● もてなかった	2



15. その理由をお聞かせください。

3
応答

最新の回答

"実習が終わったから。"

…

16. 中学生や高校生に、保育職(幼稚園や保育園の先生)の魅力を伝え、将来の就職先として関心をもってもらうために、大学としてはどのようなことをすればいいと思いますか。

121
応答

最新の回答

"楽しいことと現実的なことをどちらも伝える中で、保育職についてる方の実体験の中で..."

"中学生や高校生に対して保育の魅力を伝える機会を大学側から伝えることを積極的..."

...

30回答者 (25%) この質問に 機会回答しました。

A word cloud visualization of responses. The central and largest words are "保育職" (Childcare Job) and "機会" (Opportunity). Other prominent words include "実際" (Actual), "現場" (On-site), "やりがい" (Satisfaction), "声" (Voice), "子ども" (Children), "楽しさ" (Fun), "関係" (Relationship), "SNS" (Social Media), "方" (Person), "お話" (Talk), "幼稚園" (Nursery), "大学" (University), "今回" (This time), "保育士" (Nursery worker), and "魅力" (Appeal). Smaller words include "卒業生" (Graduate), "高校" (High school), and "声" (Voice).

資料 2. 研修・茶話会に参加した OBOG を対象としたアンケート調査の結果

研修・茶話会に参加したOBOGを対象としたアンケート調査の結果

応答の概要 **アクティブ**



1. 研修に参加した日を選択してください。



2. 「保育者研修」の感想とその理由をお聞かせください。



3. その理由をお聞かせください。

32 応答

最新の回答

"塩谷先生のお話は保育者になってから改めて聞くと、こんなことを心にとめながら保…"

"学生のころとはちがいで、就職後に話を伺うことでさらに学びが深まり、保育士として考…"

"保育者としての原点を改めて学び直すことができ、自分自身の保育を振り返ることに…"

…

28回答者 (88%) この質問にご回答しました。

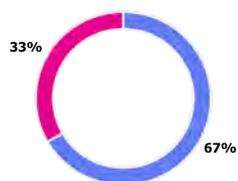
クラス運営 工夫 学び 保護者 支援 日々 学生 来週以降 中野先生 いい機会

目線 お話 子ども さ 関わ 保育 意識

利益 手遊び

8. 今後も保育職に就いているOGOBを対象とした研修会の開催を希望しますか。

● 希望する	24
● どちらかといえば希望する	12
● どちらかといえば希望しない	0
● 希望しない	0



9. 本研修についてご意見やご要望などがございましたらお聞かせください。

14
応答

最新の回答
"本日はありがとうございました。"
...

5回答者 (36%) この質問に 機会 回答しました。



資料3. マスコミへの掲載

OBOG を対象とした研修会・茶話会、養成校生との交流会の様子については、本学のホームページに掲載するとともに、遊育（'24No22）等にも掲載され、教育関係者に広く周知された。

遊育（'24No22）より抜粋

幼稚園教諭が現場の課題と魅力を報告し交流

國學院大學で卒業生を含めたキャリア形成支援

國學院大學は11月16日、卒業した幼稚園教諭等に対しリカレント研修を行うと同時に卒業生の現状を探り、現職との交流を通して学生に魅力を伝えようという「幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発 現職保育者と養成校生の交流会及び現職保育者対象ホームカミングデー」を開催した。卒業生からは、保育以外の事務負担の大変さに首を上げることがあるものの、保育時間は子どもの成長を感じる喜びにあふれているといった感想が寄せられていた。

今回の事業は、文部科学省による「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」の一環。幼稚園教諭の魅力が学生に伝えるとともに、職の魅力向上に向け、現場の課題を抽出し、課題に対応した知見を提供するために行われた。

◎幼稚園教諭の現状報告

同大学人間開発学部子ども支援学科を卒業し、公立幼稚園や認定こども園の幼児クラスを担当する幼稚園教諭19人がグループに分かれ、現場で大変なこと・困っていること、保育者でよかったと思うこと、職を続けるために必要な条件について、大学教員に対し現状を報告した。

公立幼稚園勤務の1年目の卒業生は、子どもと接する時間は楽しいものの園務分掌での負担が多く困難を感じていると吐露。私立幼稚園勤務7年目の卒業生は、園の人間関係が良く楽しく働いてこられたが、今後、結婚しても続けられるかは疑問に思っていることなどを報告した。

◎学生と現職幼稚園教諭との交流

その後、卒業生19人は、実習を控えた2年生と交流。卒業生1人を6人の学生が囲み、実習前に必要な準備や現場での働き方などについて学生たちが率直な疑問をぶつけた。卒業生からは、「遅刻しないように早起きの練習をしたほうが良い」「失敗しても大丈夫だ

から積極的に質問したほうがよい」「大学のサークルで未就園児と触れ合う機会があったことが実習で役立った」「幼稚園では午後や夏休みなど子どもと接しない時間があるが、保育所ではずっと子どもがいるといった違いがある」などとアドバイスしていた。

◎リカレント研修

中野圭祐助教が「クラス集団をどのように作るのか」「ノリ」を共有することから考える」をテーマに講義した。個々の園児との関係づくりの導入として「手遊び」をいかに活用するかについて解説。手遊び歌は、繰り返し部分の「ノリ」を共有しながら、最後の落ちに向けて期待を高める「宙づり」効果があることで園児を楽しくさせる。毎回同じ調子だと面白みが半減するが、アドリブを入れて園児の興味を引く工夫をすると、園児も毎回、ひきつけられる。子どもと過ごす時間を楽しみたいといった気持ちを手遊び歌の工夫につながり、クラスで集まる時間も豊かにすると言及。「せっせ」と言いながら片づけなどのノリの共有が、片付けを楽しく行う際にも活用できることにも触れた。

執筆者一覧

- (研究代表) 吉永 安里 : 第1章、第3章
青木 康太朗 : 第2章 I～III 調査
塩谷 香 : 第2章 III
島田 由紀子 : 第2章 III
鈴木 みゆき : 第2章 I
中野 圭祐 : 第2章 II - 1.
夏秋 英房 : 第2章 III
野澤 純子 : 第2章 I -3.
廣井 雄一 : 第2章 I -2.
柳生 崇志 : 第2章 II -2.
山瀬 範子 : 第2章 III
結城 孝治 : 第2章 I -1.

令和6年度文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

「人と人とのつながりを大切にした多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト」
研究成果報告書

令和7年2月28日発行

編集 國學院大學人間開発学部子ども支援学科
研究代表 吉永 安里

発行 國學院大學
〒225-000 神奈川県横浜市青葉区新石川 3-22-1

印刷 共立印刷株式会社

〒166-0012 東京都杉並区和田 1-14-13

もっと日本を。もっと世界へ。



KOKUGAKUIN Univ.

國學院大學

「人と人とのつながりを大切にしたい多層型幼児教育人材育成・専門性向上プロジェクト」研究成果報告書

國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科

吉永安里